

坂東消防署庁舎建設工事

特 記 仕 様 書

茨城西南地方広域市町村圏事務組合

特 記 仕 様 書 (建築工事)

I 工 事 概 要

1. 工事名 坂東消防署庁舎建設工事
2. 工事場所 茨城県坂東市岩井字西ノ台 267 番 1 外 10 筆(飛び地 3 筆含)
3. 敷地面積 12,899.53 m²(飛び地 330.46 m²含)
4. 建設工事その他概要 (建物名称、構造、階数、建築面積、延べ面積、各階床面積、等)
 - (1) 工事範囲 ※「(2)建物概要」すべて ◎「(2)建物概要」のうち一部
 - (2) 建物概要
(全体)

建物名称	庁舎棟	第2車庫棟	防災倉庫棟	訓練塔 A 塔	訓練塔 B 塔	訓練塔 C 塔	自家給油施設	駐輪場
区 分		別途工事						
構 造	RC 造	S 造	S 造	S 造	S 造	S 造	S 造	アルミ合金造
階 数	地上 2 階	平屋	平屋	地上 5 階	地上 2 階	地上 2 階	平屋	平屋
建築面積	1,449.33 m ²	306.97 m ²	204.20 m ²	76.77 m ²	176.51 m ²	27.80 m ²	7.04 m ²	9.00 m ²
延べ面積	2,214.29 m ²	293.02 m ²	194.40 m ²	257.51 m ²	245.22 m ²	35.60 m ²	21.84 m ²	9.00 m ²

(建物毎の各階床面積 m²)

建物名称	区分	地下階	1階	2階	3階	4階	5階	計
庁舎棟			1,330.40	865.24 m ²	18.65 m ²			2,214.29 m ²
第2車庫棟	別途工事		293.02 m ²					293.02 m ²
防災倉庫棟			194.40 m ²					194.40 m ²
訓練塔 A 塔			55.74 m ²	52.16 m ²	49.87 m ²	49.87 m ²	49.87 m ²	257.51 m ²
訓練塔 B 塔			94.58 m ²	150.64 m ²				245.22 m ²
訓練塔 C 塔			16.80 m ²	18.80 m ²				35.60 m ²
自家給油施設			21.84 m ²					21.84 m ²
駐輪場			9.00 m ²					9.00 m ²

5. 別途工事

第2車庫棟 (建築工事)

(H12. 04. 01 作成)	(H17. 05. 15 改定)	(H25. 05. 15 改定)	(H31. 04. 25 改定)
(H13. 10. 01 改定)	(H17. 10. 01 改定)	(H26. 05. 15 改定)	(R02. 04. 30 改定)
(H14. 05. 30 改定)	(H18. 05. 15 改定)	(H27. 05. 15 改定)	(R03. 04. 30 改定)
(H15. 06. 01 改定)	(H19. 07. 01 改定)	(H28. 04. 25 改定)	(R04. 05. 15 改定)
(H15. 09. 01 改定)	(H23. 06. 01 改定)	(H29. 04. 25 改定)	(R05. 05. 15 改定)
(H16. 05. 15 改定)	(H24. 06. 01 改定)	(H30. 04. 25 改定)	

Ⅱ 建築工事仕様

- (1) 図面及び本特記仕様に記載されていない事項は、国土交通省大臣官房官庁営繕部制定の下記仕様書等のうち、
◎を付けたものを適用する。
◎公共建築工事標準仕様書（建築工事編）（令和４年版）（以下、「標準仕様書」という。）
◎建築工事標準詳細図（令和４年版）（以下、「標準詳細図」という。）
・建築物解体工事共通仕様書（令和４年版）
- (2) 電気設備工事及び機械設備工事を本工事に含む場合は、電気設備工事及び機械設備工事は、それぞれの工事
特記仕様書を適用する。
- (3) 本特記仕様書の表記
- 1) 項目は、番号に□のついたものを適用する。
- 2) 特記事項は、◎印の付いたものを適用する。・印のみの場合は適用しない。
◎印の付かない場合は、※印の付いたものを適用する。
◎印と☒印の付いた場合は、共に適用する。
- 3) 特記事項に記載の（ ）内表示番号は、標準仕様書の当該項目、当該図及び当該表を示す。

章	項 目	特 記 事 項
1 各章共通事項	1 適用区分	<ul style="list-style-type: none"> ・ 建築基準法に基づき定まる風圧力及び積雪荷重の算定には次の条件を用いる。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 風圧力 風速 ($V_0 = 34 \text{ m/s}$) 地表面粗度区分 (・ I ・ II ◎III ・ IV) ・ 積雪荷重 平成 12 年 5 月 31 日建設省告示第 1455 号における区域 別表 (24)
	2 環境への配慮	<p style="text-align: right;">(1.4.1)</p> <p>(1) 建築物内部に使用する材料等は、設計図書に規定する所要の品質及び性能を有すると共に、次の①から④を満たすものとする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 合板、木質系フローリング、構造用パネル、集成材、単板積層材、MDF、パーティクルボード、その他の木質建材、ユリア樹脂板、壁紙、接着剤、保温材、緩衝材、断熱材、塗料、仕上塗材は、アセトアルデヒド及びスチレンを発生しない又は発生が極めて少ない材料で、設計図書に規定する「ホルムアルデヒドの放散量」の区分に応じた材料を使用する。 ② 接着剤及び塗料は、トルエン、キシレン及びエチルベンゼンの含有量が少ない材料を使用する。 ③ 接着剤は、可塑剤（フタル酸ジ-n-ブチル及びフタル酸ジ-2-エチルヘキシル等を含有しない難揮発性の可塑剤を除く）が添加されていない材料を使用する。 ④ ①の材料等を使用して作られた家具、書架、実験台、その他の什器類は、ホルムアルデヒド、アセトアルデヒド及びスチレンを発生しないか、発生が極めて少ない材料を使用したものとする。 <p>(2) 設計図書に規定する「ホルムアルデヒドの放散量」の区分において、「規制対象外」とは次の①又は②に該当する材料を指し、同区分「第三種」とは次の③又は④に該当する材料を指す。</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 建築基準法施行令第 20 条の 7 第 1 項に定める第一種、第二種及び第三種ホルムアルデヒド発生建築材料以外の材料 ② 建築基準法施行令第 20 条の 7 第 4 項の規定により国土交通大臣の認定を受けた材料 ③ 建築基準法施行令第 20 条の 7 第 1 項に定める第三種ホルムアルデヒド発生建築材料 ④ 建築基準法施行令第 20 条の 7 第 3 項の規定により国土交通大臣の認定を受けた材料

章	項 目	特 記 事 項
	<div data-bbox="229 132 427 163"> <div data-bbox="229 132 261 163">3</div> 材料の品質等 </div>	<div data-bbox="1394 132 1474 163">(1.4.2)</div> <div data-bbox="560 170 1485 1473"> <p>(1) 本工事に使用する材料は、設計図書に定める品質及び性能の他、通常有すべき品質及び性能を有するものとする。</p> <p>(2) 備考欄に商品名が記載された材料は、当該商品又は同等品を使用するものとし、同等品を使用する場合は監督員の承諾を受ける。</p> <p>(3) 標準仕様書に記載されていない特別な材料の工法については、材料製造所の指定する工法とする。</p> <p>(4) 本工事に使用する材料のうち、(5)に指定する材料の製造業者等は、次の①から⑥のすべての事項を満たすものとし、その証明となる資料（外部機関が発行する証明書の写し等）を監督員に提出して承諾を受ける。ただし、あらかじめ監督員の承諾を受けた場合はこの限りでない。</p> <div data-bbox="584 512 1315 712"> <p>① 品質及び性能に関する試験データを整備していること。</p> <p>② 生産施設及び品質の管理を適切に行っていること。</p> <p>③ 安定的な供給が可能であること。</p> <p>④ 法令等で定める許可、認可、認定又は免許を取得していること。</p> <p>⑤ 製造又は施工の実績があり、その信頼性があること。</p> <p>⑥ 販売、保守等の営業体制を整えていること。</p> </div> <p>(5) 製造業者等に関する資料の提出を求める材料</p> <p>床型枠用鋼製デッキプレート、鉄骨柱下無収縮モルタル、無収縮グラウト材、乾式保護材、既調合モルタル、既調合目地材、ルーフトレン、吸水調整剤、錠前類、クローザ類、自動ドア機構、自閉式上吊り引戸機構、重量シャッター、軽量シャッター、オーバーヘッドドア、防水剤、現場発泡断熱材、フリーアクセスフロア、可動間仕切、移動間仕切、トイレブース、天井点検口、床点検口、グレーチング、屋上緑化システム、トップライト、ポリマーセメントモルタル、鋳鉄製ふた</p> <p>(6) 「茨城県リサイクル建設資材評価認定制度」で認定されたリサイクル建設資材については、茨城県リサイクル建設資材率先利用指針により率先利用に努めるものとする。</p> <p>また、「国等による環境物品等の調達の推進等に関する法律（平成12年法律第100号）」に基づく「令和5年度茨城県グリーン購入推進方針」に定める「特定調達品目」の判断基準等を満たす環境物品等を選択するよう努めるものとする。</p> <p>(7) (1) から (6) を満たすものが県産品で確保できる場合には、その優先使用に努めるものとする。県産品とは、「茨城県内で生産されたもの、又は加工し製品化されたもの」とする。</p> <p>なお、県産品のうち木材については、県内の森林から合法的に産出された木材を使用することとし、「いばらき優良木材証明制度」に基づく証明書など、県産木材であることが確認できる資料を提出して監督員の承諾を受けることとする。</p> </div>

章	項 目	特 記 事 項																														
	4 室内空気中の 化学物質の濃度測定	<div>(1.5.9)</div> <p>室内空気中のホルムアルデヒド、トルエン、キシレン、エチルベンゼン、スチレン（学校施設については、パラジクロロベンゼンに対しても対象とする。）の濃度を測定し、測定結果を監督員に報告すること。</p> <p>採取方法及び測定方法は、厚生労働省が示した室内空気中化学物質の標準的な方法とし、ホルムアルデヒドの測定方法は、ジニトロフェニルヒドラジン（DNPH）誘導体化固相吸着／溶媒抽出－高速液体クロマトグラフ法により、その他の揮発性有機化合物の測定方法は、固相吸着／溶媒抽出法とガスクロマトグラフ／質量分析法の組み合わせにより行い、パッシブ型採取機器により行うこと。</p> <p>測定対象室は、平成 15 年 4 月 1 日通知「官庁営繕部における平成 15 年度からのホルムアルデヒド等の室内空気中の化学物質の抑制に関する措置について」に準じ、下表の数を標準とする。（指針値は、付記事項の 7 を参照）</p> <table><tr><td>室の床面積 A(㎡)</td><td>A≤50</td><td>50<A≤200</td><td>200<A≤500</td><td>500<A</td></tr><tr><td>測定箇所数</td><td>1</td><td>2</td><td>3</td><td>4</td></tr></table> <p>室内空気中の化学物質の濃度測定対象室箇所数表</p> <table><tr><td>室名（測定対象室）</td><td>床面積</td><td>測定箇所数</td><td>区分</td></tr><tr><td>庁舎棟</td><td></td><td>17</td><td></td></tr><tr><td>第二車庫棟</td><td></td><td>1</td><td></td></tr><tr><td>訓練塔 A</td><td></td><td>2</td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td></tr></table> <p>◎化学物質の濃度測定は、全て庁舎建設工事にて実施する。</p>	室の床面積 A(㎡)	A≤50	50<A≤200	200<A≤500	500<A	測定箇所数	1	2	3	4	室名（測定対象室）	床面積	測定箇所数	区分	庁舎棟		17		第二車庫棟		1		訓練塔 A		2					
室の床面積 A(㎡)	A≤50	50<A≤200	200<A≤500	500<A																												
測定箇所数	1	2	3	4																												
室名（測定対象室）	床面積	測定箇所数	区分																													
庁舎棟		17																														
第二車庫棟		1																														
訓練塔 A		2																														
	5 リサイクルの 優先順位	(1)発生抑制の徹底 (2)現場分別の徹底 (3)再使用の徹底 (4)再資源化・再生資材利用の徹底 (5)適正処理の徹底 (再資源化に係る作成書類は、付記事項の 6 を参照)																														
	6 発生材の処理等	・発注者に引渡しを要するもの ・なし ・あり 処理方法（ ） ・特別管理産業廃棄物 ・なし ・あり 処理方法（ ） ・現場での再利用を図るもの ・なし ・あり 品 目（ ）																														

章	項 目	特 記 事 項																																																																																			
	7 技能士	(1.5.2)																																																																																			
		<table> <tr> <th>工事項目</th><th>技能検定職種</th><th>技能検定作業</th></tr> <tr> <td>仮設工事</td><td>とび</td><td>◎とび作業</td></tr> <tr> <td>土工事</td><td>ウェル・イント施工</td><td>・ウェル・イント工事作業</td></tr> <tr> <td>鉄筋工事</td><td>鉄筋施工</td><td>◎鉄筋組立て作業</td></tr> <tr> <td rowspan="2">コンクリート工事</td><td>型枠施工</td><td>◎型枠工事作業</td></tr> <tr> <td>コンクリート圧送施工</td><td>◎コンクリート圧送工事作業</td></tr> <tr> <td rowspan="2">鉄骨工事</td><td>鉄工</td><td>◎構造物鉄工作業</td></tr> <tr> <td>とび</td><td>◎とび作業</td></tr> <tr> <td rowspan="2">コンクリートブロック・ALC パネル・押出成形セメント板工事</td><td>ブロック建築</td><td>・コンクリートブロック工事作業</td></tr> <tr> <td>E-ILシーパネル施工</td><td>◎E-ILシーパネル工事作業</td></tr> <tr> <td>防水工事</td><td>防水施工</td><td> ◎アスファルト防水工事作業 ◎ウレタンゴム系塗膜防水工事作業 ・アクリルゴム系塗膜防水工事作業 ・合成ゴム系シート防水工事作業 ・塩化ビニル系シート防水工事作業 ・セメント系防水工事作業 ◎シーリング防水工事作業 ・改質アスファルトシート工法防水工事作業 ・改質アスファルトシート常温粘着工法防水工事作業 ◎FRP防水工事作業 </td></tr> <tr> <td>石工事</td><td>石材施工</td><td>・石張り作業</td></tr> <tr> <td>タイル工事</td><td>タイル張り</td><td>・タイル張り作業</td></tr> <tr> <td>木工事</td><td>建築大工</td><td>◎大工工事作業</td></tr> <tr> <td rowspan="2">屋根及びとい工事</td><td>建築板金</td><td>◎内外装板金作業</td></tr> <tr> <td>かわらぶき</td><td>・かわらぶき作業</td></tr> <tr> <td rowspan="2">金属工事</td><td>内装仕上施工</td><td>◎鋼製下地工事作業</td></tr> <tr> <td>建築板金</td><td>◎内外装板金作業</td></tr> <tr> <td>左官工事</td><td>左官</td><td>◎左官作業</td></tr> <tr> <td rowspan="3">建具工事</td><td>サッシ施工</td><td>◎ビル用サッシ施工作業</td></tr> <tr> <td>ガラス施工</td><td>◎ガラス工事作業</td></tr> <tr> <td>自動ドア施工</td><td>◎自動ドア施工作業</td></tr> <tr> <td rowspan="3">カーテンウォール工事</td><td>カーテンウォール施工</td><td>・金属製カーテンウォール工事作業</td></tr> <tr> <td>サッシ施工</td><td>・ビル用サッシ施工作業</td></tr> <tr> <td>ガラス施工</td><td>・ガラス工事作業</td></tr> <tr> <td>塗装工事</td><td>塗装</td><td>◎建築塗装作業</td></tr> <tr> <td rowspan="2">内装工事</td><td>内装仕上施工</td><td> ◎プラスチック系床仕上げ工事作業 ◎カーペット系床仕上げ工事作業 ◎木質系床仕上げ工事作業 ◎ボード仕上げ工事作業 ・化粧フィルム工事作業 </td></tr> <tr> <td>表装</td><td>◎壁装作業</td></tr> <tr> <td>排水工事</td><td>配管</td><td>◎建築配管作業</td></tr> <tr> <td>舗装工事</td><td>路面標示施工</td><td>◎溶融ペイントハンドマーカール工事作業 ・加熱ペイントマシンマーカール工事作業</td></tr> <tr> <td>植栽工事</td><td>造園</td><td>・造園工事作業</td></tr> </table>	工事項目	技能検定職種	技能検定作業	仮設工事	とび	◎とび作業	土工事	ウェル・イント施工	・ウェル・イント工事作業	鉄筋工事	鉄筋施工	◎鉄筋組立て作業	コンクリート工事	型枠施工	◎型枠工事作業	コンクリート圧送施工	◎コンクリート圧送工事作業	鉄骨工事	鉄工	◎構造物鉄工作業	とび	◎とび作業	コンクリートブロック・ALC パネル・押出成形セメント板工事	ブロック建築	・コンクリートブロック工事作業	E-ILシーパネル施工	◎E-ILシーパネル工事作業	防水工事	防水施工	◎アスファルト防水工事作業 ◎ウレタンゴム系塗膜防水工事作業 ・アクリルゴム系塗膜防水工事作業 ・合成ゴム系シート防水工事作業 ・塩化ビニル系シート防水工事作業 ・セメント系防水工事作業 ◎シーリング防水工事作業 ・改質アスファルトシート工法防水工事作業 ・改質アスファルトシート常温粘着工法防水工事作業 ◎FRP防水工事作業	石工事	石材施工	・石張り作業	タイル工事	タイル張り	・タイル張り作業	木工事	建築大工	◎大工工事作業	屋根及びとい工事	建築板金	◎内外装板金作業	かわらぶき	・かわらぶき作業	金属工事	内装仕上施工	◎鋼製下地工事作業	建築板金	◎内外装板金作業	左官工事	左官	◎左官作業	建具工事	サッシ施工	◎ビル用サッシ施工作業	ガラス施工	◎ガラス工事作業	自動ドア施工	◎自動ドア施工作業	カーテンウォール工事	カーテンウォール施工	・金属製カーテンウォール工事作業	サッシ施工	・ビル用サッシ施工作業	ガラス施工	・ガラス工事作業	塗装工事	塗装	◎建築塗装作業	内装工事	内装仕上施工	◎プラスチック系床仕上げ工事作業 ◎カーペット系床仕上げ工事作業 ◎木質系床仕上げ工事作業 ◎ボード仕上げ工事作業 ・化粧フィルム工事作業	表装	◎壁装作業	排水工事	配管	◎建築配管作業	舗装工事	路面標示施工	◎溶融ペイントハンドマーカール工事作業 ・加熱ペイントマシンマーカール工事作業	植栽工事	造園	・造園工事作業
工事項目	技能検定職種	技能検定作業																																																																																			
仮設工事	とび	◎とび作業																																																																																			
土工事	ウェル・イント施工	・ウェル・イント工事作業																																																																																			
鉄筋工事	鉄筋施工	◎鉄筋組立て作業																																																																																			
コンクリート工事	型枠施工	◎型枠工事作業																																																																																			
	コンクリート圧送施工	◎コンクリート圧送工事作業																																																																																			
鉄骨工事	鉄工	◎構造物鉄工作業																																																																																			
	とび	◎とび作業																																																																																			
コンクリートブロック・ALC パネル・押出成形セメント板工事	ブロック建築	・コンクリートブロック工事作業																																																																																			
	E-ILシーパネル施工	◎E-ILシーパネル工事作業																																																																																			
防水工事	防水施工	◎アスファルト防水工事作業 ◎ウレタンゴム系塗膜防水工事作業 ・アクリルゴム系塗膜防水工事作業 ・合成ゴム系シート防水工事作業 ・塩化ビニル系シート防水工事作業 ・セメント系防水工事作業 ◎シーリング防水工事作業 ・改質アスファルトシート工法防水工事作業 ・改質アスファルトシート常温粘着工法防水工事作業 ◎FRP防水工事作業																																																																																			
石工事	石材施工	・石張り作業																																																																																			
タイル工事	タイル張り	・タイル張り作業																																																																																			
木工事	建築大工	◎大工工事作業																																																																																			
屋根及びとい工事	建築板金	◎内外装板金作業																																																																																			
	かわらぶき	・かわらぶき作業																																																																																			
金属工事	内装仕上施工	◎鋼製下地工事作業																																																																																			
	建築板金	◎内外装板金作業																																																																																			
左官工事	左官	◎左官作業																																																																																			
建具工事	サッシ施工	◎ビル用サッシ施工作業																																																																																			
	ガラス施工	◎ガラス工事作業																																																																																			
	自動ドア施工	◎自動ドア施工作業																																																																																			
カーテンウォール工事	カーテンウォール施工	・金属製カーテンウォール工事作業																																																																																			
	サッシ施工	・ビル用サッシ施工作業																																																																																			
	ガラス施工	・ガラス工事作業																																																																																			
塗装工事	塗装	◎建築塗装作業																																																																																			
内装工事	内装仕上施工	◎プラスチック系床仕上げ工事作業 ◎カーペット系床仕上げ工事作業 ◎木質系床仕上げ工事作業 ◎ボード仕上げ工事作業 ・化粧フィルム工事作業																																																																																			
	表装	◎壁装作業																																																																																			
排水工事	配管	◎建築配管作業																																																																																			
舗装工事	路面標示施工	◎溶融ペイントハンドマーカール工事作業 ・加熱ペイントマシンマーカール工事作業																																																																																			
植栽工事	造園	・造園工事作業																																																																																			
	8 施工図等の取扱い	施工図等の著作権に係わる当該建築物に限る使用权は、発注者に委譲するものとする。																																																																																			
	9 設備工事との取合い	設備機器の位置取り合い等の検討できる施工図（総合図）を提出して、監督員の承諾を受ける。建物内部は設備配管、外構については埋設配管・側溝・雨水抑制施設等の配置及びレベルを施工図に記すること。																																																																																			
	10 他工事又は他工種との取合い	工事区分表による。これにより難しい場合は監督員と協議する。																																																																																			

章	項 目	特 記 事 項
	11 契約直後・施工中の提出書類	<p>契約書、標準仕様書、改修標準仕様書及び本項以外で提出を求めている書類の他、契約時又は施工中に以下の書類を監督員に提出する。</p> <p>契約直後に提出する書類</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コリンズへの登録が確認できる書類（付記事項2参照） ※火災保険等（法定外の労災保険を含む）に加入したことを証明できる書類 ・建設業退職金共済組合証紙購入状況報告書の写し ※その他 監督員が必要と認め、指示した書類及び部数 <p>施工中に提出する書類</p> <ul style="list-style-type: none"> ※施工体制台帳の写し ※施工体系図の写し ※規格品証明書（原品証明書、同等品試験証明書、試験成績書等） ◎鉄筋圧接部の外観試験報告書 ◎鉄筋圧接部の超音波探傷試験報告書又は引張試験報告書 <ul style="list-style-type: none"> ・機械式継手部の試験結果報告書 ・溶接継手部の試験結果報告書 ◎フレッシュコンクリート試験報告書（監督員の承諾を受けたものを除く） ◎コンクリート強度試験報告書（監督員の承諾を受けたものを除く） ◎構造体コンクリートにおける部材の位置及び断面寸法の許容差出来高管理記録 ◎鉄骨工事における建入れ施工管理記録 <ul style="list-style-type: none"> ・シーリング試験結果報告書（試験成績書） ・タイル工事における接着力試験報告書 ・木材の含水率試験報告書 ・防腐、防蟻処理（証明書等） ・あと施工アンカー引張試験結果報告書（監督員の承諾を受けたものを除く） ・カーテンウォール工事における品質管理記録 ◎舗装工事における各種試験結果記録 ◎工事実績情報の登録内容確認書の写し ◎産業廃棄物処理関係書類（産業廃棄物運搬委託契約書及び許可書の写し、産業廃棄物処理委託契約書及び許可書の写し等） ◎産業廃棄物管理票（マニフェスト）の写し ◎室内空気中に含まれる化学物質の濃度測定報告書 ※建設副産物実態調査に関する出力調査票 ※その他 監督員が必要と認め、指示した書類及び部数

章	項 目	特 記 事 項																				
	12 完成時の提出書類	<div>(1.7.1～1.7.3) (表 1.7.1)</div> <div>契約書、標準仕様書、改修標準仕様書及び本項以外で提出を求めている書類の他、完成時に以下の書類を監督員に提出する。</div> <div>※完成図</div> <div>※作成する</div> <div>提出書類及び部数</div> <div><div>・原図（・A1 ・A2 ・A3）</div><div>部数 1 部</div><div>※製本（・A1 ・A2 ※A3）</div><div>部数 2 部</div><div>※CAD データ（JWW 形式）</div><div>部数 CD-R（2 枚）</div><div>・作成しない</div></div> <div>※写真</div> <table><tr><th>適用</th><th>内容</th><th>枚数</th><th>提出方式</th><th>部数</th></tr><tr><td>※</td><td>工事写真</td><td>適宜</td><td>電子データ（JPEG 形式）</td><td>CD-R（2 枚）</td></tr><tr><td>※</td><td>完成写真（支払用：内外観）</td><td>各 2 枚以上</td><td>A4 版</td><td>1 部</td></tr><tr><td><div>□</div></td><td>完成写真</td><td>適宜</td><td>◎カー印画紙キャビネット用綴じ ◎電子データ</td><td>◎2 部 ◎CD-R（2 枚）</td></tr></table> <div>カー印画紙キャビネット用綴じは黒表紙金文字入りでサイズはH320 X W300 程度とする</div> <div>完成写真（カー印画紙キャビネット用綴じ）の撮影業者</div> <div>※建築完成写真の撮影実績のある者で、監督員が承諾する撮影業者</div> <div>完成写真 カット数 ◎ 60 カット以上</div> <div>※保全に関する資料 部数 ※1 部</div> <div>※防水保証書（9-1. 2. 3. 4 は 10 年） 部数 ※1 部</div> <div>・コリンズへの完成登録が確認できる書類（付記事項 2 参照）</div> <div>※その他 監督員が必要と認め、指示した書類及び部数</div>	適用	内容	枚数	提出方式	部数	※	工事写真	適宜	電子データ（JPEG 形式）	CD-R（2 枚）	※	完成写真（支払用：内外観）	各 2 枚以上	A4 版	1 部	<div>□</div>	完成写真	適宜	◎カー印画紙キャビネット用綴じ ◎電子データ	◎2 部 ◎CD-R（2 枚）
	適用	内容	枚数	提出方式	部数																	
※	工事写真	適宜	電子データ（JPEG 形式）	CD-R（2 枚）																		
※	完成写真（支払用：内外観）	各 2 枚以上	A4 版	1 部																		
<div>□</div>	完成写真	適宜	◎カー印画紙キャビネット用綴じ ◎電子データ	◎2 部 ◎CD-R（2 枚）																		
13 引渡物	<div>※鍵は 1 カ所につき、3 個を 1 組とし、プラスチック札に室名を記入して提出する。</div> <div>※マスター鍵は、1 組 3 個とし、木製及び金属製建具共通とする。</div> <div>※スチール製キーボックス</div> <div>※第 2 車庫建設の錠は、庁舎建設工事のマスター鍵との調整を行う。</div>																					
14 埋蔵文化財	<div>※文化財保護法に基づく周知の埋蔵文化財包蔵地内</div> <div>※掘削作業に際しては、工事立会、試掘確認調査等を要する。施工にあたっては、あらかじめ、工事日程、掘削範囲図及び掘削断面図等を作成の上、監督員、施設管理担当、教育庁文化課担当と協議を行うこと。</div> <div>※掘削作業に際しては、慎重に施工のこと。施工にあたり、文化財その他の埋蔵物を発見した場合は、直ちにその状況を監督員に報告すること。</div>																					

章	項 目	特 記 事 項
2 仮設工事	1 足場等	(2.2.4) 「手すり先行工法に関するガイドライン」に基づく足場の設置に当たっては、同ガイドラインの別紙1「手すり先行工法による足場の組立て等に関する基準」における2の(2)手すり据置き方式又は(3)手すり先行専用足場方式により行う。
	2 監督員事務所	(2.3.1) ◎設ける 規模： 30 m ² 程度 仕上げの程度： 程度 備え付ける備品： ◎机 4 脚 ◎椅子 6 脚 ◎ロッカー 2 台 ◎書棚 2 台 ◎ホワイトボード ・ 製図板 ◎掛時計 ◎寒暖計 ◎ゴム長靴 ◎雨合羽 ◎保護帽 ◎懐中電灯 ◎安全帯 ◎受託者加入電話の子機 ◎暖冷房機 ◎消火器 ・ 湯沸器 ・ 掃除具 ◎その他 (パソコンが使用できる環境) ※設けない
	3 工事用水	構内既存の施設 ◎なし ・ あり (・ 利用できる (有償) ・ 利用できない)
	4 工事用電力	構内既存の施設 ◎なし ・ あり (・ 利用できる (有償) ・ 利用できない)
	5 工事看板	(2.3.1) ※設置する 設置の場所 (◎ 道路から見通しの良い場所) 記載事項 (※工事番号 ※工事名称 ※発注者 ※設計者 ※監理者 ※工期 ※施工者) 大きさ (※H900mm×W1800mm 程度 ・) ・ 設置しない

章	項 目	特 記 事 項											
3 土工事	1 埋戻し及び盛土	(3.2.3) 材料及び工法 ※標準仕様書表 3.2.1 による 種別 ・ A種 適用場所 () ◎B種 適用場所 () ・ C種 適用場所 () 土質 () 受渡場所 () ・ D種 適用場所 () 品質 細粒分(75μm 以下)の含有率(重量百分率)の上限を 50%未満とする。 六価クロム溶出試験 ・ 行う ・ 行わない ・ 材料 () 工法 ()											
	2 建設発生土の処理	(3.2.5) ☒構外搬出適切処理 ・ 構内指示の場所に堆積 ・ 構内指示の場所に敷き均し 構外搬出の場合は、原則として 50km 範囲内の他の建設工事へ搬出するものとする。 なお、他の工事との受け入れ時期及び土質等の調整が困難である場合は、別の処分場（ストックヤードを含む）に搬出することを妨げない。 ※建設発生土の再利用 <table><tr><th>処理方法</th><th>搬出先</th></tr><tr><td>・ 現場内利用</td><td>仮置き場所住所 () 借地 ・ 有り ・ 無し</td></tr><tr><td>・ 工事間流用</td><td>相手工事番号及び名称 () 住所 ()</td></tr><tr><td>・ 捨土 (公共用地)</td><td>管理者名 () 住所 ()</td></tr><tr><td>・ スtockヤード</td><td>ストックヤードの名称 () 住所 ()</td></tr><tr><td>・ 未確定</td><td>相手工事番号及び名称 () (予定) 住所 ()</td></tr></table> 土質 ・ ローム ・ シルト ・ 砂質土 ・ レキ質土 ・ 土量 m ³ (地山換算土量) 片道運搬距離 km 条件 (昼夜間の別、大型車規制、伝票の使用、法律・条例等) ・ 現場内利用を行う場合、現場外に仮置き場を設けて時期調整を行い、周辺環境に配慮し必要な措置を講じること。 工事間流用を行う場合、相手工事の受注者と綿密に協議を行うこと。 工事間流用、捨土の場合、搬出手続き等は監督員の指示による。 ストックヤードに搬出する場合は、付記事項の 3 を参照。	処理方法	搬出先	・ 現場内利用	仮置き場所住所 () 借地 ・ 有り ・ 無し	・ 工事間流用	相手工事番号及び名称 () 住所 ()	・ 捨土 (公共用地)	管理者名 () 住所 ()	・ スtockヤード	ストックヤードの名称 () 住所 ()	・ 未確定
処理方法	搬出先												
・ 現場内利用	仮置き場所住所 () 借地 ・ 有り ・ 無し												
・ 工事間流用	相手工事番号及び名称 () 住所 ()												
・ 捨土 (公共用地)	管理者名 () 住所 ()												
・ スtockヤード	ストックヤードの名称 () 住所 ()												
・ 未確定	相手工事番号及び名称 () (予定) 住所 ()												

章	項 目	特 記 事 項						
	3 建設汚泥	<p>※工事現場から 50m 範囲内に再資源化施設があるときは、原則として再資源化施設に搬出するものとする。</p> <p>なお、工事現場から 50km 以内に再資源化施設がない場合においては、焼却施設、脱水施設や乾燥施設に搬出し減量化を行うものとする。</p> <table><tr><th>処理方法</th><th>搬出先</th></tr><tr><td>・再資源化施設</td><td>施設名称 () 施設住所 ()</td></tr><tr><td>・他工事に搬出 (個別指定制度)</td><td>利用方法() 相手工事番号及び名称 番号、名称 () 住所 () 相手工事受注者 名称 () 住所 () TEL () 処理施設の設置箇所 () 処理施設の処理能力等 ()</td></tr></table> <p>搬出量 m³ (地山換算数量) 片道運搬距離 km 搬出条件 (昼夜間の別、大型車規制、伝票の使用、法令・条例、改良の度合等)</p> <p>・</p> <p>上記の再資源化施設を指定するものでないが、上記以外の再資源化施設へ搬出する場合は、事前に監督員と協議し承諾を得ること。</p> <p>他工事に搬出する場合、処理施設の設置、個別指定制度の指定を受ける手続きが必要となるため、事前に監督員と十分に協議し、環境部局等に関係法令の手続きを行うこと。</p>	処理方法	搬出先	・再資源化施設	施設名称 () 施設住所 ()	・他工事に搬出 (個別指定制度)	利用方法() 相手工事番号及び名称 番号、名称 () 住所 () 相手工事受注者 名称 () 住所 () TEL () 処理施設の設置箇所 () 処理施設の処理能力等 ()
	処理方法	搬出先						
・再資源化施設	施設名称 () 施設住所 ()							
・他工事に搬出 (個別指定制度)	利用方法() 相手工事番号及び名称 番号、名称 () 住所 () 相手工事受注者 名称 () 住所 () TEL () 処理施設の設置箇所 () 処理施設の処理能力等 ()							
	4 山留の撤去	(3.3.3) <p>鋼矢板等の抜き後の処理 ※直ちに砂で充填する ・ 山留めの存置 ・行う (存置範囲 ※図示 ・)</p>						
	5 整 地	跡地はブルドーザー等による整地を行う						

章	項 目		特 記 事 項																																																																																													
4 地業工事	1	支持地盤	(4.2.1) (4.3.4) (4.3.5) (4.5.5) (4.5.6)																																																																																													
			<div>◎杭基礎</div> <div>支持地盤の位置及び土質（基礎ぐいの先端の位置含む）</div> <div>◎図示による（ 共通 S-013, 014, AS-001, BS-005, CS-001 ）</div> <div>(4.2.1)</div> <div>◎直接基礎</div> <div>支持地盤の位置及び土質（基礎底部の位置含む）</div> <div>◎図示による（ DS-001 ）</div> <div>試験掘り（根切り底の状態の確認等）</div> <div>(3.2.1)</div> <div>◎行わない</div> <div>・行う</div> <div>位置等</div> <div>◎図示による（ DS-001 ）</div> <div>(4.2.4)</div> <div>◎地盤の載荷試験</div> <div>載荷試験の方法等</div> <div>◎地盤工学会基準 JGS 1521 による</div> <div>試験の位置、積載荷重</div> <div>◎図示による（ DS-001 ）</div>																																																																																													
	2	既製コンクリート杭地業	(4.3.3)																																																																																													
			<div>種類</div> <div>◎遠心力高強度プレストレストコンクリート杭（PHC 杭）</div> <div>◎プレストレスト鉄筋コンクリート杭（PRC 杭）</div> <div>◎外殻鋼管付きコンクリート杭（SC 杭）</div> <div>SC 杭の鋼管材料</div> <div>・ SKK400</div> <div>・ SKK490</div> <div>・</div> <div>(4.2.2) (4.3.3)</div> <div>寸法、継手、性能等（種別：種類、性能及び曲げ強度区分）</div> <table><tr><th colspan="2"></th><th>種類</th><th>コンクリート強度 (N/mm²)</th><th>鋼管厚 (mm)</th><th>杭径 (mm)</th><th>杭長 (m)</th><th>継手数</th><th>セツト数</th><th>長期設計 支持力 (kN/本)</th><th>備考</th></tr><tr><td rowspan="3">試験杭</td><td>上杭</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>中杭</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>下杭</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td rowspan="3">本杭</td><td>上杭</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>中杭</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>下杭</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td>図示</td><td colspan="9">AS-001、CS-001 による</td></tr></table> <div>(4.3.3)</div> <div>杭先端部形状</div> <div>◎開放形</div> <div>・ 半開放形</div> <div>・ 閉そく形</div> <div>・</div> <div>(4.2.2) (4.3.1) (4.3.4)</div> <div>・ セメントミルク工法</div> <div>試験杭</div> <div>試験杭の位置</div> <div>・ 図示による（ ）</div> <div>・</div> <div>掘削深さ</div> <div>・ 図示による（ ）</div> <div>・</div> <div>杭の支持層への根入れ深さ</div> <div>・ 図示による（ ）</div> <div>・</div> <div>杭の精度</div> <div>水平方向への位置ずれ</div> <div>・ 杭径の 1/4 かつ 100mm 以下</div> <div>・</div> <div>杭の傾斜</div> <div>・ 1/100 以内</div> <div>・</div>												種類	コンクリート強度 (N/mm ²)	鋼管厚 (mm)	杭径 (mm)	杭長 (m)	継手数	セツト数	長期設計 支持力 (kN/本)	備考	試験杭	上杭										中杭										下杭										本杭	上杭										中杭										下杭											図示	AS-001、CS-001 による								
		種類	コンクリート強度 (N/mm ²)	鋼管厚 (mm)	杭径 (mm)	杭長 (m)	継手数	セツト数	長期設計 支持力 (kN/本)	備考																																																																																						
試験杭	上杭																																																																																															
	中杭																																																																																															
	下杭																																																																																															
本杭	上杭																																																																																															
	中杭																																																																																															
	下杭																																																																																															
	図示	AS-001、CS-001 による																																																																																														

章	項 目	特 記 事 項
		<p>(4. 2. 2) (4. 3. 1) (4. 3. 5)</p> <p>◎特定埋込杭工法</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ H13 国土交通省告示第 1113 号第 6 による地盤の許容支持力式で $\alpha=250$ を採用できる工法 <p>◎H13 国土交通省告示第 1113 号第 6 による地盤の許容支持力式の内 α、β、γが下記の値を採用できる工法</p> <p>$\alpha=(300)$、$\beta=(8.0, 9.5w)$、$\gamma=(0.9, 1.0w)$</p> <p>工法</p> <ul style="list-style-type: none"> ◎プレボーリング拡大根固め工法 <ul style="list-style-type: none"> ・ 中掘り拡大根固め工法 <p>杭周固定液</p> <ul style="list-style-type: none"> ◎使用する ・ 使用しない <p>試験杭</p> <p>試験杭の位置</p> <ul style="list-style-type: none"> ◎図示による (AS-001、CS-001) ・ <p>杭の支持層への根入れ深さ</p> <ul style="list-style-type: none"> ◎図示による (共通 S-013, 014) ・ <p>杭の精度</p> <p>水平方向の位置ずれ</p> <p>※評定等の評価内容による</p> <p>杭の傾斜</p> <p>※評定等の評価内容による</p> <p>(4. 3. 3) (4. 3. 6) (7. 2. 5)</p> <p>杭の継手の工法</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ アーク溶接継手 <p>溶接材料</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 標準仕様書 7. 2. 5(1) (2)による ・ <p>◎機械式継手</p> <p>工法</p> <p>※評定等を受けた工法</p> <p>検査</p> <p>※評定等により定められた項目</p> <p>施工</p> <p>※評定等をされた施工管理基準による</p> <p>(4. 3. 8)</p> <p>杭頭の処理等</p> <ul style="list-style-type: none"> ◎処理しない ・ 処理する <p>処理方法 (切断にともなう補強方法含む)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 図示による () ・ <p>(4. 3. 8)</p> <p>杭頭の中詰め材料</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 基礎のコンクリートと同調合のもの ・

章	項 目	特 記 事 項																																																																				
	3 鋼杭地業	(4. 2. 2) (4. 4. 3) (4. 4. 5) 材料、寸法、継手等 <table><tr><th></th><th>種類</th><th>厚さ (mm)</th><th>杭径 (mm)</th><th>杭長 (m)</th><th>継手数</th><th>セツ数</th><th>長期設計支 持力 (kN/本)</th><th>備考</th></tr><tr><td rowspan="3">試験杭</td><td>上杭</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>中杭</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>下杭</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td rowspan="3">本杭</td><td>上杭</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>中杭</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>下杭</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td>図示</td><td colspan="7">BS-006、CS-001 による</td></tr></table> (4. 2. 2) (4. 3. 5) (4. 4. 4) ◎特定埋込杭工法 ・ H13 国土交通省告示第 1113 号第 6 による地盤の許容支持力式で $\alpha=250$ を採用できる工法 ・ H13 国土交通省告示第 1113 号第 6 による地盤の許容支持力式のうち α 、 β 、 γ が以下の値を採用できる工法 $\alpha=(\quad)$ 、 $\beta=(\quad)$ 、 $\gamma=(\quad)$ 工法 ・ 中掘り拡大根固め工法 ◎回転杭工法 試験杭 試験杭の位置 ◎図示による (BS-006、CS-001) 杭の精度 水平方向の位置ずれ ※評定等の評価内容による 杭の傾斜 ※評定等の評価内容による (4. 4. 3) (4. 4. 5) (7. 2. 5) 杭の継手の工法 ・ 溶接継手 形状 ・ JIS A 5525 による 溶接材料 ・ 標準仕様書 7. 2. 5(1) (2)による ◎機械式継手 工法 ※評定等を受けた工法 検査 ※評定等より定められた項目 施工 ※評定等をされた施工管理基準による (4. 3. 8) (4. 4. 6) 杭頭の処理等 ・ 処理しない ◎処理する 処理方法 (切断にともなう補強方法含む) ・ 図示による () ◎ガス切断 (4. 3. 8) 杭頭の中詰め材料 ・ 基礎のコンクリートと同調合のもの		種類	厚さ (mm)	杭径 (mm)	杭長 (m)	継手数	セツ数	長期設計支 持力 (kN/本)	備考	試験杭	上杭								中杭								下杭								本杭	上杭								中杭								下杭									図示	BS-006、CS-001 による						
	種類	厚さ (mm)	杭径 (mm)	杭長 (m)	継手数	セツ数	長期設計支 持力 (kN/本)	備考																																																														
試験杭	上杭																																																																					
	中杭																																																																					
	下杭																																																																					
本杭	上杭																																																																					
	中杭																																																																					
	下杭																																																																					
	図示	BS-006、CS-001 による																																																																				

章	項 目	特 記 事 項																																																									
	4 場所打ち コンクリート杭地業	<div style="text-align: right;">(4.5.1) (4.5.5)</div> <p>工法</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アースドリル工法（安定液 ・使用する ・使用しない） ・リバース工法 ・オールケーシング工法（孔内の水張り ・行う ・行わない） <div style="text-align: right;">(4.5.1) (4.5.6)</div> <p>併用する工法</p> <ul style="list-style-type: none"> ・場所打ち鋼管コンクリート杭工法 <p>鋼管の種類 ・SKK400 ・SKK490</p> <ul style="list-style-type: none"> ・拡底杭工法（安定液 ・使用する ・使用しない） <p>寸法等 (4.2.2)</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th></th> <th>鋼管厚 (mm)</th> <th>鋼管径 (mm)</th> <th>軸径 (mm)</th> <th>拡底径 (mm)</th> <th>杭長 (m)</th> <th>セツト数</th> <th>長期設計支 持力 (kN/本)</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>試験杭</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>本杭</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <div style="text-align: right;">(4.5.5)</div> <p>試験杭</p> <p>試験杭の位置</p> <ul style="list-style-type: none"> ・図示による（ ） ・ <div style="text-align: right;">(4.5.5)</div> <p>孔壁の保持状況（孔壁測定）</p> <p>測定箇所</p> <ul style="list-style-type: none"> ・試験杭（ ）箇所及び本数（ ）箇所 ・ <p>杭の支持層への根入れ深さ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・図示による（ ） ・ <p>杭の精度</p> <p>水平方向への位置ずれ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・杭径の 1/4 かつ 100 mm以下 ・評価等の内容による ・ <p>杭の傾斜</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1/100 以内 ・評価等の内容による ・ <div style="text-align: right;">(4.5.4)</div> <p>鉄筋の種類</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th>種類の記号</th> <th>呼び径 (mm)</th> <th>備 考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>・SD295</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>・SD345</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <div style="text-align: right;">(4.5.4)</div> <p>帯筋</p> <ul style="list-style-type: none"> ・図示による ・ <div style="text-align: right;">(4.5.4)</div> <p>鉄筋の最小かぶり厚さ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・100mm ・ <div style="text-align: right;">(4.5.4)</div> <p>鉄筋かごの補強</p> <ul style="list-style-type: none"> ・図示による（ ） ・杭径 1.5m 以下の場合は鋼板 6×50 (mm)、1.5m を超える場合は鋼板 9×50～75 (mm) の補強リングを 3m 以下の間隔で、かつ 1 節につき 3 箇所以上入れ、リングと主筋の接触部を溶接する <div style="text-align: right;">(4.5.4) (5.3.4)</div> <p>組み立てた鉄筋の節ごとの継手</p> <p>※重ね継手 重ね継手の長さ ・図示による（ ）</p>		鋼管厚 (mm)	鋼管径 (mm)	軸径 (mm)	拡底径 (mm)	杭長 (m)	セツト数	長期設計支 持力 (kN/本)	備考	試験杭									本杭																											種類の記号	呼び径 (mm)	備 考	・SD295			・SD345					
	鋼管厚 (mm)	鋼管径 (mm)	軸径 (mm)	拡底径 (mm)	杭長 (m)	セツト数	長期設計支 持力 (kN/本)	備考																																																			
試験杭																																																											
本杭																																																											
種類の記号	呼び径 (mm)	備 考																																																									
・SD295																																																											
・SD345																																																											

章	項 目	特 記 事 項
		<p>(4. 5. 4) (5. 3. 4)</p> <p>主筋の基礎底盤への定着長さ ・ 図示による ()</p> <p>(4. 5. 4)</p> <p>セメントの種類 ※高炉セメントB種</p> <p>(4. 5. 4)</p> <p>コンクリートの設計基準強度 ・ 図示による ()</p> <p>(4. 5. 4)</p> <p>コンクリートの種別 ・ A種 ・ B種 ・ 認定等の内容による</p> <p>(4. 5. 4)</p> <p>スランプ ・ 18cm ・ 21cm</p> <p>(4. 5. 4)</p> <p>構造体強度補正值 ※3N/mm² ・ 図示による () ・ 評定等の内容による</p>
5	砂利地業	<p>(4. 6. 2)</p> <p>材料（茨城県の指定工場であること） ※再生クラッシャーラン ・ 切込砂利又は切込碎石</p> <p>(4. 6. 3)</p> <p>砂利厚さ ※60mm</p> <p>(4. 6. 3)</p> <p>施工範囲 ◎基礎下、基礎梁下、土間コンクリート下、土に接するスラブ下 ・ 図示による ()</p>
6	捨コンクリート地業	<p>(4. 6. 4)</p> <p>厚さ ※50mm</p> <p>(4. 6. 4) (6. 14. 1)</p> <p>施工範囲 ◎基礎下、基礎梁下、土に接するスラブ下 ・ 図示による () (4. 6. 4) (6. 14. 1)</p> <p>設計基準強度 ※18N/mm²</p> <p>(4. 6. 4) (6. 14. 1)</p> <p>スランプ ※15cm 又は 18cm</p>
7	床下防湿層	<p>(4. 6. 2)</p> <p>材料 ※ポリエチレンフィルム厚さ 0. 15mm 以上</p> <p>(4. 6. 5)</p> <p>施工範囲 ◎建物内の土間スラブ及び土間コンクリート下（ピット下を除く）</p>
8	地盤改良工法	<p>材料 種類及び施工方法等 ・ 図示による () 六価クロム溶出試験 ・ 行う ・ 行わない</p>

章	項 目	特 記 事 項															
5 鉄筋工事	1 鉄筋	(5. 2. 1) 鉄筋の種類等 <table><tr><th>種類の記号</th><th>呼び径 (mm)</th><th>備考</th></tr><tr><td>◎SD295</td><td>※D16 以下</td><td>・</td></tr><tr><td>◎SD345</td><td>※D19 以上</td><td>・</td></tr><tr><td>・</td><td></td><td></td></tr><tr><td>・</td><td></td><td></td></tr></table>	種類の記号	呼び径 (mm)	備考	◎SD295	※D16 以下	・	◎SD345	※D19 以上	・	・			・		
	種類の記号	呼び径 (mm)	備考														
	◎SD295	※D16 以下	・														
	◎SD345	※D19 以上	・														
・																	
・																	
2 溶接金網	(5. 2. 2) 鉄線の形状等 <table><tr><th>種類</th><th>種類の記号</th><th>網目寸法、鉄線の径 (mm)</th><th>使用部位</th></tr><tr><td>◎溶接金網</td><td></td><td></td><td>押えコン</td></tr><tr><td>・鉄筋格子</td><td></td><td></td><td></td></tr></table>	種類	種類の記号	網目寸法、鉄線の径 (mm)	使用部位	◎溶接金網			押えコン	・鉄筋格子							
種類	種類の記号	網目寸法、鉄線の径 (mm)	使用部位														
◎溶接金網			押えコン														
・鉄筋格子																	
3 鉄筋の継手	(5. 3. 4) (5. 5. 2) (5. 6. 3) 鉄筋の継手の方法等 <table><tr><th>部位</th><th>継手の方法</th><th>呼び径 (mm)</th></tr><tr><td>・柱及び梁の主筋</td><td>◎ガス圧接 ・溶接継手 ・機械式継手</td><td>※D19 以上</td></tr><tr><td>・耐力壁の鉄筋</td><td>◎重ね継手</td><td>・</td></tr><tr><td>・基礎、耐圧スラブ、土圧壁</td><td>◎重ね継手 ・ガス圧接</td><td>・</td></tr><tr><td>・上記以外()</td><td>・重ね継手</td><td>・</td></tr></table> (5. 3. 4) 継手位置 ◎図示による(構造関係共通図(標準図)) (5. 3. 4) 柱及び梁主筋の重ね継手の長さ ◎図示による(構造関係共通図(標準図)) (5. 3. 4) 耐力壁の重ね継手の長さ ◎図示による(構造関係共通図(標準図))	部位	継手の方法	呼び径 (mm)	・柱及び梁の主筋	◎ガス圧接 ・溶接継手 ・機械式継手	※D19 以上	・耐力壁の鉄筋	◎重ね継手	・	・基礎、耐圧スラブ、土圧壁	◎重ね継手 ・ガス圧接	・	・上記以外()	・重ね継手	・	
部位	継手の方法	呼び径 (mm)															
・柱及び梁の主筋	◎ガス圧接 ・溶接継手 ・機械式継手	※D19 以上															
・耐力壁の鉄筋	◎重ね継手	・															
・基礎、耐圧スラブ、土圧壁	◎重ね継手 ・ガス圧接	・															
・上記以外()	・重ね継手	・															
4 鉄筋の定着	(5. 3. 4) 鉄筋の定着長さ ◎図示による ・ ・機械式定着工法 適用場所 ・図示による() 種類 ・摩擦圧接接合 ・螺合グラウト固定 ・嵌合グラウト固定 工法 ◎第三者機関の評定等を取得している工法 必要定着長さ ◎評定等の評価内容による 補強筋形状 ◎評定等の評価内容による かぶり厚さ ◎評定等の評価内容による 品質確認 ◎評定等の評価内容による 検査 ◎評定等の評価内容による																

章	項 目	特 記 事 項
	<div>5</div> 鉄筋のかぶり厚さ及び間隔 (溶接金網含む)	<div>(5.3.5)</div> <p>最小かぶり厚さ（目地底から算出を行う） ※図示による</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ <p>柱及び梁の主筋に D29 以上の使用</p> <ul style="list-style-type: none"> ・あり 使用箇所（ ） 主筋のかぶり厚さを径の 1.5 倍以上確保する <p>耐久性上不利な箇所がある場合（塩害等を受けるおそれのある部分等）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・適用箇所（ ） ・最小かぶり厚さに加える厚さ（ ）mm ・
	<div>6</div> 各部配筋	<div>(5.3.7)</div> <p>各部配筋 ※図示による</p>
	<div>7</div> 圧接完了後の試験	<div>(5.4.10) (5.4.11)</div> <p>外観試験 ※行う（全ての圧接部）</p> <div>(5.4.10) (5.4.11)</div> <p>抜取試験 ※超音波探傷試験 試験ロット：1 組の作業班が 1 日に行った圧接箇所とする。 試験の箇所数：1 ロットに対して 30 か所とし、ロットから無作為に抜き取る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・引張試験 試験ロット：1 組の作業班が 1 日に行った圧接箇所とする。なお、200 か所を超えるときは 200 か所ごととする。 試験の箇所数：1 ロットに対して（・3 本 ・5 本）とする。

章	項 目	特 記 事 項
	8 機械式継手	<div>(5.5.3) (5.5.5)</div> <p>適用箇所</p> <ul style="list-style-type: none"> ・図示による（ ） <p>H12 建告第 1463 号に適合する性能</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ A 級 <p>種類</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ねじ式鉄筋継手 <ul style="list-style-type: none"> ・無機グラウト方式 ・有機グラウト方式 ・端部ねじ加工継手 ・モルタル充填式継手 <p>工法</p> <p>※第三者機関の評定等を取得している工法</p> <p>鉄筋相互のあき</p> <p>※評定等の評価内容による</p> <p>品質確認</p> <p>※評定等の評価内容による</p> <p>検査</p> <p>※評定等の評価内容による</p> <p>施工完了後の継手部の試験</p> <ul style="list-style-type: none"> ・外観試験 <p>試験対象</p> <p>※全数</p> <p>試験項目</p> <p>※評定等の評価内容による</p> <p>試験方法</p> <p>※評定等の評価内容による</p> ・超音波測定試験 <p>試験対象</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 抜取り <p>ロット</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 1 組の作業班が 1 日で行った継手箇所、最大 200 箇所程度とする。 <p>試験の箇所数</p> <p>1 ロットに対して（ ）箇所</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 全数 <p>試験項目</p> <p>※挿入長さ</p> <p>試験方法</p> <p>※JIS Z 3064（鉄筋コンクリート用機械式継手の鉄筋挿入長さの超音波測定方法及び判定基準）による</p> <p>不合格となった場合の措置</p> <ul style="list-style-type: none"> ・

章	項 目	特 記 事 項
	9 溶接継手	<div>(5.6.3) (5.6.5)</div> <p>適用箇所</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 図示による () <p>H12 建告第 1463 号に適合する性能</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ A 級 <p>溶接継手の工法</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 図示による () <p>鉄筋相互のあき</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 標準仕様書 5.3.5(4)による ・ 評定等の評価内容による ・ 図示による () <p>施工完了後の溶接部の試験</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 外観試験 <p>試験対象</p> <p>※全数</p> <p>試験項目</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 評定等の評価内容による <p>試験方法</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 評定等の評価内容による <ul style="list-style-type: none"> ・ 超音波測定試験 <p>試験対象</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 抜取り <p>ロット</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 1 組の作業班が 1 日で行った溶接箇所、最大 200 箇所程度とする。 <p>試験の箇所数</p> <p>1 ロットに対して () 箇所</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 全数 <p>試験項目</p> <p>※内部欠陥の検出</p> <p>試験方法</p> <p>※JIS Z 3063 (鉄筋コンクリート用異形棒鋼溶接部の超音波測定方法及び判定基準) による</p> <p>不合格となった継手への措置</p> <ul style="list-style-type: none"> ・

章	項 目	特 記 事 項																				
6 コン クリ ート 工 事	1 コンクリートの種類等	<div>(6.2.1)</div> <div>コンクリートの種別</div> <div>※Ⅰ類（茨城県の指定工場であり、JIS A 5308 への適合を認証されたコンクリート）</div> <div>・Ⅱ類（JIS A 5308 に適合したコンクリート）</div> <div>(6.2.1～6.2.4)</div> <div>※普通コンクリート</div> <table><tr><th>設計基準強度 (N/mm²)</th><th>スランプ (cm)</th><th>気乾単位容積 質量 (t/m³)</th><th>適用箇所</th></tr><tr><td>◎24</td><td>◎15 又は 18 ・ 18</td><td>2.3 程度</td><td>訓練塔、防災倉庫</td></tr><tr><td>◎33</td><td>◎21</td><td>2.3 程度</td><td>庁舎棟</td></tr><tr><td>◎21</td><td>◎15</td><td>2.3 程度</td><td>土間コンクリート(庁舎)</td></tr><tr><td>◎18</td><td>◎15</td><td>2.3 程度</td><td>土間コンクリート(外構)</td></tr></table> <div>構造体強度補正值</div> <div>※標準仕様書 表 6.3.2 による ・</div>	設計基準強度 (N/mm ²)	スランプ (cm)	気乾単位容積 質量 (t/m ³)	適用箇所	◎24	◎15 又は 18 ・ 18	2.3 程度	訓練塔、防災倉庫	◎33	◎21	2.3 程度	庁舎棟	◎21	◎15	2.3 程度	土間コンクリート(庁舎)	◎18	◎15	2.3 程度	土間コンクリート(外構)
	設計基準強度 (N/mm ²)	スランプ (cm)	気乾単位容積 質量 (t/m ³)	適用箇所																		
	◎24	◎15 又は 18 ・ 18	2.3 程度	訓練塔、防災倉庫																		
	◎33	◎21	2.3 程度	庁舎棟																		
	◎21	◎15	2.3 程度	土間コンクリート(庁舎)																		
◎18	◎15	2.3 程度	土間コンクリート(外構)																			
2 セメント	<div>(6.3.1)</div> <div>種類</div> <div>※普通ポルトランドセメント、高炉セメント A 種、シリカセメント A 種又はフライアッシュセメント A 種</div> <div>適用箇所（※下記以外全て ・ ）</div> <div>普通ポルトランドセメントの品質は、JIS R 5210 に示された規定の他、水和熱が 7 日目で 352J/g 以下、かつ 28 日目で 402J/g 以下のものとする</div> <div>・高炉セメント B 種</div> <div>適用箇所（ ・ 1FL より下部（立上がり部含む） ・ ）</div> <div>・フライアッシュセメント B 種</div> <div>適用箇所（ ・ ・ ） ・</div>																					
3 骨材	<div>(6.3.1)</div> <div>アルカリシリカ反応性による区分</div> <div>※A</div> <div>・ B（コンクリート中のアルカリ総量が 3.0kg/m³ 以下）</div>																					
4 混和材料	<div>(6.3.1)</div> <div>◎混和剤</div> <div>混和剤の種類</div> <div>※標準仕様書 6.3.1 (4) (a) による ・</div> <div>(6.3.1)</div> <div>・混和材</div> <div>混和材の種類</div> <div>※標準仕様書 6.3.1 (4) (b) による ・</div>																					
5 打継ぎの位置、ひび割れ誘発目地、打継目地	<div>(6.6.4)</div> <div>打継ぎの位置</div> <div>梁及びスラブ</div> <div>※スパンの中央又は端から 1/4 の付近</div> <div>・図示による（ ） ・</div> <div>柱及び壁</div> <div>※スラブ、壁梁又は基礎の上端</div> <div>・図示による（ ） ・</div> <div>(6.6.4) (6.8.1) (9.7.3)</div> <div>目地の寸法</div> <div>◎標準仕様書 9.7.3 (1) (ア) による</div> <div>※ひび割れ誘発目地、打継目地の深さ寸法は、躯体外側の打増し部で処理する</div> <div>・図示による（ ） ・</div> <div>(6.8.1)</div> <div>ひび割れ誘発目地の位置</div> <div>◎図示による（ ）</div>																					

章	項 目	特 記 事 項								
	6 コンクリートの 仕上り	(6.2.5) (6.8.2) 合板せき板を用いるコンクリートの打放し仕上げ <table><tr><td>種別</td><td>適用箇所</td></tr><tr><td>◎A種</td><td>※図示による（ 意匠図による ）</td></tr><tr><td>◎B種</td><td>※図示による（ 1FL 上躯体 ）</td></tr><tr><td>◎C種</td><td>※図示による（ 1FL 上躯体 ）</td></tr></table>	種別	適用箇所	◎A種	※図示による（ 意匠図による ）	◎B種	※図示による（ 1FL 上躯体 ）	◎C種	※図示による（ 1FL 上躯体 ）
		種別	適用箇所							
		◎A種	※図示による（ 意匠図による ）							
		◎B種	※図示による（ 1FL 上躯体 ）							
		◎C種	※図示による（ 1FL 上躯体 ）							
		コンクリートの仕上りの平たんさ (6.2.5) (6.8.2) <table><tr><td>種別</td><td>適用箇所</td></tr><tr><td>◎a種</td><td>※図示による（ 意匠図による ）</td></tr><tr><td>◎b種</td><td>※図示による（ 1FL 躯体 ）</td></tr><tr><td>◎c種</td><td>※図示による（ 1FL 躯体 ）</td></tr></table>	種別	適用箇所	◎a種	※図示による（ 意匠図による ）	◎b種	※図示による（ 1FL 躯体 ）	◎c種	※図示による（ 1FL 躯体 ）
		種別	適用箇所							
		◎a種	※図示による（ 意匠図による ）							
		◎b種	※図示による（ 1FL 躯体 ）							
		◎c種	※図示による（ 1FL 躯体 ）							
	7 打増し厚さ (打放し仕上げ部)	(6.8.1) 打増し厚さ ◎打放し仕上げの打増し厚さ（外部に面する部分に限る） ◎20mm ・ ◎打放し仕上げの打増し厚さ（内部に面する部分に限る） ◎10mm ・ 20mm ・ ・ 外装タイル後張り面の打増し処理 ・ 20mm ・ 打増し範囲 ・ 図示による（ ） ・								
		8 型枠	(6.8.2) せき板の材料及び厚さ ◎合板（※12mm ・ ） ・ 断熱材を兼用した型枠材 使用箇所 ・ 図示による（ ） ・ ・ MCR工法用シート (6.8.2) 適用箇所 ・ 図示による（ ） ・ 打増し厚さ ・ 20mm ・ 打増し範囲 ・ 図示による（ ） ・ (6.8.2) スリーブの材種・規格等 ・ 図示による（ ） ・							

章	項 目	特 記 事 項
	9 無筋コンクリート	<p>(6. 2. 1) (6. 14. 1)</p> <p>コンクリートの種類 ※普通コンクリート</p> <p>セメントの種類 (6. 3. 1) ※普通ポルトランドセメント、高炉セメント A 種、シリカセメント A 種又はフライアッシュセメント A 種 ・高炉セメント B 種 ・フライアッシュセメント B 種 (6. 14. 1)</p> <p>設計基準強度 ※18 (N/mm²) (6. 14. 1)</p> <p>スランブ ※15cm 又は 18cm (6. 14. 1)</p> <p>適用箇所 ※標準仕様書 6. 14. 1 (4) (ア)～(カ)による ・図示による ()</p>
	10 コンクリートの単位水量測定	<p>・行わない ・行う 実施要領</p> <p>(1) 単位水量の測定は、150m³に 1 回以上及び荷下し時に品質の異常が認められた時に実施する。</p> <p>(2) 単位水量の上限値は、標準仕様書 6. 3. 2 (イ) (c) による。</p> <p>(3) 単位水量の管理目標値は次の通りとして、施工する。</p> <p>1) 測定した単位水量が、計画調合書の設計値（以下、「設計値」という。）±15kg/m³の範囲にある場合はそのまま施工する。</p> <p>2) 測定した単位水量が、設計値±15 を超え±20kg/m³の範囲にある場合は、水量変動の原因を調査するとともに生コン製造者に改善を指示し、その運搬車の生コンは打設する。その後、設計値±15kg/m³以内で安定するまで、運搬車の 3 台毎に 1 回、単位水量の測定を行う。</p> <p>3) 設計値±20kg/m³を超える場合は、生コンを打込まずに持ち帰らせ、水量変動の原因を調査するとともに生コン製造者に改善を指示しなければならない。その後の全運搬車の測定を行い設計値±20kg/m³以内であることを確認する。更に、設計値±15kg/m³以内で安定するまで、運搬車の 3 台毎に 1 回、単位水量の測定を行う。</p> <p>4) 3) の不合格生コンを確実に持ち帰ったことを確認する。</p> <p>(4) 単位水量管理についての記録を書面（計画調合書、製造管理記録、打込み時の外気温、コンクリート温度等）と写真により提出する。</p> <p>(5) 単位水量の測定方法は、高周波誘電加熱乾燥法（電子レンジ法）、エアメータ法又は静電容量測定法による。また、試験機関は該当コンクリート製造所以外の機関とする。</p>

章	項 目	特 記 事 項																		
7 鉄骨工事	1 鉄骨製作工場	(7.1.3) 鉄骨製作工場の加工能力 建築基準法第 68 条の 25 に基づき国土交通大臣から構造方法等の認定を取得している鉄骨製作工場又は同等以上の能力のある工場 評価の区分 ※ (M) グレード ・ グレードの適用はしない																		
	2 鉄骨製作工場における施工管理技術者	(7.1.3) (7.1.4) ※配置する																		
	3 鋼材	(7.2.1) 種類等 <table><tr><th>種類の記号</th><th>適用箇所(主要な部分)</th><th>規格</th></tr><tr><td>BCR</td><td>柱</td><td>※JIS 規格による ◎大臣認定品</td></tr><tr><td>SN 490B</td><td>大梁、内ダイヤフラム</td><td>※JIS 規格による ・</td></tr><tr><td>SN 490C</td><td>通しダイヤフラム</td><td>※JIS 規格による ・</td></tr><tr><td>SN 400B</td><td>大梁</td><td>※JIS 規格による ・</td></tr><tr><td>SS 400</td><td>小梁、耐風梁、間柱</td><td>※JIS 規格による ・</td></tr></table> 溶融亜鉛めっき工法の適用箇所 ・ ・	種類の記号	適用箇所(主要な部分)	規格	BCR	柱	※JIS 規格による ◎大臣認定品	SN 490B	大梁、内ダイヤフラム	※JIS 規格による ・	SN 490C	通しダイヤフラム	※JIS 規格による ・	SN 400B	大梁	※JIS 規格による ・	SS 400	小梁、耐風梁、間柱	※JIS 規格による ・
	種類の記号	適用箇所(主要な部分)	規格																	
BCR	柱	※JIS 規格による ◎大臣認定品																		
SN 490B	大梁、内ダイヤフラム	※JIS 規格による ・																		
SN 490C	通しダイヤフラム	※JIS 規格による ・																		
SN 400B	大梁	※JIS 規格による ・																		
SS 400	小梁、耐風梁、間柱	※JIS 規格による ・																		
4 高力ボルト	(7.2.2) 高力ボルトの種類 ◎トルシア形高力ボルト ・ JIS 形高力ボルト ◎溶融亜鉛メッキ高力ボルト ・ (7.3.2) ボルトの縁端距離、ボルト間隔、ゲージ等 ※図示による ・ 摩擦面の処理方法等 溶融亜鉛めっき以外 ※標準仕様書 7.4.2(1)による ・ 溶融亜鉛めっき面 ◎ブラスト処理 (表面粗度 50 μmRz 以上) ・ ブラスト処理以外の特別な処理方法 ・ 図示による () ・ (7.12.5) (7.4.2) ・ すべり試験 ※すべり係数試験 ・ すべり耐力試験 試験方法等 ・ 図示による () ・																			

章	項 目	特 記 事 項
	5 普通ボルト	<p>(7.2.3)</p> <p>ボルト及びナットの材料 ◎標準仕様書 表 7.2.3 (JIS 附属書品) 又は次による ボルトの規格は、JIS B 1180 とする。 (ボルトの種類は、呼び径六角ボルト又は全ねじ六角ボルトとし、材料は鋼とする。ボルトの強度区分は、4.6 又は 4.8 とする。なお、呼び径六角ボルトの軸径の最大寸法は、ボルトの径の値以下とする。ナットの規格は JIS B 1181 とする。ナットの種類は、六角ナット-C とし、材料は鋼とする。)</p> <p>(7.2.3)</p> <p>座金 ※JIS B 1256 による</p> <p>(7.5.2)</p> <p>戻り止め ※二重ナット</p> <p>(7.3.2)</p> <p>ボルトの縁端距離、ボルト間隔、ゲージ等 ※図示による</p>
	6 アンカーボルト	<p>(7.2.4) (7.10.3)</p> <p>◎構造用アンカーボルト 種類 ◎ABR400 ・ ABR490 ◎SS400</p> <p>・ 建方 (及び付属鉄骨) 用アンカーボルト 種類 ・ SS400</p> <p>アンカーボルト及びナットのねじの公差域クラス及び仕上げの程度 ※標準仕様書 表 7.2.3 による</p> <p>(7.3.2)</p> <p>ボルトの縁端距離、ボルト間隔、ゲージ等 ※図示による</p>
	7 溶接材料	<p>(7.2.5)</p> <p>溶接材料 ※標準仕様書 7.2.5(1)(2) による ・ 標準仕様書 7.2.5(1)(2) 以外の溶接材料 材料及び使用箇所 ・ 図示による () ・</p>
	8 ターンバックル	<p>(7.2.6)</p> <p>種類 建築用ターンバックルボルト ※羽子板ボルト</p> <p>建築用ターンバックル胴 ※割枠式</p> <p>ねじの呼び ◎図示による (CS-011、BS-008、DS-001) ・</p> <p>(7.2.6)</p>

章	項 目	特 記 事 項																								
	9 床構造用の デッキプレート	<div>(7.2.7)</div> <p>材質、形状及び寸法</p> <table><tr><td></td><td>適用箇所</td><td>材質・形状・寸法</td><td>備考</td></tr><tr><td>◎デッキプレート単独の構法</td><td>各階</td><td>図示による</td><td></td></tr><tr><td>・デッキプレートとコンクリートとの合成スラブとする構法</td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td></tr></table> <p>開口部補強要領（補強筋の定着長さ等を含む） ・ 図示による（ ） ・</p> <p>鉄骨部材への溶接方法 <div>(7.7.8)</div> ◎図示による（ ） ・</p> <p>耐火認定 ・ あり 耐火時間 ・ 図示による（ ） ・ ◎なし</p>		適用箇所	材質・形状・寸法	備考	◎デッキプレート単独の構法	各階	図示による		・デッキプレートとコンクリートとの合成スラブとする構法															
		適用箇所	材質・形状・寸法	備考																						
	◎デッキプレート単独の構法	各階	図示による																							
	・デッキプレートとコンクリートとの合成スラブとする構法																									
	10 スタッド	<div>(7.2.8)</div> <p>種類等</p> <table><tr><td>呼び名</td><td colspan="4">呼び長さ (mm)</td><td>適用箇所</td></tr><tr><td>◎16φ</td><td>・ 80</td><td>・ 100</td><td colspan="2">・ 120</td><td></td></tr><tr><td>◎19φ</td><td>・ 80</td><td>・ 100</td><td>・ 130</td><td>・ 150</td><td>CS-011 による</td></tr><tr><td>・ 22φ</td><td>・ 80</td><td>・ 100</td><td>・ 130</td><td>・ 150</td><td></td></tr></table>	呼び名	呼び長さ (mm)				適用箇所	◎16φ	・ 80	・ 100	・ 120			◎19φ	・ 80	・ 100	・ 130	・ 150	CS-011 による	・ 22φ	・ 80	・ 100	・ 130	・ 150	
	呼び名	呼び長さ (mm)				適用箇所																				
	◎16φ	・ 80	・ 100	・ 120																						
	◎19φ	・ 80	・ 100	・ 130	・ 150	CS-011 による																				
・ 22φ	・ 80	・ 100	・ 130	・ 150																						
11 柱底均しモルタル	<div>(7.2.9)</div> <p>無収縮モルタルとする場合の材料、調合等 ※標準仕様書 7.2.9(2) (ア) から (イ) による ・</p>																									
12 製作精度	<div>(7.3.3)</div> <p>鉄骨の製作精度は、JASS 6 付則 6[鉄骨精度検査基準]に加えて、次による 通しダイヤフラムの突合せ継手の食い違いの寸法 ※H12 建告第 1464 号第二号イ (2) による ・ アンダーカットの寸法 ※H12 建告第 1464 号第二号イ (3) による ・ 食い違い・仕口のずれの検査方法及び補強方法 ◎「突合せ継手の食い違い仕口のずれの検査・精度マニュアル」による ・</p>																									
13 溶接技能者の 技量付加試験	<div>(7.6.3)</div> <p>試験の要領 ・ 図示による（ ） ・</p>																									

章	項 目	特 記 事 項										
	14 溶接接合	<div>(7. 6. 4)</div> <div>開先の形状</div> <div>◎図示による（ 構造関係共通図（鉄骨標準図）1-2 ）</div> <div>・</div> <div>(7. 6. 7)</div> <div>◎エンドタブの切断する部分</div> <div>切断する箇所</div> <div>・ 図示による（ ） ◎全て</div> <div>切断範囲</div> <div>◎エンドタブ、裏当て金等は、梁フランジ等の端から 5 mm以下残して直線上に切断する。なお、切断線が交差する場合は、交差部をアール状に加工する。</div> <div>・</div> <div>切断面の仕上げ</div> <div>◎標準仕様書 7. 6. 7(1) (カ) (b)②による</div> <div>・</div> <div>(7. 6. 7)</div> <div>スカラップの形状</div> <div>◎図示による（構造関係共通図（鉄骨標準図）1-4 (d) 改良型スカラップ ）</div> <div>・</div>										
	15 入熱、パス間温度の管理	<div>適用箇所</div> <div>・ 図示による（ ）</div> <div>◎柱、梁、ブレースのフランジ端部の完全溶け込み溶接部</div>										
	16 溶接部の試験	<div>(7. 6. 12)</div> <div>H12 建告第 1464 号第二号に関する外観試験方法等</div> <div>◎「突合せ継手の食い違い仕口のずれの検査・補強マニュアル」3. 5. 2 受入検査による</div> <div>・ 抜き取り検査①</div> <div>※抜き取り検査②</div> <div>JASS 6 付則 6[鉄骨精度検査基準]の付表 3「溶接」に関する試験方法等</div> <div>◎JASS 6 10. 4[受入検査] e. 溶接部の外観検査(1)から(5)までによる。ただし、完全溶込み溶接部の外観検査の抜き取り箇所は、超音波探傷試験の試験箇所と同一とする。外観試験の不合格箇所は、すべて標準仕様書 7. 6. 13 による補修を行い、再試験する。</div> <div>完全溶込み溶接部の超音波探傷試験</div> <div>・ 工場溶接の場合</div> <div>AOQL (%) ※4. 0 ・ 2. 5</div> <table><tr><td>節</td><td>◎全て</td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>検査水準</td><td>※第 6 水準</td><td></td><td></td><td></td></tr></table> <div>・ 全数</div> <div>◎工事現場溶接の場合</div> <div>※全数</div>	節	◎全て				検査水準	※第 6 水準			
節	◎全て											
検査水準	※第 6 水準											

章	項 目	特 記 事 項																																										
17	錆止め塗装	(7.8.2) 塗装の範囲 耐火被覆材の接着する面の塗装範囲 ◎図示による（ 意匠図による ） 耐火被覆材の接着する面以外の塗装範囲 ◎図示による（ 意匠図による ） (7.8.4) (18.3.2) 塗料の種別 下記以外の鉄鋼面は、18章[塗装工事]による ◎鉄骨鉄筋コンクリート造の鋼製スリーブで鉄骨に溶接されたものの内側の錆止め塗料の種別 ※A種 耐火被覆材が接着する面の塗料の種別																																										
	耐火被覆	(7.9.2～7.9.8) 種類、材料、工法等 <table><tr><th>種類</th><th>材料・工法</th><th>性能（耐火時間）</th><th>適用箇所（部位・部分）</th></tr><tr><td rowspan="5">耐火材吹付け</td><td>乾式吹付け ロックウール</td><td></td><td></td></tr><tr><td>半乾式吹付け ロックウール</td><td></td><td></td></tr><tr><td>湿式ロックウール</td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td rowspan="2">耐火板張り</td><td>繊維混入けい酸カルシウム板</td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td rowspan="2">耐火材巻付け</td><td>高断熱ロックウール</td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>ラス張りモルタル塗り</td><td>—</td><td></td><td></td></tr><tr><td>◎耐火塗料</td><td>意匠図による</td><td>60分、30分</td><td>庁舎ピロティ鉄骨柱、訓練塔A鉄骨柱</td></tr></table>	種類	材料・工法	性能（耐火時間）	適用箇所（部位・部分）	耐火材吹付け	乾式吹付け ロックウール			半乾式吹付け ロックウール			湿式ロックウール									耐火板張り	繊維混入けい酸カルシウム板						耐火材巻付け	高断熱ロックウール						ラス張りモルタル塗り	—			◎耐火塗料	意匠図による	60分、30分	庁舎ピロティ鉄骨柱、訓練塔A鉄骨柱
	種類	材料・工法	性能（耐火時間）	適用箇所（部位・部分）																																								
耐火材吹付け	乾式吹付け ロックウール																																											
	半乾式吹付け ロックウール																																											
	湿式ロックウール																																											
耐火板張り	繊維混入けい酸カルシウム板																																											
耐火材巻付け	高断熱ロックウール																																											
ラス張りモルタル塗り	—																																											
◎耐火塗料	意匠図による	60分、30分	庁舎ピロティ鉄骨柱、訓練塔A鉄骨柱																																									
19	建方精度	(7.10.2) ※JASS 6 付則6 [鉄骨精度基準] 付表5 [工事現場] による																																										
20	アンカーボルトの設置等	(7.10.3) 構造用アンカーボルトの形状及び寸法 ◎図示による（ 共通 S-009, 010 ） (7.10.3) 構造用アンカーフレームの形状及び寸法 ◎図示による（ 共通 S-009, 010 ） (7.10.3) 建方（及び付属鉄骨）用アンカーボルトの形状及び寸法 図示による（ ） (7.10.3) 建方（及び付属鉄骨）の保持及び埋込み工法 種別 A種 B種 (7.10.3) 柱底均しモルタルの厚さ及び工法の種別 厚さ ◎30 種別 ※A種 B種																																										

章	項 目	特 記 事 項																							
8 コンクリートブロック・ALCパネル・押出成形セメント板工事	1 補強コンクリート ブロック造	<div>(8.2.2) (8.2.3) (8.2.5) (8.2.7) (8.2.8)</div> <div>ブロックの種類等</div> <table><tr><th rowspan="2">断面形状及び 圧縮強さ による区分</th><th rowspan="2">正味 厚さ (mm)</th><th colspan="2">モジュール呼び寸法 (mm)</th><th rowspan="2">化粧の 有無</th><th rowspan="2">適用箇所</th><th rowspan="2">備考</th></tr><tr><th>長さ</th><th>高さ</th></tr><tr><td>・ 空洞ブロック C(16)</td><td></td><td></td><td></td><td>・ 無 ・ 有</td><td></td><td></td></tr><tr><td>・</td><td></td><td></td><td></td><td>・ 無 ・ 有</td><td></td><td></td></tr></table> <div>モルタルの調合（容積比） ※標準仕様書表 8.2.1 による ・セメント（ ） : 砂（ ）</div> <div>各部の配筋 ※図示による（ ） ・</div> <div>目地仕上げ ・ 押し目地仕上げ ・ 化粧目地仕上げ</div> <div>まぐさを受ける開口部両側のブロックのモルタル又はコンクリートで充填するブロックの範囲 ※図示による（ ） ・</div>	断面形状及び 圧縮強さ による区分	正味 厚さ (mm)	モジュール呼び寸法 (mm)		化粧の 有無	適用箇所	備考	長さ	高さ	・ 空洞ブロック C(16)				・ 無 ・ 有			・				・ 無 ・ 有		
	断面形状及び 圧縮強さ による区分	正味 厚さ (mm)			モジュール呼び寸法 (mm)					化粧の 有無	適用箇所	備考													
長さ			高さ																						
・ 空洞ブロック C(16)				・ 無 ・ 有																					
・				・ 無 ・ 有																					
	2 コンクリート ブロック塀壁及び塀	<div>(8.3.2～8.3.4)</div> <div>ブロックの種類等</div> <table><tr><th rowspan="2">断面形状及び 圧縮強さ による区分</th><th rowspan="2">正味 厚さ (mm)</th><th colspan="2">モジュール呼び寸法 (mm)</th><th rowspan="2">化粧の 有無</th><th rowspan="2">(表 8.3.1) 以外の 適用箇所</th><th rowspan="2">備考</th></tr><tr><th>長さ</th><th>高さ</th></tr><tr><td>・ 空洞ブロック C(16)</td><td></td><td></td><td></td><td>・ 無 ・ 有</td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td>・ 無 ・ 有</td><td></td><td></td></tr></table> <div>モルタルの調合（容積比） ※標準仕様書表 8.2.1 による ・セメント（ ） : 砂（ ）</div> <div>塀に用いるブロックの正味厚さ（mm） 塀の高さが 2m 以下 ※120 ・ 塀の高さが 2m 超え ※150 ・</div> <div>壁鉄筋の継手、定着及び末端部の折り曲げ形状 ※図示による（ ） ・</div> <div>各部の配筋 ※図示による（ ） ・</div>	断面形状及び 圧縮強さ による区分	正味 厚さ (mm)	モジュール呼び寸法 (mm)		化粧の 有無	(表 8.3.1) 以外の 適用箇所	備考	長さ	高さ	・ 空洞ブロック C(16)				・ 無 ・ 有							・ 無 ・ 有		
断面形状及び 圧縮強さ による区分	正味 厚さ (mm)	モジュール呼び寸法 (mm)			化粧の 有無	(表 8.3.1) 以外の 適用箇所				備考															
		長さ	高さ																						
・ 空洞ブロック C(16)				・ 無 ・ 有																					
				・ 無 ・ 有																					

章	項 目	特 記 事 項																																														
	3 ALCパネル	<div>(8. 4. 2～8. 4. 5)</div> <div>ALC パネルの区分等</div> <table><tr><th colspan="3" rowspan="2">区分</th><th colspan="2">単位荷重 (N/㎡)</th><th rowspan="2">厚さ (mm)</th><th rowspan="2">幅及び長さ</th><th rowspan="2">耐火性能 (時間)</th><th rowspan="2">構法の 種別</th></tr><tr><th>正 荷 重</th><th>負 荷 重</th></tr><tr><td>・ 外壁用</td><td>・ 一般 ・ コーナー</td><td>・ 平 ・ 意匠</td><td></td><td></td><td>・ 100 ・</td><td>図示による</td><td>・ なし ・ 1</td><td>・ A 種 ・ B 種</td></tr><tr><td>・ 間仕切 壁用</td><td>・ 一般 ・ コーナー</td><td>・ 平 ・ 意匠</td><td></td><td></td><td>・ 100 ・</td><td>図示による</td><td>・ なし ・ 1</td><td>・ C 種 ・ D 種 ・ E 種</td></tr><tr><td>・ 屋根用</td><td>－</td><td>－</td><td></td><td></td><td>・ 100 ・</td><td>図示による</td><td>・ 0. 5</td><td rowspan="2">F 種</td></tr><tr><td>・ 床用</td><td>－</td><td>－</td><td></td><td></td><td>・ 100 ・</td><td>図示による</td><td>・ 1 ・ 2</td></tr></table> <div>パネルの相互の接合部に挿入する耐火目地材</div> <div>・</div> <div>外壁、屋根パネルの構法</div> <div>1 章 適用区分による風圧力の（・ 1 ・ 1. 15 ・ 1. 3）倍の耐風圧性能</div> <div>外壁パネル構法及び間仕切壁パネル構法における耐震性能</div> <div>建築非構造部材の耐震性能に係る特記事項による</div> <div>パネル幅の最小限度を 300mm 未満とする場合</div> <div>・ 図示による ・ (mm)</div> <div>目地幅 (mm)</div> <div>(パネル短辺小口相互の接合部、外壁、間仕切壁パネルの出隅、入隅のパネル接合部並びにパネルと他部材との取り合い部)</div> <div>※10～20 ・</div> <div>外壁、間仕切壁パネルの伸縮目地への耐火目地材の充填</div> <div>・ 適用する ・ 適用しない</div>	区分			単位荷重 (N/㎡)		厚さ (mm)	幅及び長さ	耐火性能 (時間)	構法の 種別	正 荷 重	負 荷 重	・ 外壁用	・ 一般 ・ コーナー	・ 平 ・ 意匠			・ 100 ・	図示による	・ なし ・ 1	・ A 種 ・ B 種	・ 間仕切 壁用	・ 一般 ・ コーナー	・ 平 ・ 意匠			・ 100 ・	図示による	・ なし ・ 1	・ C 種 ・ D 種 ・ E 種	・ 屋根用	－	－			・ 100 ・	図示による	・ 0. 5	F 種	・ 床用	－	－			・ 100 ・	図示による	・ 1 ・ 2
区分						単位荷重 (N/㎡)						厚さ (mm)	幅及び長さ	耐火性能 (時間)	構法の 種別																																	
			正 荷 重	負 荷 重																																												
・ 外壁用	・ 一般 ・ コーナー	・ 平 ・ 意匠			・ 100 ・	図示による	・ なし ・ 1	・ A 種 ・ B 種																																								
・ 間仕切 壁用	・ 一般 ・ コーナー	・ 平 ・ 意匠			・ 100 ・	図示による	・ なし ・ 1	・ C 種 ・ D 種 ・ E 種																																								
・ 屋根用	－	－			・ 100 ・	図示による	・ 0. 5	F 種																																								
・ 床用	－	－			・ 100 ・	図示による	・ 1 ・ 2																																									

章	項 目	特 記 事 項					
	4 押出成形セメント板 (ECP)	(8. 5. 2～8. 5. 5)					
		ECP の種類等					
		パネルの種類	形状	厚さ (mm)	幅 (mm)	工法の種別	備考
		◎外壁パネル	◎ F	・ 50 ◎60 ・	※600 ・	◎A 種 ・ B 種	
			・ D	・ 50 ・ 60			
			・ T	60			
		・ 間仕切壁パネル	・ F	・ 50 ・ 60 ・	※600 ・	・ B 種 ・ C 種	
			・ D	・ 50 ・ 60			
			・ T	60			
		注) F : フラットパネル、D : デザインパネル、T : タイルベースパネル					
		外壁パネルの工法における耐風圧性能					
		1 章 適用区分による風圧力の (・ 1 ・ 1. 15 ・ 1. 3) 倍の耐風圧性能					
		外壁パネル工法及び間仕切りパネル工法における耐震性能					
		建築非構造部材の耐震性能に係る特記事項による					
		パネル幅の最小限度を 300 mm未満とする場合					
		・ 図示による ・ (mm)					
		パネル相互の目地幅 (mm)					
		・ 長辺 ・ 短辺					
		出隅及び入隅のパネル接合目地の目地幅 (mm)					
		※15 程度 ・					
		耐火構造以外の目地及び隙間の処理					
		※パネル製造所の仕様 ・					
		やむを得ず欠き込み等を行う場合は、下表の寸法を限度とし、欠損部分を考慮した強度を確認した資料を提出する					
				孔あけ及び欠き込みの大きさ	切断後のパネルの残り部分の幅		
		パネルに孔あけを設ける場合	短辺	パネル幅の 1/2 以下、かつ、300mm 以下	150mm 以下		
			長辺	パネル幅の 1/2 以下、かつ、300mm 以下	300mm 以下		
		パネルに欠き込みを設ける場合	短辺	パネル幅の 1/2 以下、かつ、300mm 以下	300mm 以下		
			長辺	パネル幅の 1/2 以下、かつ、300mm 以下	300mm 以下		

9

防水工事

1

アスファルト防水

特記事項

(9.2.2～9.2.5) (表 9.2.3～9.2.9)

屋根保護防水

防水層の種類

種別	施工箇所	断熱材	絶縁用シート
・A-1			※ポリエチレンフィルム厚さ 0.15mm 以上又はフラットヤンクロス 70g/ ㎡程度
・A-2			
・A-3			
・B-1			
・B-2			
◎AI-1	庁舎陸屋根	(種類) ※JIS A 9521 に基づく押 出法ポリエチレンフォーム断熱材 3種 bA (スチ層付き) (厚さ) (mm) ◎25	※フラットヤンクロス 70g/㎡程度
・AI-2			
・AI-3			
・BI-1			
・BI-2			

改質アスファルトルーフィングシートの種類及び厚さ

※標準仕様書 表 9.2.3 から表 9.2.8 による

・JIS A 6013 に基づく種類及び厚さ

用途による区分 ()

材料構成による区分 ※R 種

厚さ () mm 以上

部分粘着層付改質アスファルトルーフィングシートの種類及び厚さ

※標準仕様書 表 9.2.5 から 表 9.2.8 による

・JIS A 6013 に基づく種類及び厚さ

用途による区分 ()

材料構成による区分 ※R 種

厚さ () mm 以上

屋根保護防水密着断熱工法及び屋根保護防水絶縁断熱工法に用いる断熱材

種類 JIS A 9521 に基づく押出法ポリエチレンフォーム断熱材 3種 bA (スチ層付き)

厚さ (mm) ・25 ・50

平場の保護コンクリートの厚さ

こて仕上げ ※水下 80mm 以上 ・

床タイル張り ※水下 60mm 以上 ・

立上り部の保護工法

◎乾式保護材 (品質・性能及び試験方法は建築材料等品質性能表による)

窯業系パネルⅠ類 厚さ () mm 幅 () mm

・れんが押え (※JIS R 1250)

・コンクリート押え

・モルタル押え (屋内)

章	項 目	特 記 事 項																																						
		<div> <div> <div>屋根露出防水</div> <div>防水層の種別</div> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">種別</th> <th rowspan="2">施工箇所</th> <th rowspan="2">断熱材</th> <th colspan="2">仕上塗料</th> <th rowspan="2">高日射 反射率防水</th> </tr> <tr> <th>種類</th> <th>使用量</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>・D-1</td> <td></td> <td rowspan="3"> <div> <div>標準仕様書</div> <div>9.2.2(9)</div> <div>(種類)</div> <div>・</div> <div>(厚さ) (mm)</div> <div>・</div> </div> </td> <td rowspan="3"> <div>・アスファルトルーフィング類</div> <div>の製造所</div> <div>の仕様</div> <div>・</div> </td> <td rowspan="3"> <div>※アスファルトルーフィング類</div> <div>の製造所</div> <div>の仕様</div> <div>・</div> </td> <td>・適用する</td> </tr> <tr> <td>・D-2</td> <td></td> <td>・適用する</td> </tr> <tr> <td>・DI-1</td> <td></td> <td>・適用する</td> </tr> <tr> <td>・DI-2</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>・適用する</td> </tr> </tbody> </table> </div> <div> 改質アスファルトルーフィングシートの種類及び厚さ ※標準仕様書 表 9.2.8 による ・JIS A 6013 に基づく種類及び厚さ 用途による区分 () 材料による区分 ※R 種 厚さ () mm 以上 </div> <div> 部分粘着層付改質アスファルトルーフィングシートの種類及び厚さ ※標準仕様書 表 9.2.7 及び表 9.2.8 による ・JIS A 6013 に基づく種類及び厚さ 用途による区分 () 材料構成による区分 ※R 種 厚さ () mm 以上 </div> <div> 絶縁断熱工法のルーフトレン回り及び立上り部周辺の断熱材の張りじまい位置 ※図示 ・ </div> <div> 絶縁工法及び絶縁断熱工法の脱気装置の種類及び設置数量 種類 ※アスファルトルーフィング類の製造所の指定 ・ 設置数量 ※アスファルトルーフィング類の製造所の指定 ・ 個 </div> <div> <div>屋内防水</div> <div>防水層の種別</div> <table border="1"> <thead> <tr> <th>種別</th> <th>施工箇所</th> <th>種別</th> <th>施工箇所</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>・E-1</td> <td></td> <td>・E-2</td> <td></td> </tr> </tbody> </table> </div> <div> <div>保護層</div> <div>・設ける (※図示 ()) ・設けない</div> <div>E-1 の工程 3 を行う部位</div> <div>※貯水槽、浴槽等常時水に接する部位</div> <div>・</div> <div>防水層の下地の立上り</div> <div>※コンクリート打放し仕上げ 標準仕様書 表 6.2.4 [打放し仕上げ種別] の B 種</div> <div>・</div> <div>立上り部の押え金物の材質、形状及び寸法</div> <div>※アルミニウム製 L-30×15×2.0mm 程度 ・</div> <div>防水層の下地のモルタル塗り</div> <div>・適用する (施工範囲 ※図示による ())</div> <div>・適用しない</div> <div>屋上排水溝</div> <div>※図示による ・</div> </div> </div>					種別	施工箇所	断熱材	仕上塗料		高日射 反射率防水	種類	使用量	・D-1		<div> <div>標準仕様書</div> <div>9.2.2(9)</div> <div>(種類)</div> <div>・</div> <div>(厚さ) (mm)</div> <div>・</div> </div>	<div>・アスファルトルーフィング類</div> <div>の製造所</div> <div>の仕様</div> <div>・</div>	<div>※アスファルトルーフィング類</div> <div>の製造所</div> <div>の仕様</div> <div>・</div>	・適用する	・D-2		・適用する	・DI-1		・適用する	・DI-2					・適用する	種別	施工箇所	種別	施工箇所	・E-1		・E-2	
種別	施工箇所	断熱材	仕上塗料		高日射 反射率防水																																			
			種類	使用量																																				
・D-1		<div> <div>標準仕様書</div> <div>9.2.2(9)</div> <div>(種類)</div> <div>・</div> <div>(厚さ) (mm)</div> <div>・</div> </div>	<div>・アスファルトルーフィング類</div> <div>の製造所</div> <div>の仕様</div> <div>・</div>	<div>※アスファルトルーフィング類</div> <div>の製造所</div> <div>の仕様</div> <div>・</div>	・適用する																																			
・D-2					・適用する																																			
・DI-1					・適用する																																			
・DI-2					・適用する																																			
種別	施工箇所	種別	施工箇所																																					
・E-1		・E-2																																						

章	項 目	特 記 事 項																																											
	2 改質アスファルトシート防水	(9.3.2) (9.3.3) (表 9.3.1～9.3.3)																																											
		屋根露出防水 防水層の種別																																											
		<table><tr><th rowspan="2">種別</th><th rowspan="2">施工箇所</th><th rowspan="2">断熱材</th><th rowspan="2">防湿用シート</th><th colspan="2">仕上塗料</th><th rowspan="2">高日射 反射率防水</th></tr><tr><th>種類</th><th>使用量</th></tr><tr><td>・AS-T1</td><td></td><td rowspan="5"><div></div></td><td rowspan="5"><div></div></td><td rowspan="5">※改質アスファルトシートの製造所の仕様 ・</td><td rowspan="5">※改質アスファルトシートの製造所の仕様 ・</td><td>・適用する</td></tr><tr><td>・AS-T2</td><td></td><td>・適用する</td></tr><tr><td>・AS-T3</td><td></td><td>・適用する</td></tr><tr><td>・AS-T4</td><td></td><td>・適用する</td></tr><tr><td>・AS-J1</td><td></td><td>・適用する</td></tr><tr><td>・ASI-T1</td><td></td><td rowspan="2">標準仕様書 9.3.2(3) (ㇿ) (種類) ・ (厚さ) (mm) ・</td><td rowspan="2">・設ける (改質アスファルトシートの製造所の仕様) ・設けない</td><td rowspan="2"></td><td rowspan="2"></td><td>・適用する</td></tr><tr><td>・ASI-J1</td><td></td><td>・適用する</td></tr></table>						種別	施工箇所	断熱材	防湿用シート	仕上塗料		高日射 反射率防水	種類	使用量	・AS-T1		<div></div>	<div></div>	※改質アスファルトシートの製造所の仕様 ・	※改質アスファルトシートの製造所の仕様 ・	・適用する	・AS-T2		・適用する	・AS-T3		・適用する	・AS-T4		・適用する	・AS-J1		・適用する	・ASI-T1		標準仕様書 9.3.2(3) (ㇿ) (種類) ・ (厚さ) (mm) ・	・設ける (改質アスファルトシートの製造所の仕様) ・設けない			・適用する	・ASI-J1		・適用する
種別	施工箇所	断熱材	防湿用シート	仕上塗料		高日射 反射率防水																																							
				種類	使用量																																								
・AS-T1		<div></div>	<div></div>	※改質アスファルトシートの製造所の仕様 ・	※改質アスファルトシートの製造所の仕様 ・	・適用する																																							
・AS-T2						・適用する																																							
・AS-T3						・適用する																																							
・AS-T4						・適用する																																							
・AS-J1						・適用する																																							
・ASI-T1		標準仕様書 9.3.2(3) (ㇿ) (種類) ・ (厚さ) (mm) ・	・設ける (改質アスファルトシートの製造所の仕様) ・設けない			・適用する																																							
・ASI-J1						・適用する																																							
		改質アスファルトシートの種類及び厚さ ※標準仕様書 表 9.3.1 から 表 9.3.3 による ・ JIS A 6013 に基づく種類及び厚さ 用途による区分 () 材料による区分 ※R 種 厚さ () mm以上																																											
		粘着層付改質アスファルトシートの種類及び厚さ ※標準仕様書 表 9.3.1 から 表 9.3.3 による ・ JIS A 6013 に基づく種類及び厚さ 用途による区分 () 材料による区分 ※R 種 厚さ () mm 以上																																											
		部分粘着層付改質アスファルトシートの種類及び厚さ ※標準仕様書 表 9.3.1 から 表 9.3.3 による ・ JIS A 6013 に基づく種類及び厚さ 用途による区分 () 材料による区分 ※R 種 厚さ () mm 以上																																											
		立上り部の押え金物の材質、形状及び寸法 ※アルミニウム製 L-30×15×2.0 mm程度 ・																																											
		絶縁工法及び絶縁断熱工法の脱気装置の種類及び設置数量 種類 ※アスファルトルーフィング類の製造所の指定 ・ 設置数量 ※アスファルトルーフィング類の製造所の指定 ・ 個																																											

章	項 目	特 記 事 項					
3	合成高分子系 ルーフィングシート防水	(9.4.2～9.4.4) (表9.4.1～9.4.3)					
		防水層の種別					
		種別	施工箇所	可塑剤 移行防止 シートの材質	断熱材	仕上塗料 種類 使用量	高日射 反射率 防水
		・S-F1				※ルーフィングシートの 製造所の仕様 ・	・適用 する
		・S-F2					・適用 する
		・S-M1				※ルーフィングシートの 製造所の仕様 ・	・適用 する
		・S-M2					・適用 する
		・SI-F1			標準仕様書 9.4.2(3) (イ) (b) (種類) ・ (厚さ) (mm) ・	※ルーフィングシートの 製造所の仕様 ・	・適用 する
		・SI-F2					・適用 する
		・SI-M1			標準仕様書 9.4.2(3) (イ) (a) (種類) ・ (厚さ) (mm) ・	※ルーフィングシートの 製造所の仕様 ・	・適用 する
		・SI-M2					・適用 する
				※発泡ポリ エチレンシート ・			
		S-F1、S-M1、S-F2、S-M2 の仕様 ※非歩行仕様 ・軽歩行仕様 SI-M1、SI-M2 における防湿用フィルム ・設置する ・設置しない					
		屋内防水					
		種別	施工箇所	保護層 平場の保護モルタル塗厚 立上り部の保護モルタル塗厚			
		・S-C1		・	※7mm 以下 ・		
		平場のモルタル床塗りににおける目地の目地割及び種類 目地割 ※目地割り 2 m程度、最大目地間隔 3m 程度 ・ 目地の種類 ・押し目地 ・					
		合成高分子系ルーフィングシートの種類及び厚さ ※標準仕様書 表9.4.1 から表9.4.3 による ・JIS A 6008 に基づく種類及び厚さ 種類 ・ 厚さ ・() mm以上					
		固定金具の材質及び寸法形状 ※厚さ 0.4mm 以上の防錆処理した鋼板、ステンレス鋼板又はそれらの鋼板の片面若しくは両面に樹脂を積層加工したもの ・					
		接着工法の場合の脱気装置の種類及び設置数量 種類 ※ルーフィングシートの製造所の仕様 設置数量 ※ルーフィングシートの製造所の仕様 ・() 個					
		接着工法の場合のプレキャストコンクリート部材下地の目地処理 ・行う (・図示による ・) ・行わない プレキャストコンクリート下地の入隅部の増張り (種別 S-F1、SI-F1 の場合) ・行う (・図示による ・) ・行わない					
		機械的固定工法の場合の一般部のルーフィングシートの張付け 1 章 適用区分による風圧力の (・1 ・) 倍の風圧力に対応した工法					

章	項 目	特 記 事 項																																				
4	塗膜防水	(9.5.3) (表 9.5.1) (表 9.5.2)																																				
		<div>防水層の種別</div> <table><tr><th rowspan="2">種別</th><th rowspan="2">施工箇所</th><th colspan="2">仕上塗料</th><th rowspan="2">保護層</th><th rowspan="2">高日射 反射率防水</th></tr><tr><th>種類</th><th>使用量</th></tr><tr><td>◎X-1</td><td>庁舎車庫屋根</td><td>※主材料の製造所の仕様 ・</td><td>※主材料の製造所の仕様 ・</td><td></td><td>・適用する</td></tr><tr><td>◎X-2</td><td>庁舎屋上、塔屋屋根、ハト小屋</td><td>※主材料の製造所の仕様 ・</td><td>※主材料の製造所の仕様 ・</td><td></td><td>・適用する</td></tr><tr><td>・Y-1</td><td>※地下外壁防水 ・</td><td colspan="2"></td><td></td><td></td></tr><tr><td>・Y-2</td><td>※屋内防水 ・</td><td colspan="2"></td><td>・適用する ・適用しない</td><td></td></tr></table> <div>ウレタンゴム系塗膜防水 X-1 (絶縁工法) の脱気装置の種類及び設置数量</div> <table><tr><td>種類</td><td>※主材料の製造所の仕様</td><td>・</td></tr><tr><td>設置数量</td><td>※主材料の製造所の仕様</td><td>・</td></tr></table>	種別	施工箇所	仕上塗料		保護層	高日射 反射率防水	種類	使用量	◎X-1	庁舎車庫屋根	※主材料の製造所の仕様 ・	※主材料の製造所の仕様 ・		・適用する	◎X-2	庁舎屋上、塔屋屋根、ハト小屋	※主材料の製造所の仕様 ・	※主材料の製造所の仕様 ・		・適用する	・Y-1	※地下外壁防水 ・					・Y-2	※屋内防水 ・			・適用する ・適用しない		種類	※主材料の製造所の仕様	・	設置数量
種別	施工箇所	仕上塗料			保護層	高日射 反射率防水																																
		種類	使用量																																			
◎X-1	庁舎車庫屋根	※主材料の製造所の仕様 ・	※主材料の製造所の仕様 ・		・適用する																																	
◎X-2	庁舎屋上、塔屋屋根、ハト小屋	※主材料の製造所の仕様 ・	※主材料の製造所の仕様 ・		・適用する																																	
・Y-1	※地下外壁防水 ・																																					
・Y-2	※屋内防水 ・			・適用する ・適用しない																																		
種類	※主材料の製造所の仕様	・																																				
設置数量	※主材料の製造所の仕様	・																																				
5	ケイ酸質系塗布防水	(9.6.1) (9.6.3) (9.6.4) (表 9.6.1) (表 9.6.2)																																				
6	シーリング	(9.7.2、9.7.3、9.7.5) (表 9.7.1)																																				
		<div>下表以外は、標準仕様書 表 9.7.1 による</div> <div>ただし、外壁タイル接着剤張り目地の場合のシーリングは 11 章に、カーテンウォール目地の場合のシーリングは 17 章による</div> <table><tr><th>施工箇所</th><th>シーリング材の種類 (記号)</th></tr><tr><td>建具廻り、水廻り、外壁目地防水端部</td><td>変性シリコーン (MS-2)</td></tr><tr><td>打継目地、誘発目地</td><td>ポリサルファイド (RS-2)</td></tr><tr><td></td><td></td></tr></table> <div>仕上げを行わない施工箇所 (・図示による </div>	施工箇所	シーリング材の種類 (記号)	建具廻り、水廻り、外壁目地防水端部	変性シリコーン (MS-2)	打継目地、誘発目地	ポリサルファイド (RS-2)																														
施工箇所	シーリング材の種類 (記号)																																					
建具廻り、水廻り、外壁目地防水端部	変性シリコーン (MS-2)																																					
打継目地、誘発目地	ポリサルファイド (RS-2)																																					

章	項 目	特 記 事 項																																																											
10 石 工 事	1 施工	(10. 1. 3) (10. 1. 5) 石材の割付け ※図示による																																																											
	2 石材等	(10. 2. 1) (10. 2. 3) (表 10. 2. 1) (表 10. 2. 2) 天然石 <table><tr><th>施工箇所</th><th>岩石の 種類</th><th>形状及び寸法 (mm)</th><th>厚さ (mm)</th><th>表面仕上 げの種類</th><th>備考</th></tr><tr><td>・ 床石</td><td></td><td>※図示による</td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr></table> ジェットバーナー仕上げの場合のパフ仕上げの有無 ・ あり ・ なし テラゾブロック <table><tr><th>施工箇所</th><th>種石の種類</th><th>種石の大 きさ (mm)</th><th>形状に よる区分</th><th>仕上げ面 による区分</th><th>寸法 (mm)</th><th>表面仕 上げの 種類</th><th>備考</th></tr><tr><td></td><td>※大理石 ・ 花こう岩</td><td>※1. 5～12</td><td>・ 平もの ・ 役もの</td><td>・ 片面 ・ 両面</td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr></table> テラゾタイル <table><tr><th>施工箇所</th><th>種石の種類</th><th>種石の 大きさ (mm)</th><th>寸法による区分</th><th>表面仕上げ の種類</th><th>備考</th></tr><tr><td></td><td>※大理石 ・ 花こう岩</td><td>※1. 5～12</td><td>・ 300 型 ・ 400 型</td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr></table> <div>(10. 2. 3)</div> その他の材料 取付け用モルタル ※専門工事業者の指定する製品 既調合の目地モルタル ※専門工事業者の指定する製品 浸透性吸水防水剤 ※専門工事業者の指定する製品 石裏面処理材 ※専門工事業者の指定する製品 裏打ち処理材 ※専門工事業者の指定する製品 ドレンパイプの材質 ・ 樹脂ネット製パイプ クロスメッシュ巻き 25～35φ ・ 金物の固定に使用する充填材料等 ※専門工事業者の指定する製品	施工箇所	岩石の 種類	形状及び寸法 (mm)	厚さ (mm)	表面仕上 げの種類	備考	・ 床石		※図示による										施工箇所	種石の種類	種石の大 きさ (mm)	形状に よる区分	仕上げ面 による区分	寸法 (mm)	表面仕 上げの 種類	備考		※大理石 ・ 花こう岩	※1. 5～12	・ 平もの ・ 役もの	・ 片面 ・ 両面												施工箇所	種石の種類	種石の 大きさ (mm)	寸法による区分	表面仕上げ の種類	備考		※大理石 ・ 花こう岩	※1. 5～12	・ 300 型 ・ 400 型							
施工箇所	岩石の 種類	形状及び寸法 (mm)	厚さ (mm)	表面仕上 げの種類	備考																																																								
・ 床石		※図示による																																																											
施工箇所	種石の種類	種石の大 きさ (mm)	形状に よる区分	仕上げ面 による区分	寸法 (mm)	表面仕 上げの 種類	備考																																																						
	※大理石 ・ 花こう岩	※1. 5～12	・ 平もの ・ 役もの	・ 片面 ・ 両面																																																									
施工箇所	種石の種類	種石の 大きさ (mm)	寸法による区分	表面仕上げ の種類	備考																																																								
	※大理石 ・ 花こう岩	※1. 5～12	・ 300 型 ・ 400 型																																																										

章	項 目	特 記 事 項
	3 外壁湿式工法	<p>(10. 2. 2) (10. 2. 3) (10. 3. 2) (10. 3. 3)</p> <p>受金物 材質 ※SUS304 ・</p> <p>形状及び寸法 ・ L-75×75×6 (mm) の加工 長さ 100mm 又は 150mm ・</p> <p>アンカーの材質及び寸法 材質 ※SS400 寸法 ・</p> <p>あと施工アンカーの材質、寸法等 種類 ・ 材質 ・ 寸法 ・</p> <p>ドレンパイプ ・ 設ける (設置位置 : 図示による) ・ 設けない</p> <p>石裏面処理 ・ 適用する ・ 適用しない</p> <p>裏打ち処理 ・ 適用する ・ 適用しない</p> <p>下地ごしらえ ※あと施工アンカー、横筋流し工法 ・ あと施工アンカー工法 ・ 流し筋工法</p> <p>目地 一般目地 ・ 目地モルタル (目地幅 ・) ・ 既調合の目地モルタル (目地幅 ・) ※シーリング材 (種類 ※標準仕様書 表 9. 7. 1 による ・) (目地幅及び深さ ・)</p> <p>伸縮調整目地 位置 ・ 図示による</p> <p>シーリングの材の種類 ※標準仕様書 表 9. 7. 1 による ・</p> <p>目地寸法 ※幅・深さとも 10mm 以上 ・ 図示による</p>

章	項 目	特 記 事 項
	4 内壁空積工法	<p>(10. 2. 2) (10. 4. 2) (10. 4. 3)</p> <p>受金物 材質 ※SUS304</p> <p>形状及び寸法 ・ L-75×75×6(mm) の加工 長さ 100mm 又は 150mm</p> <p>あと施工アンカーの材質、寸法等 種類 材質 寸法</p> <p>石裏面処理 ・ 適用する ・ 適用しない</p> <p>裏打ち処理 ・ 適用する ・ 適用しない</p> <p>下地ごしらえ ※あと施工アンカー、横筋流し工法 ・ あと施工アンカー工法</p> <p>一般目地 ・ 目地モルタル (目地幅) ・ 既調合の目地モルタル (目地幅) ・ シーリング材 (種類 ※標準仕様書 表 9. 7. 1 による) (目地幅及び深さ)</p> <p>伸縮調整目地 位置 ・ 6m 程度 ・ 図示</p> <p>シーリング材の種類 ※標準仕様書 表 9. 7. 1 による</p> <p>目地寸法 ・</p>

章	項 目	特 記 事 項
	5 乾式工法	<p>(10. 2. 2) (10. 5. 2) (10. 5. 3) (表 10. 2. 4)</p> <p>乾式工法の方式による金物の種類、形状、寸法等 ※標準仕様書表 10. 2. 4による (方式： ・スライド方式 ・ロッキング方式) ・図示</p> <p>あと施工アンカーの材質、寸法等 種類 ・ 材質 ・ 寸法 ・</p> <p>だぼ用の穴の位置 ※標準仕様書 10. 5. 2 (2) (7)による ・図示による</p> <p>裏打ち処理 ・適用する ・適用しない</p> <p>建築基準法に基づく風圧力に対応した工法 1 章 適用区分による風圧力の (・1 ・1. 15 ・1. 3) 倍の風圧力に対応した工法</p> <p>シーリング材 種類 ※標準仕様書 表 9. 7. 1 による ・ 目地幅及び深さ ・</p>
	6 床及び階段の石張り	<p>(10. 6. 2) (10. 6. 3)</p> <p>浸透性吸水防水剤 (床石張り) ・適用する ・適用しない</p> <p>石裏面処理 (床石張り) ・適用する ・適用しない (階段張り) ・適用する ・適用しない</p> <p>裏打ち処理 (床石張り) ・適用する ・適用しない</p> <p>一般目地 ・目地モルタル (目地幅 ・) ・既調合の目地モルタル (目地幅 ・) ・シーリング材 (種類 ※標準仕様書 表 9. 7. 1 による ・) (目地幅及び深さ ・)</p> <p>伸縮調整目地 位置 ※標準仕様書 10. 6. 2 (5) (a)による ・図示による</p> <p>シーリング材の種類 ※標準仕様書 表 9. 7. 1 による ・</p> <p>目地寸法 ※幅・深さともに 10mm 以上 ・図示による</p>

章	項 目	特 記 事 項
	7 アーチ、上げ裏等の石張り	<p>(10. 2. 2) (10. 7. 1) (10. 7. 2)</p> <p>取付け工法 ・ 内壁空積工法 ・ 乾式工法</p> <p>特殊部位用金物</p> <p>材質 ※ステンレス (SUS304)</p> <p>寸法等 引金物 ※標準仕様書表 10. 2. 3 による ・</p> <p>だぼ ※標準仕様書表 10. 2. 3 による ・</p> <p>かすがい ※標準仕様書表 10. 2. 3 による ・</p> <p>受け金物 ※標準仕様書 10. 2. 2 (1) (イ) による ・</p> <p>乾式工法用金物の種類、形状、寸法等</p> <p>※標準仕様書表 10. 2. 4 に準ずる</p> <p>(方式 : ・ スライド方式 ・ ロッキング方式)</p> <p>・ 図示</p> <p>吊金物及び化粧吊りボルト</p> <p>・ 設ける 吊金物 ※ステンレス (SUS304) 径 6mm 長さ 80mm (加工物)</p> <p>・</p> <p>吊りボルト ※ステンレス (SUS304) M10 化粧ナット付き</p> <p>・</p> <p>・ 設けない</p> <p>あと施工アンカーの材質、寸法等 ・</p> <p>アンカーの材質及び径 ・ SS400 (・ M12 ・)</p> <p>・ ステンレス (SUS304) (・ M10 ・)</p> <p>・</p> <p>石裏面処理 ・ 適用する ・ 適用しない</p> <p>裏打ち処理 ・ 適用する ・ 適用しない</p> <p>目地 一般目地 目地幅 ※6mm 以上 ・</p> <p>伸縮調整目地 位置 ※他の部位との取り合い部 ・ 図示</p> <p>シーリング材の目地寸法 ※幅・深さともに 10mm 以上</p> <p>・ 図示 ・</p>

章	項 目	特 記 事 項
	8 笠木、甲板等の石張り	(10. 2. 2) (10. 7. 1) (10. 7. 3)
		<p>取付け工法</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 湿式工法 ・ 乾式工法 <p>特殊部位用金物</p> <p>材質</p> <ul style="list-style-type: none"> ※ステンレス (SUS304) <p>寸法等</p> <p>引金物</p> <ul style="list-style-type: none"> ※標準仕様書表 10. 2. 3 による ・ <p>だぼ</p> <ul style="list-style-type: none"> ※標準仕様書表 10. 2. 3 による ・ <p>かすがい</p> <ul style="list-style-type: none"> ※標準仕様書表 10. 2. 3 による ・ <p>受金物</p> <ul style="list-style-type: none"> ※標準仕様書 10. 2. 2 (1) (イ) による ・ <p>乾式工法的方式による金物の種類、形状、寸法等</p> <p>ファスナー</p> <ul style="list-style-type: none"> ※標準仕様書表 10. 2. 4 に準ずる (方式： ・ スライド方式 ・ ロッキング方式) ・ 図示 <p>あと施工アンカーの材質、寸法等</p> <p>種類 ・</p> <p>材質 ・</p> <p>寸法 ・</p> <p>石裏面処理</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 適用する ・ 適用しない <p>乾式工法の場合の取付け代</p> <ul style="list-style-type: none"> ※70 mm程度 ・ <p>石材の裏面の補強用モルタル</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 適用する ・ 適用しない <p>一般目地</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 目地モルタル (目地幅 ・) ・ 既調合の目地モルタル (目地幅 ・) ・ シーリング材 (種類 ※標準仕様書 表 9. 7. 1 による ・) (目地幅及び深さ ・) <p>伸縮調整目地</p> <p>位置</p> <ul style="list-style-type: none"> ※標準仕様書 10. 6. 2 (5) (a) による ・ 図示による <p>シーリング材の種類</p> <ul style="list-style-type: none"> ※標準仕様書 表 9. 7. 1 による ・ <p>目地寸法</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 図示による

章	項 目	特 記 事 項																																																										
11 タイル工事	1 伸縮調整目地及びひび割れ誘発目地	(11.1.3) (表 11.1.1) 位置 ※標準仕様書 表 11.1.1 による ・図示による 目地寸法 ・図示による ・																																																										
	2 見本焼き・試験施工	(11.1.4) 見本焼き ・行う（施工箇所： ） ・行わない 試験張り ・行う（範囲、仕様等は図示による） ・行わない																																																										
	3 セメントモルタルによるタイル張り	(11.2.2) (11.2.6) タイルの形状、寸法等 <table><tr><td>施工箇所</td><td>庁舎ピロティ床</td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>種類</td><td>図示</td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>形状/寸法(mm)</td><td>図示</td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>再生材料の適用</td><td>◎適用する</td><td>・適用する</td><td>・適用する</td><td>・適用する</td></tr><tr><td>吸水率による区分</td><td>◎Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ</td><td>・Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ</td><td>・Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ</td><td>・Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ</td></tr><tr><td>うわぐすり</td><td>◎施ゆう ・無ゆう</td><td>・施ゆう ・無ゆう</td><td>・施ゆう ・無ゆう</td><td>・施ゆう ・無ゆう</td></tr><tr><td>役物</td><td>・有 ◎無</td><td>・有 ・無</td><td>・有 ・無</td><td>・有 ・無</td></tr><tr><td>色</td><td>◎標準 ・特注</td><td>・標準 ・特注</td><td>・標準 ・特注</td><td>・標準 ・特注</td></tr><tr><td>耐凍害性</td><td>◎有 ・無</td><td>・有 ・無</td><td>・有 ・無</td><td>・有 ・無</td></tr><tr><td>耐滑り性</td><td>・</td><td>・</td><td>・</td><td>・</td></tr><tr><td>備考</td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr></table> 標準的な曲がりの役物は一体成形とする。 既調合モルタル（品質・性能及び試験方法は建築材料等品質性能表による） モルタル下地としたタイル工事に使用する張付け用モルタルとして、セメント、細骨材、混和剤等を予め工場において所定の割合に配合した材料とする。 既調合目地材（品質・性能及び試験方法は建築材料等品質性能表による） 下地モルタル塗りを行うコンクリート素地面の下地処理 ※目荒し工法（高圧水洗処理） ・MCR 工法 ・ 壁タイル張りの工法 内外装タイル ◎密着張り ・改良圧着張り 内装タイル以外のユニットタイル ・マスク張り ・モザイクタイル張り					施工箇所	庁舎ピロティ床				種類	図示				形状/寸法(mm)	図示				再生材料の適用	◎適用する	・適用する	・適用する	・適用する	吸水率による区分	◎Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ	・Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ	・Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ	・Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ	うわぐすり	◎施ゆう ・無ゆう	・施ゆう ・無ゆう	・施ゆう ・無ゆう	・施ゆう ・無ゆう	役物	・有 ◎無	・有 ・無	・有 ・無	・有 ・無	色	◎標準 ・特注	・標準 ・特注	・標準 ・特注	・標準 ・特注	耐凍害性	◎有 ・無	・有 ・無	・有 ・無	・有 ・無	耐滑り性	・	・	・	・	備考			
施工箇所	庁舎ピロティ床																																																											
種類	図示																																																											
形状/寸法(mm)	図示																																																											
再生材料の適用	◎適用する	・適用する	・適用する	・適用する																																																								
吸水率による区分	◎Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ	・Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ	・Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ	・Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ																																																								
うわぐすり	◎施ゆう ・無ゆう	・施ゆう ・無ゆう	・施ゆう ・無ゆう	・施ゆう ・無ゆう																																																								
役物	・有 ◎無	・有 ・無	・有 ・無	・有 ・無																																																								
色	◎標準 ・特注	・標準 ・特注	・標準 ・特注	・標準 ・特注																																																								
耐凍害性	◎有 ・無	・有 ・無	・有 ・無	・有 ・無																																																								
耐滑り性	・	・	・	・																																																								
備考																																																												

章	項 目	特 記 事 項			
	4 有機系接着剤による タイル張り	(11.3.2～11.3.5)			
		タイルの形状、寸法等			
		施工箇所			
		種類			
		形状/寸法(mm)			
		再生材料 の適用	・適用する	・適用する	・適用する
		吸水率による 区分	・Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ	・Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ	・Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ
		うわぐすり	・施ゆう ・無ゆう	・施ゆう ・無ゆう	・施ゆう ・無ゆう
		役物	・有 ・無	・有 ・無	・有 ・無
		色	・標準 ・特注	・標準 ・特注	・標準 ・特注
		耐凍害性	・有 ・無	・有 ・無	・有 ・無
		耐滑り性	・	・	・
		備考			
		標準的な曲がりの役物は一体成形とする			
		内装タイル接着剤張りの接着剤のホルムアルデヒド放散量 ※F☆☆☆☆			
		目地のシーリング材 打継ぎ目地 ※ポリウレタン系シーリング材			
		ひび割れ誘発目地 ※ポリウレタン系シーリング材			
		伸縮調整目地及びその他の目地 ※変成シリコン系シーリング材			
		下地調整塗材塗りをを行うコンクリート素地面の下地処理 ※目荒し工法(高圧水洗処理) ・MCR 工法			
		外装タイルの目地詰め ・行う ・行わない			

章	項 目	特 記 事 項																																																																													
12 木 工 事	1 施工一般	(12. 2. 1) 材料のホルムアルデヒド放散量 ※F☆☆☆☆又は標準仕様書 12. 2. 1 (1) (ウ) (b)による																																																																													
	2 製材	(12. 2. 1) (12. 4. 1) (12. 5. 1) (12. 6. 1) (12. 7. 1) ・ JAS 1083-5 製材-第 5 部に基づく下地用製材 <table><tr><th>施工箇所</th><th>寸法 (mm)</th><th>等級</th><th>含水率</th><th>保存処理</th><th>間伐材等 の適用</th></tr><tr><td></td><td></td><td>※2 級 ・</td><td>※A 種 ・ B 種 ・</td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td>※2 級 ・</td><td>※A 種 ・ B 種 ・</td><td></td><td></td></tr></table> ・ JAS 1083-2 製材-第 2 部に基づく造作用製材 <table><tr><th>施工箇所</th><th>寸法 (mm)</th><th>等級</th><th>含水率</th><th>保存処理</th><th>間伐材等 の適用</th></tr><tr><td>見え掛り面</td><td></td><td>※上小節 ・</td><td>※A 種 ・ B 種 ・</td><td></td><td></td></tr><tr><td>見え掛り面以外</td><td></td><td>※小節以上 ・</td><td>※A 種 ・ B 種 ・</td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td>※A 種 ・ B 種 ・</td><td></td><td></td></tr></table> ・ JAS 1083-6 製材-第 6 部に基づく広葉樹製材 <table><tr><th>施工箇所</th><th>寸法 (mm)</th><th>等級</th><th>含水率</th><th>保存処理</th><th>間伐材等 の適用</th></tr><tr><td></td><td></td><td>※1 等 ・</td><td>※10%以下 ・ A 種 ・ B 種 ・</td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td>※1 等 ・</td><td>※10%以下 ・ A 種 ・ B 種 ・</td><td></td><td></td></tr></table> ・ JAS 1083 (製材) 以外の製材 <table><tr><th>施工箇所</th><th>寸法 (mm)</th><th>材面の品質</th><th>防虫処理の適用</th><th>含水率</th><th>間伐材等 の適用</th></tr><tr><td></td><td></td><td>() 造作材の場合 (※A 種・B 種)</td><td>・ 適用する ・ 適用しない</td><td>※A 種 ・ B 種 ・</td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td>() 造作材の場合 (※A 種・B 種)</td><td>・ 適用する ・ 適用しない</td><td>※A 種 ・ B 種 ・</td><td></td></tr></table>	施工箇所	寸法 (mm)	等級	含水率	保存処理	間伐材等 の適用			※2 級 ・	※A 種 ・ B 種 ・					※2 級 ・	※A 種 ・ B 種 ・			施工箇所	寸法 (mm)	等級	含水率	保存処理	間伐材等 の適用	見え掛り面		※上小節 ・	※A 種 ・ B 種 ・			見え掛り面以外		※小節以上 ・	※A 種 ・ B 種 ・						※A 種 ・ B 種 ・			施工箇所	寸法 (mm)	等級	含水率	保存処理	間伐材等 の適用			※1 等 ・	※10%以下 ・ A 種 ・ B 種 ・					※1 等 ・	※10%以下 ・ A 種 ・ B 種 ・			施工箇所	寸法 (mm)	材面の品質	防虫処理の適用	含水率	間伐材等 の適用			() 造作材の場合 (※A 種・B 種)	・ 適用する ・ 適用しない	※A 種 ・ B 種 ・				() 造作材の場合 (※A 種・B 種)	・ 適用する ・ 適用しない	※A 種 ・ B 種 ・
施工箇所	寸法 (mm)	等級	含水率	保存処理	間伐材等 の適用																																																																										
		※2 級 ・	※A 種 ・ B 種 ・																																																																												
		※2 級 ・	※A 種 ・ B 種 ・																																																																												
施工箇所	寸法 (mm)	等級	含水率	保存処理	間伐材等 の適用																																																																										
見え掛り面		※上小節 ・	※A 種 ・ B 種 ・																																																																												
見え掛り面以外		※小節以上 ・	※A 種 ・ B 種 ・																																																																												
			※A 種 ・ B 種 ・																																																																												
施工箇所	寸法 (mm)	等級	含水率	保存処理	間伐材等 の適用																																																																										
		※1 等 ・	※10%以下 ・ A 種 ・ B 種 ・																																																																												
		※1 等 ・	※10%以下 ・ A 種 ・ B 種 ・																																																																												
施工箇所	寸法 (mm)	材面の品質	防虫処理の適用	含水率	間伐材等 の適用																																																																										
		() 造作材の場合 (※A 種・B 種)	・ 適用する ・ 適用しない	※A 種 ・ B 種 ・																																																																											
		() 造作材の場合 (※A 種・B 種)	・ 適用する ・ 適用しない	※A 種 ・ B 種 ・																																																																											

章	項 目	特 記 事 項							
3	造作用集成材	(12. 2. 1)							
		・「集成材の日本農林規格」による造作用集成材							
		施工箇所	品名	樹種名	寸法 (mm)	見付け 材面数	見付け材 面の品質	間伐材等 の適用	
							※1 等 ・ 2 等		
							※1 等 ・ 2 等		
		・「集成材の日本農林規格」による化粧ばり造作用集成材							
		施工箇所	品名	樹種名	寸法 (mm)	化粧薄 板の厚 さ (mm)	見付 け材 面数	見付け 材面の 品質	間伐 材等 の適 用
				化粧薄板： 心材：				※1 等 ・ 2 等	
				化粧薄板： 心材：				※1 等 ・ 2 等	
		・「集成材の日本農林規格」以外の造作用集成材							
		施工箇所	樹種名	寸法 (mm)	見付け材面の品質		含水率	間伐材等 の適用	
							※15%以下 ・		
							※15%以下 ・		
		・「集成材の日本農林規格」以外の化粧ばり造作用集成材							
		施工箇所	樹種名	寸法 (mm)	化粧薄 板の厚 さ (mm)	見付け材 面の品質	含水率	間伐材等 の適用	
	化粧薄板： 心材：				※15%以下 ・				
	化粧薄板： 心材：				※15%以下 ・				

章	項 目	特 記 事 項								
	4 造作用単板積層材	(12. 2. 1)								
		・ JAS 0701 に基づく造作用単板積層材								
		施工箇所	品名	寸法 (mm)	表面の品質	防虫処理	間伐材等 の適用			
						・ 適用する ・ 適用しない				
						・ 適用する ・ 適用しない				
		・ JAS 0701 以外の造作用単板積層材								
		施工箇所	寸法 (mm)	表面の品質	含水率	防虫処理	間伐材等 の適用			
					※14%以下 ・	・ 適用する ・ 適用しない				
					※14%以下 ・	・ 適用する ・ 適用しない				
		・ JAS 3079 に基づく直交集成板（CLT）								
		施工箇所	品名	強度等級	種別	接着性能 (使用環境)	樹種名	寸法 (mm)	間伐材等 の適用	
5	合板等	(12. 2. 1)								
		◎「合板の日本農林規格」による普通合板								
		施工 箇所	厚さ (mm)	単板の 樹種名	接着の 程度	板面の品質	防虫処理	間伐材等 の適用		
		◎図示 (ライニング、ユニット工事等)	※5.5 ◎図示		※1 類 ・ 2 類	広葉樹 ※2 等以上 ・ 1 等 針葉樹 ※C-D 以上 ・	・ 適用する ◎適用しない			
			・			・				
		・「合板の日本農林規格」による構造用合板								
		施工 箇所	厚さ (mm)	等級	単板の 樹種名	接着の 程度	板面の 品質	防虫処 理	強度等級	間伐材 等の適 用
			※12 ・	・ 1 級 ※2 級 以上		※1 類 ・ 特類	※C-D 以上 ・	・ 適 用 する ・ 適 用 しない	・ 指定する () ・ 指定しない	
			※12 ・	・ 1 級 ※2 級 以上		※1 類 ・ 特類	※C-D 以上 ・	・ 適 用 する ・ 適 用 しない	・ 指定する () ・ 指定しない	

章	項 目	特 記 事 項																	
		・「合板の日本農林規格」による化粧ばり構造用合板																	
		施工箇所	厚さ (mm)	単板の樹種 名	接着の程度	防虫処理	間伐材等 の適用				・ 1 類 ・ 特類	・ 適用する ・ 適用しない							
		施工箇所	厚さ (mm)	単板の樹種 名	接着の程度	防虫処理	間伐材等 の適用												
					・ 1 類 ・ 特類	・ 適用する ・ 適用しない													
		・「合板の日本農林規格」による天然木化粧合板																	
		施工箇所	化粧板に使用する 単板の樹種名	厚さ (mm)	接着の程 度	防虫処理				・ 1 類 ・ 2 類	・ 適用する ・ 適用しない								
		施工箇所	化粧板に使用する 単板の樹種名	厚さ (mm)	接着の程 度	防虫処理													
					・ 1 類 ・ 2 類	・ 適用する ・ 適用しない													
・「合板の日本農林規格」による特殊加工化粧合板																			
施工箇所	厚さ (mm)	接着の 程度	単板の樹 脂名	化粧加工 の方法	防虫処理			・ 1 類 ・ 2 類			・ 適用する ・ 適用しない								
施工箇所	厚さ (mm)	接着の 程度	単板の樹 脂名	化粧加工 の方法	防虫処理														
		・ 1 類 ・ 2 類			・ 適用する ・ 適用しない														
・パーティクルボード																			
施工箇所	表裏面の状態 による区分	曲げ強さ による区分	耐水性 による区分	難燃性に よる区分	厚さ (mm)			※13 タイプ ・	※P 又は M ・		※15mm ・								
施工箇所	表裏面の状態 による区分	曲げ強さ による区分	耐水性 による区分	難燃性に よる区分	厚さ (mm)														
		※13 タイプ ・	※P 又は M ・		※15mm ・														
・ JAS 0360 に基づく構造用パネル																			
施工箇所	寸法 (mm)																		
施工箇所	寸法 (mm)																		
・ MDF																			
施工箇所	厚さ (mm)	表面の状態によ る区分	曲げ強さに よる区分	接着剤によ る区分	難燃性によ る区分														
施工箇所	厚さ (mm)	表面の状態によ る区分	曲げ強さに よる区分	接着剤によ る区分	難燃性によ る区分														
6 接合具等		(12. 2. 2)																	
	造作材の化粧面の釘打ち ※隠し釘打ち ・ 釘頭埋め木 ・ 釘頭現し 諸金物 ※かすがい、座金、箱金物、短冊金物 (標準仕様書 表 12. 2. 3～12. 2. 5 に示す程度の指南品 表 14. 2. 2 の F 程度) ・ (形状： 寸法： 材質：)																		
7 接着剤		(12. 2. 2) (12. 2. 3)																	
	接着剤のホルムアルデヒドの放散量 ※F☆☆☆☆ ・																		

章	項 目	特 記 事 項																																		
13 屋根及びこの工事	1 長尺金属板葺	(13.2.2) (13.2.3)																																		
	<table border="1"> <thead> <tr> <th>施工箇所</th> <th>板及びコイルの種類</th> <th>塗膜の耐久性、めっき付着量等の種類及び記号</th> <th>厚さ (mm)</th> <th>屋根葺形式</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>庁舎屋根</td> <td>※JIS G 3322 の屋根用 着色◎有 ・無</td> <td>・5 類 (AZ150) ・</td> <td>◎0.4 ・0.5 ・</td> <td>・心木なし瓦棒葺 ◎立平葺 ・蟻掛葺 ・横葺 ・</td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>下葺材料 ◎アスファルトルーフィング 940 ・改質アスファルトルーフィング下葺材 (・一般タイプ ・複層基材タイプ ・粘着層付タイプ)</p> <p>工法 1 章 適用区分による風圧力の (・1 ・1.15 ・1.3) 倍の風圧力に対応した工法</p> <p>雪止め ・設置する (形状及び施工箇所 ※図示による ・) ◎設置しない</p>						施工箇所	板及びコイルの種類	塗膜の耐久性、めっき付着量等の種類及び記号	厚さ (mm)	屋根葺形式	備考	庁舎屋根	※JIS G 3322 の屋根用 着色◎有 ・無	・5 類 (AZ150) ・	◎0.4 ・0.5 ・	・心木なし瓦棒葺 ◎立平葺 ・蟻掛葺 ・横葺 ・																			
施工箇所	板及びコイルの種類	塗膜の耐久性、めっき付着量等の種類及び記号	厚さ (mm)	屋根葺形式	備考																															
庁舎屋根	※JIS G 3322 の屋根用 着色◎有 ・無	・5 類 (AZ150) ・	◎0.4 ・0.5 ・	・心木なし瓦棒葺 ◎立平葺 ・蟻掛葺 ・横葺 ・																																
2 折板葺	(13.2.2) (13.3.2) 表 13.2.1)																																			
		<table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">施工箇所</th> <th rowspan="2">形式</th> <th colspan="2">山高、山ピッチによる区分</th> <th rowspan="2">耐力による区分</th> <th rowspan="2">材料による区分</th> <th rowspan="2">厚さ (mm)</th> <th rowspan="2">軒先面戸板</th> <th rowspan="2">耐火性能</th> </tr> <tr> <th>山高</th> <th>山ピッチ</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>第二車庫</td> <td>・重ね形 ・はぜ締め形 ・かん合形 ・</td> <td>160</td> <td></td> <td>() 種</td> <td>※鋼板製 ・アルミウム合金板製</td> <td>0.8</td> <td>◎有り ・無し</td> <td>◎30 分 ・無し</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>材料 板及びコイルの種類 (JIS G 3322 の屋根用 (着色 ・有 ・)) 塗膜の耐久性、めっき付着量 (・5 類 (AZ150) ・)</p> <p>断熱材張り ◎行う (断熱材の種別 : 厚さ (mm) : 4 防火性能 :) ・行わない</p> <p>工法 1 章 適用区分による風圧力の (・1 ・1.15 ・1.3) 倍の風圧力に対応した工法</p> <p>耐雪性能に対応した工法の適用 ◎適用する ・適用しない</p> <p>折板のけらば納め ※けらば包みによる工法 ・</p> <p>雪止め ・設置する (形状及び施工箇所 ※図示による ・) ◎設置しない</p>						施工箇所	形式	山高、山ピッチによる区分		耐力による区分	材料による区分	厚さ (mm)	軒先面戸板	耐火性能	山高	山ピッチ	第二車庫	・重ね形 ・はぜ締め形 ・かん合形 ・	160		() 種	※鋼板製 ・アルミウム合金板製	0.8	◎有り ・無し	◎30 分 ・無し									
施工箇所	形式	山高、山ピッチによる区分		耐力による区分	材料による区分	厚さ (mm)	軒先面戸板			耐火性能																										
		山高	山ピッチ																																	
第二車庫	・重ね形 ・はぜ締め形 ・かん合形 ・	160		() 種	※鋼板製 ・アルミウム合金板製	0.8	◎有り ・無し	◎30 分 ・無し																												

章	項 目	特 記 事 項																											
	3 粘土瓦葺	(13. 4. 2) (13. 4. 3) <table><tr><th rowspan="2">施工箇所</th><th colspan="3">種類</th><th rowspan="2">大きさ</th><th rowspan="2">産地</th><th rowspan="2">役物瓦の種類</th><th rowspan="2">雪止め瓦</th></tr><tr><th>製法による区分</th><th>形状による区分</th><th>寸法による区分</th></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td>・適用する ・適用しない</td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td>・適用する ・適用しない</td></tr></table> <p>棧瓦の防災瓦の使用</p> <ul style="list-style-type: none">・適用する・適用しない <p>JIS A 5208 に基づく凍害試験等</p> <p>※行わない ・行う</p> <p>瓦棧木</p> <p>材質</p> <ul style="list-style-type: none">※杉・ひのき・ <p>寸法</p> <ul style="list-style-type: none">※幅 21×高さ 15 (mm) 以上・ <p>棟補強用心材</p> <p>材質</p> <ul style="list-style-type: none">※杉・ひのき・ <p>寸法</p> <ul style="list-style-type: none">※幅 40×高さ 30 (mm) 以上・ <p>瓦緊結用釘及びびねじ</p> <p>種類 () 径 () 長さ ()</p> <p>棟補強等に使用する金物等</p> <p>材質</p> <ul style="list-style-type: none">・ステンレス製・亜鉛めっき処理を行った鋼製 <p>形状、寸法、留付け方法</p> <p>※図示による</p> <ul style="list-style-type: none">・ <p>工法</p> <p>1 章 適用区分による風圧力の (・ 1 ・ 1.15 ・ 1.3) 倍の風圧力に対応した工法</p> <p>風圧力又は地震力に対応した瓦の緊結方法等</p> <p>※図示による</p> <ul style="list-style-type: none">・ <p>瓦棧木の留付け工法</p> <p>※図示による</p> <ul style="list-style-type: none">・ <p>棟の工法</p> <ul style="list-style-type: none">・ 7 寸丸伏せ棟又は F 形用冠瓦伏せ棟・ のし積み棟・ <p>面戸、雀口、葺土の露出する瓦接合部に仕上げを施す場合</p> <ul style="list-style-type: none">・モルタル・瓦葺き用しっくい	施工箇所	種類			大きさ	産地	役物瓦の種類	雪止め瓦	製法による区分	形状による区分	寸法による区分								・適用する ・適用しない								・適用する ・適用しない
施工箇所	種類			大きさ	産地	役物瓦の種類					雪止め瓦																		
	製法による区分	形状による区分	寸法による区分																										
							・適用する ・適用しない																						
							・適用する ・適用しない																						

章	項 目	特 記 事 項																																												
	4 とい	<div>(13. 5. 2) (13. 5. 3) (表 13. 5. 4)</div> <div>といその他の材種<ul style="list-style-type: none">・ 配管用鋼管◎硬質ポリ塩化ビニル管◎ルーフトレン<ul style="list-style-type: none">・ 表面処理鋼板（表面及び裏面の塗膜の種類： ）・ </div> <div>とい受金物</div> <div>材種<ul style="list-style-type: none">※標準仕様書表 13. 5. 2 による（溶融亜鉛めっきを行ったもの）・ </div> <div>形状<ul style="list-style-type: none">※市販品（とい径 100 以下）・ 25×4. 5（mm）以上（とい径 100 を超えるもの）・ </div> <div>取付け間隔<ul style="list-style-type: none">※標準仕様書表 13. 5. 2 による・ </div> <div>足金物</div> <div>材種<ul style="list-style-type: none">※標準仕様書表 13. 5. 2 による（溶融亜鉛めっきを行ったもの）・ </div> <div>形状<ul style="list-style-type: none">※市販品・ </div> <div>取付け間隔<ul style="list-style-type: none">※標準仕様書表 13. 5. 2 による・ </div> <div>多雪地域<ul style="list-style-type: none">・ 適用する ・ 適用しない</div> <div>防露材のホルムアルデヒド放散量<ul style="list-style-type: none">※F☆☆☆☆ ・ </div> <div>鋼管製といの防露巻き<ul style="list-style-type: none">※標準仕様書表 13. 5. 4 による・ </div> <div>ルーフトレンの種類及び呼び<table><tr><th colspan="2">種別</th><th colspan="3">呼び</th><th>施工箇所</th></tr><tr><td rowspan="2">・ ろく屋根用たて形Ⅰ型</td><td rowspan="2">※ねじ込み式</td><td>・ 80</td><td colspan="2">・ 100</td><td rowspan="2"></td></tr><tr><td>・ 125</td><td colspan="2">・ 150</td></tr><tr><td rowspan="2">・ ろく屋根用横形Ⅰ型</td><td rowspan="2">※ねじ込み式</td><td>・ 80</td><td colspan="2">・ 100</td><td rowspan="2"></td></tr><tr><td>・ 125</td><td colspan="2">・ 150</td></tr><tr><td rowspan="2">・ バルコニー中継用</td><td>・ ねじ込み式</td><td>・ 50</td><td>・ 80</td><td>・ 100</td><td rowspan="2"></td></tr><tr><td>・ 差し込み式</td><td>・ 50</td><td>・ 75</td><td>・ 100</td></tr><tr><td rowspan="2">・ バルコニー一用</td><td>・ ねじ込み式</td><td>・ 50</td><td>・ 80</td><td>・ 100</td><td rowspan="2"></td></tr><tr><td>・ 差し込み式</td><td>・ 50</td><td>・ 75</td><td>・ 100</td></tr></table></div>	種別		呼び			施工箇所	・ ろく屋根用たて形Ⅰ型	※ねじ込み式	・ 80	・ 100			・ 125	・ 150		・ ろく屋根用横形Ⅰ型	※ねじ込み式	・ 80	・ 100			・ 125	・ 150		・ バルコニー中継用	・ ねじ込み式	・ 50	・ 80	・ 100		・ 差し込み式	・ 50	・ 75	・ 100	・ バルコニー一用	・ ねじ込み式	・ 50	・ 80	・ 100		・ 差し込み式	・ 50	・ 75	・ 100
種別		呼び			施工箇所																																									
・ ろく屋根用たて形Ⅰ型	※ねじ込み式	・ 80	・ 100																																											
		・ 125	・ 150																																											
・ ろく屋根用横形Ⅰ型	※ねじ込み式	・ 80	・ 100																																											
		・ 125	・ 150																																											
・ バルコニー中継用	・ ねじ込み式	・ 50	・ 80	・ 100																																										
	・ 差し込み式	・ 50	・ 75	・ 100																																										
・ バルコニー一用	・ ねじ込み式	・ 50	・ 80	・ 100																																										
	・ 差し込み式	・ 50	・ 75	・ 100																																										

章	項 目	特 記 事 項																																				
14 金属工事	1 アルミニウム及びアルミニウム合金の表面処理	<div>(14. 2. 2) (表 14. 2. 1)</div> <table><tr><th>種別</th><th>色合い等</th><th>施工箇所（成形板、笠木、建具以外）</th></tr><tr><td>・ AB-1 種</td><td></td><td></td></tr><tr><td>・ AB-2 種</td><td></td><td></td></tr><tr><td>・ AC-1 種</td><td></td><td></td></tr><tr><td>・ AC-2 種</td><td></td><td></td></tr><tr><td>・ BA-1 種</td><td></td><td></td></tr><tr><td>◎BA-2 種</td><td></td><td>屋外 図示（樋）</td></tr><tr><td>・ BB-1 種</td><td></td><td></td></tr><tr><td>◎BB-2 種</td><td></td><td>屋外 図示</td></tr><tr><td>・ BC-1 種</td><td></td><td></td></tr><tr><td>◎BC-2 種</td><td></td><td>内装 図示</td></tr><tr><td>◎C 種</td><td></td><td>アルミパネル材</td></tr></table> <div>既製品については、監督員の監理者承諾による 色合い等 （シルバー、アンバー、ブロンズ、ブラック系、ステンカラー、特注色（ ）） 陽極酸化皮膜の着色方法 ※二次電解着色 ・ 三次電解着色</div>	種別	色合い等	施工箇所（成形板、笠木、建具以外）	・ AB-1 種			・ AB-2 種			・ AC-1 種			・ AC-2 種			・ BA-1 種			◎BA-2 種		屋外 図示（樋）	・ BB-1 種			◎BB-2 種		屋外 図示	・ BC-1 種			◎BC-2 種		内装 図示	◎C 種		アルミパネル材
	種別	色合い等	施工箇所（成形板、笠木、建具以外）																																			
	・ AB-1 種																																					
・ AB-2 種																																						
・ AC-1 種																																						
・ AC-2 種																																						
・ BA-1 種																																						
◎BA-2 種		屋外 図示（樋）																																				
・ BB-1 種																																						
◎BB-2 種		屋外 図示																																				
・ BC-1 種																																						
◎BC-2 種		内装 図示																																				
◎C 種		アルミパネル材																																				
2 鉄鋼の亜鉛めっき	<div>(14. 2. 3) (表 14. 2. 2)</div> <table><tr><th>表面処理方法</th><th>種別</th><th>施工箇所（手すり、タラップ以外）</th></tr><tr><td rowspan="3">溶融亜鉛めっき</td><td>◎A 種</td><td>図示（板厚による）</td></tr><tr><td>◎B 種</td><td>図示（板厚による）</td></tr><tr><td>・ C 種</td><td></td></tr><tr><td rowspan="3">電気亜鉛めっき</td><td>・ D 種</td><td></td></tr><tr><td>・ E 種</td><td></td></tr><tr><td>・ F 種</td><td></td></tr></table>	表面処理方法	種別	施工箇所（手すり、タラップ以外）	溶融亜鉛めっき	◎A 種	図示（板厚による）	◎B 種	図示（板厚による）	・ C 種		電気亜鉛めっき	・ D 種		・ E 種		・ F 種																					
表面処理方法	種別	施工箇所（手すり、タラップ以外）																																				
溶融亜鉛めっき	◎A 種	図示（板厚による）																																				
	◎B 種	図示（板厚による）																																				
	・ C 種																																					
電気亜鉛めっき	・ D 種																																					
	・ E 種																																					
	・ F 種																																					
3 軽量鉄骨天井下地	<div>(14. 4. 2～14. 4. 4) (表 14. 4. 1)</div> <div>野縁等の種類 屋外 ※25 形 ・ 19 形 屋内 ※19 形 ・ 25 形</div> <div>屋外の形式及び寸法 野縁受け、つりボルト及びインサートの間隔 ・ 図示による ・ 周辺部の端からの間隔 ・ 図示による ・ 野縁の間隔 ・ 図示による ・</div> <div>・ 吊りボルトの間隔が 900mm を超える場合 （補強方法 ※図示による ・ ） ・ 天井のふところが 3. 0m を超える場合 （補強方法 ※図示による ・ ） ・ 天井下地材に耐震性を考慮した補強 （補強箇所 ・ 図示による ・ ） （補強方法 ※図示による ・ ）</div> <div>耐震性能 建築非構造部材の耐震性能に係る特記事項による ◎屋外の軒天井、ピロティ天井の工法 1 章 適用区分による風圧力の（・1 ・1. 15 ・1. 3）倍の風圧力に対応した工法</div>																																					

章	項 目	特 記 事 項																								
4	軽量鉄骨壁下地	(14. 5. 3) (14. 5. 4) (表 14. 5. 1) スタッド、ランナの種類 ※標準仕様書表 14. 5. 1 によるスタッドの高さによる区分に応じた種類 ・ 図示 ・ スタッドの高さが 5. 0m を超える場合 ※図示 ・ 出入口及びこれに準ずる開口部の補強 ※標準仕様書 14. 5. 4 (5) による ・																								
	5 金属成形板張り	(14. 6. 2) (14. 6. 3) (14. 6. 3) <table><tr><th rowspan="2">種類</th><th rowspan="2">製法</th><th rowspan="2">形状</th><th rowspan="2">板幅 (mm)</th><th rowspan="2">板厚 (mm)</th><th colspan="2">表面処理</th></tr><tr><th>種別</th><th>色合い等</th></tr><tr><td rowspan="2">◎アルミ ニウム</td><td>◎押出し ◎ロール</td><td>スパンドレル形</td><td rowspan="2"></td><td rowspan="2"></td><td rowspan="2"></td><td rowspan="2"></td></tr><tr><td>◎プレス ・</td><td>パネル形</td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr></table> 取付け用下地 ※標準仕様書 14. 4 による ・ 図示による 伸縮調整継手 ・ 設ける（施工箇所 ・ 図示 ・ ） ・ 設けない 屋外の軒天井、ピロティ天井の工法 1 章 適用区分による風圧力の（・ 1 ・ 1. 15 ・ 1. 3）倍の風圧力に対応した工法	種類	製法	形状	板幅 (mm)	板厚 (mm)	表面処理		種別	色合い等	◎アルミ ニウム	◎押出し ◎ロール	スパンドレル形					◎プレス ・	パネル形						
種類	製法	形状						板幅 (mm)	板厚 (mm)	表面処理																
			種別	色合い等																						
◎アルミ ニウム	◎押出し ◎ロール	スパンドレル形																								
	◎プレス ・	パネル形																								
6	アルミニウム製笠木	(14. 7. 2) (14. 7. 3) (表 14. 2. 1) (表 14. 7. 1) 種類 ・ 250 形 ・ 300 形 ・ 350 形 ◎図示 表面処理 種別（ ）種 色合い等 ◎標準色（・ アンバー ・ ブロンズ ・ ブラック系 ・ ステンカラー） ・ 特注色 笠木の固定金具の工法等 1 章 適用区分による風圧力の（・ 1 ・ 1. 15 ・ 1. 3）倍の風圧力に対応した工法																								

章	項 目	特 記 事 項																																													
15 左官工事	1 モルタル塗り	(15. 3. 2) (15. 3. 5) モルタル ・ 現場調合材料 ・ 既調合材料 () 既製目地材 ・ 設ける 施工箇所 () 形状 (※図示による ・) ・ 設けない 床の目地 ◎設ける 目地割り ※2 m ² 程度 (最大目地間隔 3m 程度) ・ 目地の種類 ※押し目地 ・ ・ 設けない 屋外のタイル張り下地及び屋内の吹き抜け部分等のタイル張りの下地モルタル塗り及び下地調整材塗りの接着力試験 ・ 適用する ・ 適用しない 防水剤 (品質・性能及び試験方法は建築材料等品質性能表による)																																													
	2 せっこうボード その他ボードの下地	(15. 2. 5) せっこうボード及びせっこうラスボードの種類及び厚さ 種類 (・ GB-R ・ GB-L ・) 厚さ (mm) 木質系セメント版の種類及び厚さ 種類 (・) 厚さ (mm)																																													
	3 仕上塗材仕上げ	(15. 6. 2) 内部仕上げに用いる塗材のホルムアルデヒド放散量 ※F☆☆☆☆ ・ 仕上塗材の種類 ・ 薄付け仕上塗材 <table border="1"> <thead> <tr> <th>種類 (呼び名)</th><th>防火材料</th><th>仕上げの形状及び工法等</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>・ 外装薄塗材 Si</td><td>・</td><td rowspan="11">仕上げの形状及び工法 ・ 砂壁状 ・ ゆず肌状 (・ 吹付け・ローラー塗り) ・ さざ波状 ・ 平たん状 ・ 凹凸状 (・ 吹付け・こて塗り) ・ 着色骨材砂壁状 (・ 吹付け・こて塗り) ・ 砂壁状じゅらく ・ 京壁状じゅらく 吸放湿性 ・ 適用する・適用しない</td></tr> <tr><td>・ 可とう形外装薄塗材 Si</td><td>・</td></tr> <tr><td>・ 外装薄塗材 E</td><td>・</td></tr> <tr><td>・ 可とう形外装薄塗材 E</td><td>・</td></tr> <tr><td>・ 防水形外装薄塗材 E</td><td>・</td></tr> <tr><td>・ 外装薄塗材 S</td><td>・</td></tr> <tr><td>・ 内装薄塗材 C</td><td>・</td></tr> <tr><td>・ 内装薄塗材 L</td><td>・</td></tr> <tr><td>・ 内装薄塗材 Si</td><td>・</td></tr> <tr><td>・ 内装薄塗材 E</td><td>・</td></tr> <tr><td>・ 内装薄塗材 W</td><td>・</td></tr> </tbody> </table> ・ 厚付け仕上塗材 <table border="1"> <thead> <tr> <th>種類 (呼び名)</th><th>防火材料</th><th>仕上げの形状及び工法等</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>・ 外装厚塗材 C</td><td>・</td><td rowspan="8">仕上げの形状及び工法 ・ 吹放し ・ 凸部処理 ・ 平たん状 ・ 凹凸状 ・ ひき起こし ・ かき落とし 吸放湿性 ・ 適用する・適用しない 上塗材 ・ 適用する・適用しない</td></tr> <tr><td>・ 外装厚塗材 Si</td><td>・</td></tr> <tr><td>・ 外装厚塗材 E</td><td>・</td></tr> <tr><td>・ 内装厚塗材 C</td><td>・</td></tr> <tr><td>・ 内装厚塗材 L</td><td>・</td></tr> <tr><td>・ 内装厚塗材 G</td><td>・</td></tr> <tr><td>・ 内装厚塗材 Si</td><td>・</td></tr> <tr><td>・ 内装厚塗材 E</td><td>・</td></tr> </tbody> </table>	種類 (呼び名)	防火材料	仕上げの形状及び工法等	・ 外装薄塗材 Si	・	仕上げの形状及び工法 ・ 砂壁状 ・ ゆず肌状 (・ 吹付け・ローラー塗り) ・ さざ波状 ・ 平たん状 ・ 凹凸状 (・ 吹付け・こて塗り) ・ 着色骨材砂壁状 (・ 吹付け・こて塗り) ・ 砂壁状じゅらく ・ 京壁状じゅらく 吸放湿性 ・ 適用する・適用しない	・ 可とう形外装薄塗材 Si	・	・ 外装薄塗材 E	・	・ 可とう形外装薄塗材 E	・	・ 防水形外装薄塗材 E	・	・ 外装薄塗材 S	・	・ 内装薄塗材 C	・	・ 内装薄塗材 L	・	・ 内装薄塗材 Si	・	・ 内装薄塗材 E	・	・ 内装薄塗材 W	・	種類 (呼び名)	防火材料	仕上げの形状及び工法等	・ 外装厚塗材 C	・	仕上げの形状及び工法 ・ 吹放し ・ 凸部処理 ・ 平たん状 ・ 凹凸状 ・ ひき起こし ・ かき落とし 吸放湿性 ・ 適用する・適用しない 上塗材 ・ 適用する・適用しない	・ 外装厚塗材 Si	・	・ 外装厚塗材 E	・	・ 内装厚塗材 C	・	・ 内装厚塗材 L	・	・ 内装厚塗材 G	・	・ 内装厚塗材 Si	・	・ 内装厚塗材 E
種類 (呼び名)	防火材料	仕上げの形状及び工法等																																													
・ 外装薄塗材 Si	・	仕上げの形状及び工法 ・ 砂壁状 ・ ゆず肌状 (・ 吹付け・ローラー塗り) ・ さざ波状 ・ 平たん状 ・ 凹凸状 (・ 吹付け・こて塗り) ・ 着色骨材砂壁状 (・ 吹付け・こて塗り) ・ 砂壁状じゅらく ・ 京壁状じゅらく 吸放湿性 ・ 適用する・適用しない																																													
・ 可とう形外装薄塗材 Si	・																																														
・ 外装薄塗材 E	・																																														
・ 可とう形外装薄塗材 E	・																																														
・ 防水形外装薄塗材 E	・																																														
・ 外装薄塗材 S	・																																														
・ 内装薄塗材 C	・																																														
・ 内装薄塗材 L	・																																														
・ 内装薄塗材 Si	・																																														
・ 内装薄塗材 E	・																																														
・ 内装薄塗材 W	・																																														
種類 (呼び名)	防火材料	仕上げの形状及び工法等																																													
・ 外装厚塗材 C	・	仕上げの形状及び工法 ・ 吹放し ・ 凸部処理 ・ 平たん状 ・ 凹凸状 ・ ひき起こし ・ かき落とし 吸放湿性 ・ 適用する・適用しない 上塗材 ・ 適用する・適用しない																																													
・ 外装厚塗材 Si	・																																														
・ 外装厚塗材 E	・																																														
・ 内装厚塗材 C	・																																														
・ 内装厚塗材 L	・																																														
・ 内装厚塗材 G	・																																														
・ 内装厚塗材 Si	・																																														
・ 内装厚塗材 E	・																																														

章	項 目	特 記 事 項																											
		<div>・ 複層仕上塗材</div> <table><tr><th>種類（呼び名）</th><th>防火材料</th><th>仕上げの形状及び工法等</th></tr><tr><td>・ 複層塗材 CE</td><td>・</td><td rowspan="3">仕上げの形状及び工法 ・ ゆず肌状 ・ 凸部処理 ・ 凹凸状 耐候性 ※耐候形 3 種 ・</td></tr><tr><td>・ 可とう形複層塗材 CE</td><td>・</td></tr><tr><td>・ 複層塗材 Si</td><td>・</td></tr><tr><td>・ 複層塗材 E</td><td>・</td><td rowspan="5">上塗材の種類 溶媒 ※水系 ・ 溶剤系 ・ 弱溶剤系 樹脂 ※アクリル系 ・ 外観 ※つやあり ・ つやなし ・ メタリック</td></tr><tr><td>・ 複層塗材 RE</td><td>・</td></tr><tr><td>・ 防水形複層塗材 CE</td><td>・</td></tr><tr><td>・ 防水形複層塗材 E</td><td>・</td></tr><tr><td>・ 防水形複層塗材 RE</td><td>・</td></tr></table> <div>・ 軽量骨材仕上塗材</div> <table><tr><th>種類（呼び名）</th><th>防火材料</th></tr><tr><td>・ 吹付用軽量塗材</td><td>・</td></tr><tr><td>・ こて塗用軽量塗材</td><td>・</td></tr></table>	種類（呼び名）	防火材料	仕上げの形状及び工法等	・ 複層塗材 CE	・	仕上げの形状及び工法 ・ ゆず肌状 ・ 凸部処理 ・ 凹凸状 耐候性 ※耐候形 3 種 ・	・ 可とう形複層塗材 CE	・	・ 複層塗材 Si	・	・ 複層塗材 E	・	上塗材の種類 溶媒 ※水系 ・ 溶剤系 ・ 弱溶剤系 樹脂 ※アクリル系 ・ 外観 ※つやあり ・ つやなし ・ メタリック	・ 複層塗材 RE	・	・ 防水形複層塗材 CE	・	・ 防水形複層塗材 E	・	・ 防水形複層塗材 RE	・	種類（呼び名）	防火材料	・ 吹付用軽量塗材	・	・ こて塗用軽量塗材	・
種類（呼び名）	防火材料	仕上げの形状及び工法等																											
・ 複層塗材 CE	・	仕上げの形状及び工法 ・ ゆず肌状 ・ 凸部処理 ・ 凹凸状 耐候性 ※耐候形 3 種 ・																											
・ 可とう形複層塗材 CE	・																												
・ 複層塗材 Si	・																												
・ 複層塗材 E	・	上塗材の種類 溶媒 ※水系 ・ 溶剤系 ・ 弱溶剤系 樹脂 ※アクリル系 ・ 外観 ※つやあり ・ つやなし ・ メタリック																											
・ 複層塗材 RE	・																												
・ 防水形複層塗材 CE	・																												
・ 防水形複層塗材 E	・																												
・ 防水形複層塗材 RE	・																												
種類（呼び名）	防火材料																												
・ 吹付用軽量塗材	・																												
・ こて塗用軽量塗材	・																												
4	マスチック塗料塗り	(15. 7. 2) 種別 ・ A 種 ・ B 種																											
5	ロックウール吹付け	(15. 12. 2) (15. 12. 3) ロックウールのホルムアルデヒド放散量 ※F☆☆☆☆ ・ 接着剤のホルムアルデヒド放散量 ※F☆☆☆☆ ・ 吹付け厚さ (mm) ・ 図示 ・ 25 ・																											
6	しっくい塗り	(15. 10. 2～15. 10. 4) しっくい ・ 既調合材料 色しっくい ・ 適用する ・ 適用しない ・ 現場調合材料 下地 ・ せっこうボード ・ せっこうラスボード ・ モルタル塗り ・ 木ずり ・ こまい ・ 下塗りをせっこうプラスターとし上塗りに使用する場合 ・ 既調合しっくいの調合 ・ せっこうボード下地 ※標準仕様書 表 15. 10. 1 ・ ・ モルタル塗り下地 ※標準仕様書 表 15. 10. 2 ・ ・ せっこうラスボード下地 ※製造所の仕様による ・ 現場調合しっくいの調合及び各層の塗厚 ・ 木ずり下地 ※標準仕様書 表 15. 10. 3 ・ ・ せっこうプラスター下地、こまい下地 ※標準仕様書 表 15. 10. 4 ・ 既調合しっくいの上塗り仕上げ工法 ・ なで切り仕上げ ・ パターン仕上げ																											

章	項 目	特 記 事 項																																			
16 建具工事	1 防火戸	(16. 1. 3) ◎建具表による ・																																			
	2 見本の製作等	(16. 1. 4) 建具見本の製作 ・ 行う（建具符号：図示） ・ 行わない 建具見本の程度 ・ 工事に使用するものとして、あらかじめ製作する ・ 納まり等が分かる程度のもの 建具見本製作の目的等 ・ 特殊な建具の仮組 ・ 行う（建具符号：図示） ・ 行わない																																			
	3 防犯建物部品	(16. 1. 6) ・ 適用する（ ・ 建具表による ・ 図示） ・ 適用しない																																			
	4 アルミニウム製建具	(16. 2. 2～16. 2. 5)（表 14. 2. 1）（表 16. 2. 1）（表 16. 2. 2） 性能値等 耐風圧性の等級（ ・ ） （建具符号： ・ 建具表による ・ ） 気密性の等級（ ・ ） （建具符号： ・ 建具表による ・ ） 水密性の等級（ ・ ） （建具符号： ・ 建具表による ・ ） 外部に面する建具の種別 <table><tr><th>種別</th><th>耐風圧性</th><th>気密性</th><th>水密性</th><th>枠見込み (mm)</th><th>施工箇所</th></tr><tr><td>・ A 種</td><td>S-4</td><td>A-3</td><td>W-4</td><td>・ 70 ・ 100</td><td>※図示による</td></tr><tr><td>◎B 種</td><td>S-5</td><td>A-3</td><td>W-4</td><td>・ 70 ・ 100</td><td>※図示による</td></tr><tr><td>・ C 種</td><td>S-6</td><td>A-4</td><td>W-5</td><td>・</td><td>※図示による</td></tr><tr><td>・ D 種</td><td>S-2</td><td>A-3</td><td>W-3</td><td>・</td><td>※図示による</td></tr><tr><td>・ E 種</td><td>S-3</td><td>A-3</td><td>W-3</td><td>・</td><td>※図示による</td></tr></table> 防音ドア、防音サッシ 遮音性の等級（◎T2 ） （建具符号：◎建具表による ・ ） 断熱ドアセット、断熱サッシ 断熱性の等級（ ・ ） （建具符号： ・ 建具表による ・ ） 材料 ステンレス鋼板 ※SUS304、SUS430JIL 又は SUS443JI ・ ステンレス製のくつずりの仕上げ ※HL ・ 形状及び仕上げ 表面処理 外部に面する建具 種別 ・ BB-1 ・ BB-2（標準仕様書 表 14. 2. 1） 着色 ・ 標準色 ・ 特注色 屋内の建具 種別 ・ BC-1 ・ BC-2（標準仕様書 表 14. 2. 1） 着色 ・ 標準色 ・ 特注色 結露水の処理方法 ・ 水貯め式 ・ 排水式 工法 水切り板、ぜん板 ※図示による 木下地の場合の内付け建具 ・ 適用する ・ 適用しない	種別	耐風圧性	気密性	水密性	枠見込み (mm)	施工箇所	・ A 種	S-4	A-3	W-4	・ 70 ・ 100	※図示による	◎B 種	S-5	A-3	W-4	・ 70 ・ 100	※図示による	・ C 種	S-6	A-4	W-5	・	※図示による	・ D 種	S-2	A-3	W-3	・	※図示による	・ E 種	S-3	A-3	W-3	・
種別	耐風圧性	気密性	水密性	枠見込み (mm)	施工箇所																																
・ A 種	S-4	A-3	W-4	・ 70 ・ 100	※図示による																																
◎B 種	S-5	A-3	W-4	・ 70 ・ 100	※図示による																																
・ C 種	S-6	A-4	W-5	・	※図示による																																
・ D 種	S-2	A-3	W-3	・	※図示による																																
・ E 種	S-3	A-3	W-3	・	※図示による																																

章	項 目	特 記 事 項																																
	5 網戸等	(16. 2. 3) <table><tr><th>種類</th><th>材種</th><th>線径</th><th>網目</th></tr><tr><td>◎防虫網</td><td>※合成樹脂製 ・ ガラス繊維入り合成樹脂製 ・ ステンレス (SUS316) 製</td><td>※0. 25mm 以上 ・</td><td>※16～18 メッシュ ・</td></tr><tr><td>・ 防鳥網</td><td>ステンレス (SUS304) 線材</td><td>1. 5mm</td><td>網目寸法 15mm</td></tr></table>	種類	材種	線径	網目	◎防虫網	※合成樹脂製 ・ ガラス繊維入り合成樹脂製 ・ ステンレス (SUS316) 製	※0. 25mm 以上 ・	※16～18 メッシュ ・	・ 防鳥網	ステンレス (SUS304) 線材	1. 5mm	網目寸法 15mm																				
種類	材種	線径	網目																															
◎防虫網	※合成樹脂製 ・ ガラス繊維入り合成樹脂製 ・ ステンレス (SUS316) 製	※0. 25mm 以上 ・	※16～18 メッシュ ・																															
・ 防鳥網	ステンレス (SUS304) 線材	1. 5mm	網目寸法 15mm																															
6	樹脂製建具	(16. 2. 5) (16. 3. 2～16. 3. 5) (表 16. 3. 1～16. 3. 4) 性能値等 耐通圧性の等級 () 気密性の等級 () 水密性の等級 () 外部に面する建具 <table><tr><th>種別</th><th>耐風圧性</th><th>気密性</th><th>水密性</th><th>枠見込み (mm)</th><th>施工箇所</th></tr><tr><td>・ A 種</td><td>S-4</td><td rowspan="5">A-4</td><td>W-4</td><td>・</td><td>※図示による</td></tr><tr><td>・ B 種</td><td>S-5</td><td>W-5</td><td>・</td><td>※図示による</td></tr><tr><td>・ C 種</td><td>S-6</td><td>W-5</td><td>・</td><td>※図示による</td></tr><tr><td>・ D 種</td><td>S-2</td><td>W-3</td><td>・</td><td>※図示による</td></tr><tr><td>・ E 種</td><td>S-3</td><td>W-3</td><td>・</td><td>※図示による</td></tr></table> 防音ドア、防音サッシ 遮音性の等級 ・ T-1 種 ・ T-2 種 (建具符号： ・ 建具表による ・) 断熱ドア、断熱サッシ 断熱性能の等級 ・ H-4 種 ・ H-5 種 ・ H-6 種 ・ H-7 種 ・ H-8 種 (建具符号： ・ 建具表による ・) 外部に面する建具の日射熱取得性の等級 ・ 枠の見込み寸法 ・ 建具表による ・ 材料 ガラス ※複層ガラス (組合せは建具表による) ・ ステンレス製のくつずりの仕上げ ※HL ・ 形状及び仕上げ 表面色 ・ 標準色 ・ 特注色 工法 水切り板、ぜん板 ※図示による 木下地の場合の内付け建具 ・ 適用する ・ 適用しない	種別	耐風圧性	気密性	水密性	枠見込み (mm)	施工箇所	・ A 種	S-4	A-4	W-4	・	※図示による	・ B 種	S-5	W-5	・	※図示による	・ C 種	S-6	W-5	・	※図示による	・ D 種	S-2	W-3	・	※図示による	・ E 種	S-3	W-3	・	※図示による
種別	耐風圧性	気密性	水密性	枠見込み (mm)	施工箇所																													
・ A 種	S-4	A-4	W-4	・	※図示による																													
・ B 種	S-5		W-5	・	※図示による																													
・ C 種	S-6		W-5	・	※図示による																													
・ D 種	S-2		W-3	・	※図示による																													
・ E 種	S-3		W-3	・	※図示による																													

章	項 目	特 記 事 項
	7 鋼製建具	<p>(16. 2. 2) (16. 4. 2～16. 4. 4) (16. 4. 6) (表 16. 4. 2)</p> <p>性能値等 簡易気密型ドアセット ◎適用する（建具符号：建具表による） ・適用しない</p> <p>外部に面する建具の耐風圧性 耐風圧性の等級（◎ S-5 ） （建具符号：・建具表による ・ ）</p> <p>防音ドア、防音サッシ 遮音性の等級（◎ T-2 ） （建具符号：・建具表による ・ ）</p> <p>断熱ドア、断熱サッシ 断熱性の等級（・ ） （建具符号：・建具表による ・ ）</p> <p>耐震性能 建築非構造部材の耐震性能に係る特記事項による</p> <p>材料 ステンレス鋼板 ※SUS304、SUS430JIL、又は SUS443JI ・ ステンレス製のくつずりの仕上げ ※HL ・</p> <p>形状及び仕上げ 鋼板類の厚さ ※標準仕様書 表 16. 4. 2 による ・ （使用箇所： ）</p> <p>標準型鋼製建具の形状及び寸法 ※建具表による ・</p>
	8 鋼製軽量建具	<p>(16. 2. 2) (16. 5. 2～16. 5. 4)</p> <p>性能値 簡易気密型ドアセット ◎適用する（建具符号：建具表による） ・適用しない</p> <p>防音ドア、防音サッシ 遮音性の等級（◎ T-2 ） （建具符号：・建具表による ・ ）</p> <p>断熱ドアセット、断熱サッシ 断熱性の等級（・ ） （建具符号：・建具表による ・ ）</p> <p>耐震性能 建築非構造部材の耐震性能に係る特記事項による</p> <p>材料 鋼板 ◎亜鉛めっき鋼板 ・ビニル被覆鋼板 ・カラー鋼板 ・ステンレス鋼板（※SUS304、SUS430JIL 又は SUS443JI ・） ステンレス製のくつずりの仕上げ ※HL ・</p> <p>形状及び仕上げ 鋼板類の厚さ (mm) ※標準仕様書 表 16. 5. 1 による ・ （使用箇所： ）</p> <p>標準型鋼製軽量建具の形状及び寸法 ※建具表による ・</p>

章	項 目	特 記 事 項															
	9 ステンレス製建具	<p>(16. 2. 2) (16. 4. 2) (16. 6. 2～16. 6. 5)</p> <p>性能値</p> <p>簡易気密型ドアセット ・適用する（建具符号：建具表による） ・適用しない</p> <p>外部に面する建具の耐風圧性 耐風圧性の等級（・ ） （建具符号：・建具表による ）</p> <p>防音ドア、防音サッシ 遮音性の等級（・ ） （建具符号：・建具表による ）</p> <p>断熱ドアセット、断熱サッシ 断熱性の等級（・ ） （建具符号：・建具表による ）</p> <p>耐震性能 建築非構造部材の耐震性能に係る特記事項による</p> <p>材料</p> <p>ステンレス鋼板 ※SUS304、SUS430JIL 又は SUS443JI ・</p> <p>形状及び仕上げ</p> <p>表面仕上げ ※HL ・鏡面仕上げ ・</p> <p>ステンレス製のくつずりの仕上げ ※HL ・</p> <p>形状及び仕上げ</p> <p>表面仕上げ ※HL ・鏡面仕上げ</p> <p>工法</p> <p>ステンレス鋼板の曲げ加工 ※普通曲げ ・角出し曲げ</p>															
10	木製建具	<p>(16. 7. 2～16. 7. 4)</p> <p>建具材の加工、組立時の含水率 ※A 種 ・</p> <p>建物内部の木製建具に使用する表面材及び接着剤のホルムアルデヒド放散量 ※F☆☆☆☆ ・</p> <p>◎フラッシュ戸</p> <p>表面材のホルムアルデヒド放散量等 ※標準仕様書 16. 7. 2 (2) (イ) (a) による ・</p> <p>表面材の合板の種類</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>合板の種類</th><th>規格等</th><th>備考</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>・普通合板</td><td> 表面の樹種 生地、透明塗料塗り （※ラフ合板程度 ・ ） 不透明塗料塗り （※しな合板程度 ・ ） 板面の品質（※広葉樹 1 等 ・ ） 接着の程度（・ 1 類 ・ 2 類） </td><td></td></tr> <tr> <td>・天然木 化粧合板</td><td> 樹種名（ ） 接着の程度（・ 1 類 ・ 2 類） </td><td></td></tr> <tr> <td>・特殊加工 化粧合板</td><td> 化粧加工の方法 ※プリント ・ポリエステル化粧合板 ・メラニン化粧合板 ・ 接着の程度（・ 1 類 ・ 2 類） </td><td></td></tr> <tr> <td>・MDF</td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table> <p>表面板の厚さ ※標準仕様書 表 16. 7. 6 による ・</p> <p>引戸の召合せかまちのいんろう付きの適用 ・適用しない ・適用する</p>	合板の種類	規格等	備考	・普通合板	表面の樹種 生地、透明塗料塗り （※ラフ合板程度 ・ ） 不透明塗料塗り （※しな合板程度 ・ ） 板面の品質（※広葉樹 1 等 ・ ） 接着の程度（・ 1 類 ・ 2 類）		・天然木 化粧合板	樹種名（ ） 接着の程度（・ 1 類 ・ 2 類）		・特殊加工 化粧合板	化粧加工の方法 ※プリント ・ポリエステル化粧合板 ・メラニン化粧合板 ・ 接着の程度（・ 1 類 ・ 2 類）		・MDF		
合板の種類	規格等	備考															
・普通合板	表面の樹種 生地、透明塗料塗り （※ラフ合板程度 ・ ） 不透明塗料塗り （※しな合板程度 ・ ） 板面の品質（※広葉樹 1 等 ・ ） 接着の程度（・ 1 類 ・ 2 類）																
・天然木 化粧合板	樹種名（ ） 接着の程度（・ 1 類 ・ 2 類）																
・特殊加工 化粧合板	化粧加工の方法 ※プリント ・ポリエステル化粧合板 ・メラニン化粧合板 ・ 接着の程度（・ 1 類 ・ 2 類）																
・MDF																	

章	項 目	特 記 事 項
		<p>◎かまち戸 かまち樹種（ 桧 ） 鏡板樹種（ 桧 ） 見込み寸法 ※36mm ◎建具表による ・</p> <p>・ふすま 張りの種別（ ・Ⅰ型 ・Ⅱ型） 上張り（押入等の裏側以外） ・鳥の子 ・新鳥の子又はビニル紙程度 縁仕上げ ・生地縁（素地） ・塗り縁 ・生地縁（ウレタンクリアー塗装） 見込み寸法 ※19.5mm ・建具表による ・</p> <p>・戸ふすま 表面板の仕上 ・建具表による ・ 見込み寸法 ※30mm ・建具表による ・</p> <p>・紙張り障子 見込み寸法 ※30mm ・建具表による ・</p> <p>枠及びくつずりの材料 ・建具表による ・</p>
	11 建具用金物	<p>(16.8.2) (16.8.3) (表 16.8.1～16.8.5)</p> <p>金物の種類及び見え掛り部の材質等 ※標準仕様書 表 16.8.1 により適用は建具表による ・</p> <p>金属製建具に使用する丁番の枚数及び大きさ ※標準仕様書 表 16.8.2 による ・建具表による</p> <p>樹脂製建具に使用する丁番の枚数及び大きさ ※標準仕様書 表 16.8.3 による ・建具表による</p> <p>木製建具に使用する丁番の枚数及び大きさ ※標準仕様書 表 16.8.4 による ・建具表による</p> <p>木製建具に使用する戸車及びレール ※標準仕様書表 16.8.5 による ・建具表による</p> <p>握り玉、レバーハンドル、押板類、クレセントの取付け位置 ◎建具表による ・</p> <p>シリンダ箱錠及びシリンダ本締り錠 （品質・性能及び試験方法は建築材料等品質性能表による）</p> <p>クローザ類 （品質・性能及び試験方法は建築材料等品質性能表による）</p>
	12 鍵	<p>(16.8.4)</p> <p>マスターキー ◎製作する （ ） ・製作しない</p> <p>その他の鍵 ※各室 3 本 1 組（室名札付き） ・ 鍵箱 ※有 ・無</p>

章	項 目	特 記 事 項
	<div>13 自動ドア開閉装置</div> <div>(16. 9. 2) (16. 9. 3)</div>	<p>戸の開閉方法</p> <p>◎建具表による ・</p> <p>◎引き戸用駆動装置</p> <p>性能値 ※標準仕様書 表 16. 9. 1 による (防錆 ・適用する ・適用しない)</p> <p>・以下による</p> <p>種類・開閉方式 ()</p> <p>耐電圧 ()</p> <p>温度上昇 ()</p> <p>耐久性 (サイクル) ()</p> <p>防錆 ()</p> <p>電源 ()</p> <p>・車椅子使用者用便房出入り口引き戸用駆動装置</p> <p>性能値 ※標準仕様書 表 16. 9. 2 による (防錆 ・適用する ・適用しない)</p> <p>・以下による</p> <p>耐電圧 ()</p> <p>温度上昇 ()</p> <p>耐久性 (サイクル) ()</p> <p>防錆 ()</p> <p>電源 ()</p> <p>・引き戸用検出装置</p> <p>性能値 ※標準仕様書 表 16. 9. 3 による (防錆 ・適用する ・適用しない)</p> <p>・以下による</p> <p>耐電圧 ()</p> <p>防錆 ()</p> <p>防滴 ()</p> <p>電源 ()</p> <p>引き戸検出装置の種類 ◎建具表による ・</p> <p>タッチスイッチの種類</p> <p>・無線式タッチスイッチ ・光線式タッチスイッチ</p> <p>車椅子使用者用便房スイッチの種類</p> <p>・大型押しボタンスイッチ ・非接触スイッチ</p> <p>凍結防止措置 ・行う ・行わない</p>
	<div>14 自閉式上吊り引戸装置</div> <div>(16. 10. 3) (表 16. 10. 1)</div>	<p>性能値等</p> <p>※標準仕様書 表 16. 10. 1 による</p> <p>・以下による</p> <p>手動開き力 (N) ()</p> <p>手動閉じ力 (N) ()</p> <p>閉じ速度の調節 ()</p> <p>制御区間 ()</p> <p>開閉繰返し ()</p> <p>耐衝撃性 ()</p>

章	項 目	特 記 事 項
	15 重量シャッター	<p>(16. 12. 2) (16. 12. 3)</p> <p>シャッターの種類</p> <ul style="list-style-type: none"> ・管理用シャッター ◎外壁用防火シャッター ・屋内用防火シャッター ・防煙シャッター <p>外壁開口部に設ける重量シャッターの耐風圧強度 () pa ◎図示</p> <p>開閉方式の種類</p> <ul style="list-style-type: none"> ※電動式 (手動併用) ◎手動式 <p>安全装置</p> <p>電動式シャッターの急降下制御装置、急降下停止装置</p> <p>(設置箇所 ◎建具表による ・)</p> <p>電動式シャッターの障害物感知装置</p> <p>(設置箇所 ◎建具表による ・)</p> <p>屋内用防火シャッター若しくは防煙シャッターの危害防止機構</p> <p>(設置箇所 ・ 建具表による ・)</p> <p>管理用シャッターのシャッターケース</p> <ul style="list-style-type: none"> ※設ける ・ 設けない <p>スラット及びシャッターケース用鋼板</p> <p>鋼板の種類</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ JIS G 3302 (溶融亜鉛めっき鋼板) ・ JIS G 3312 (塗装溶融亜鉛めっき鋼板) <p>めっきの付着量 ※Z12 又は F12 ・</p> <p>ガイドレール、まぐさ、雨掛りに用いる座板及び座板のカバー、雨掛りに用いるスイッチボックス類のふたの材質</p> <p>ステンレス鋼板 ※SUS304、SUS430JIL 又は SUS443JI ・</p>
	16 軽量シャッター	<p>(16. 12. 2～16. 12. 4)</p> <p>開閉方式の種類 ※手動式 ・ 電動式 (手動併用)</p> <p>耐風圧強度 ・ () pa</p> <p>安全装置</p> <p>電動式シャッターの障害物感知装置</p> <p>(設置箇所 ・ 建具表による ・)</p> <p>スラットの材質の種類</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ JIS G 3312 (塗装溶融亜鉛めっき鋼板) めっき付着量 (※Z06 又は F06 ・) ・ JIS G 3322 (塗装溶融 55%アルミニウム－亜鉛合金めっき鋼板) めっき付着量 (※AZ90 ・) <p>スラットの形状 ・ インターロッキング形 ・ オーバーラッピング形</p>

章	項 目	特 記 事 項				
17	オーバーヘッドドア	(16. 13. 2) (16. 13. 3)				
		セクション材料 による区分	風圧力に よる強さ の区分	開閉方式 による区分	収納形式 による区分	ガイドレール の材質
		※スチールタイプ ◎アルミニウムタイプ ・ファイバーグラス タイプ	・125 ◎100 ・75 ・50	※バランス式 ・チェーン式 ◎電動式	・スタンダード形 ◎ローヘッド形 ・ハリフト形 ・バーチカル形	※溶融亜鉛 めっき鋼板 ・ステンレス鋼
		電動式オーバーヘッドドアの障害物感知装置 (設置箇所 ◎建具表、詳細図による)				
18	ガラス	(9. 7) (16. 14. 2～16. 14. 4) (図 16. 14. 1)				
		適用は以下によるほか、ガラスの種類、厚さの組み合わせは建具表及び図面による。				
		◎フロート板ガラス				
		フロート板ガラスの品種、厚さの呼びによる種類			※建具表による	
		◎型板ガラス				
		型板ガラスの厚さによる種類			※建具表による	
		◎網入りガラス				
		網又は線の形状、板の表面の状態、厚さの呼びによる種類			※建具表による	
		・合わせガラス				
		材料板ガラスの種類及び厚さの組合 せ並びに合わせガラスの合計厚さ			※建具表による	
		形状による種類			・平面合わせガラス ・曲面合わせガラス	
		落球衝撃はく離特性及びショットバ ック衝撃特性による種類			・Ⅰ類 ・Ⅱ-1類 ・Ⅱ-2類 ・Ⅲ類	
		◎強化ガラス				
		形状による種類、材料板ガラスの種類による名称			※建具表による	
		破片の状態及びショットバック衝撃耐性による種類			・Ⅰ類 ・Ⅲ類	
		・熱線吸収板ガラス				
		板ガラスの種類及び厚さによる種類			※建具表による	
		性能による種類			・1類 ・2類	
		◎複層ガラス				
		材料板ガラスの種類及び厚さの組合 せ並びに複層ガラスの厚さ			※建具表による	
		断熱性による区分			・T1 ・T2 ・T3 ・T4 ・T5 ・T6	
		日射取得性及び日射遮蔽性による区分			・G ・S	
		乾燥気体の種類			・空気 ・アルゴン	
		・熱線反射ガラス				
		材料板ガラスの種類及び厚さによる種類			※建具表による	
		日射熱遮へい性による区分			・1種 ・2種 ・3種	
		耐久性による区分(日射熱遮蔽性が2種の場合)			・A種 ・B種	

章	項 目	特 記 事 項																																									
		<div>・ 倍強度ガラス</div> <table><tr><td>材料板ガラスの種類及び厚さによる種類</td><td colspan="5">※建具表による</td></tr></table> <div>ガラスの留め材及び溝の大きさ</div> <table><tr><td>建具の種類</td><td colspan="2">ガラス留め材</td><td colspan="3">ガラス溝の大きさ (mm)</td></tr><tr><td>アルミニウム製</td><td colspan="2">◎シーリング材 ・ グレイジングチャンネル ・</td><td colspan="3">※建具の製造所の仕様による ・ 図示による</td></tr><tr><td>鋼製及び鋼製軽量</td><td colspan="2">◎シーリング材 ・</td><td colspan="3">※建具の製造所の仕様による ・ 図示による</td></tr><tr><td>ステンレス製</td><td colspan="2">・ シーリング材 ・</td><td colspan="3">※建具の製造所の仕様による ・ 図示による</td></tr><tr><td>樹脂製</td><td colspan="2">・ グレイジングチャンネル ・</td><td colspan="3">※建具の製造所の仕様による ・ 図示による</td></tr></table> <div>耐震性能</div> <div>建築非構造部材の耐震性能に係る特記事項による</div>						材料板ガラスの種類及び厚さによる種類	※建具表による					建具の種類	ガラス留め材		ガラス溝の大きさ (mm)			アルミニウム製	◎シーリング材 ・ グレイジングチャンネル ・		※建具の製造所の仕様による ・ 図示による			鋼製及び鋼製軽量	◎シーリング材 ・		※建具の製造所の仕様による ・ 図示による			ステンレス製	・ シーリング材 ・		※建具の製造所の仕様による ・ 図示による			樹脂製	・ グレイジングチャンネル ・		※建具の製造所の仕様による ・ 図示による		
材料板ガラスの種類及び厚さによる種類	※建具表による																																										
建具の種類	ガラス留め材		ガラス溝の大きさ (mm)																																								
アルミニウム製	◎シーリング材 ・ グレイジングチャンネル ・		※建具の製造所の仕様による ・ 図示による																																								
鋼製及び鋼製軽量	◎シーリング材 ・		※建具の製造所の仕様による ・ 図示による																																								
ステンレス製	・ シーリング材 ・		※建具の製造所の仕様による ・ 図示による																																								
樹脂製	・ グレイジングチャンネル ・		※建具の製造所の仕様による ・ 図示による																																								
19	ガラスブロック積み	(16. 14. 5)																																									
		<table><tr><td>呼び寸法 (mm)</td><td>厚さ (mm)</td><td>色調</td><td>目地幅 (mm)</td><td>伸縮調整 目地 (mm)</td><td>防火 性能</td></tr><tr><td>・ 160×160</td><td>・ 95 ・</td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>・ 200×200</td><td>・ 95 ・</td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr></table>	呼び寸法 (mm)	厚さ (mm)	色調	目地幅 (mm)	伸縮調整 目地 (mm)	防火 性能	・ 160×160	・ 95 ・					・ 200×200	・ 95 ・																											
呼び寸法 (mm)	厚さ (mm)	色調	目地幅 (mm)	伸縮調整 目地 (mm)	防火 性能																																						
・ 160×160	・ 95 ・																																										
・ 200×200	・ 95 ・																																										
		<div>壁用金属枠及び補強材</div> <div>※図示による</div> <div>力骨 材質 ※ステンレス鋼 (SUS304)</div> <div>寸法 ※径 5. 5mm</div> <div>形状 ※はしご形状複筋及び単筋</div> <div>化粧目地モルタルの色 (・ 白 ・ グレー)</div> <div>シーリング材の種類 (・ SR-1 ・ PS-1)</div> <div>金属製化粧カバー 材質 ・ ステンレス製 ・ アルミニウム製</div> <div>寸法 ※図示による</div> <div>形状 ※図示による</div> <div>木下地の場合のアンカー等の取り付け間隔</div> <div>・ 図示による</div> <div>目地部の力骨の納まり</div> <div>※ガラスブロック製造所の仕様による</div> <div>・ 図示</div> <div>工法</div> <div>1 章 適用区分による風圧力の (・ 1 ・ 1. 15 ・ 1. 3) 倍の風圧力に対応した工法</div>																																									

章	項 目	特 記 事 項												
17 カーテンウォール工事	1 取付け形態、性能等	(17. 1. 3)												
		取付け形態による分類												
		・ 層間方式												
		・ 柱、梁方式												
		・ 方立方式												
		・ スパンドレル方式												
		・												
		性能												
		<table><tr><td>水密性</td><td>気密性</td><td>遮音性</td><td>断熱性</td><td>耐火性能</td><td>耐温度差性(℃)</td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td>・ 30 分 ・ 1 時間</td><td>・ 80 ・ 70 ・ 60</td></tr></table>	水密性	気密性	遮音性	断熱性	耐火性能	耐温度差性(℃)					・ 30 分 ・ 1 時間	・ 80 ・ 70 ・ 60
		水密性	気密性	遮音性	断熱性	耐火性能	耐温度差性(℃)							
				・ 30 分 ・ 1 時間	・ 80 ・ 70 ・ 60									
耐風圧性能														
1 章 適用区分による風圧力の（・1 ・1. 15 ・1. 3）倍の風圧力に対応した工法														
主要部材の耐風圧性能（ガラスを除く）														
<table><tr><td>支点間距離(h)</td><td>耐風圧性能</td></tr><tr><td>4m 以下</td><td>・ たわみ量が± (1/150) × h かつ 絶対量 20mm 以下であること ・</td></tr><tr><td>4m を超える</td><td>・</td></tr></table>	支点間距離(h)	耐風圧性能	4m 以下	・ たわみ量が± (1/150) × h かつ 絶対量 20mm 以下であること ・	4m を超える	・								
支点間距離(h)	耐風圧性能													
4m 以下	・ たわみ量が± (1/150) × h かつ 絶対量 20mm 以下であること ・													
4m を超える	・													
耐震性能 建築非構造部材の耐震性能に係る特記事項による														
性能の確認方法及び判定方法														
※性能を確認及び判定方法が確認できる資料を提出し、監督員の承諾を受ける														

章	項 目	特 記 事 項
	2 メタルカーテンウォール	<p>(17.2.2) (17.2.3) (17.2.5) (17.2.6)</p> <p>金属系材料の種類</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アルミニウム材 ・鋼材 ・ステンレス鋼材 <p>シーリング材の種類（目地等）</p> <p>種類及び寸法等 ※図示による ・</p> <p>ガラスの取付け材料</p> <ul style="list-style-type: none"> ・シーリング <p>種類（・SR-1 ・SR-2 ）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・構造用ガスケット <p>形状、寸法等 ※図示による ・</p> <p>断熱材</p> <p>種類及び範囲 ※図示による ・</p> <p>形状及び仕上げ</p> <p>製品の寸法許容差 ※標準仕様書 表 17.2.1 による ・</p> <p>見え掛かり部の仕上げ</p> <p>（アルミニウム材の場合）</p> <p>規格等 標準仕様書 16.2.3 による</p> <p>種別 ・ （標準仕様書 表 14.2.1）</p> <p>着色 ・ 標準色 ・ 特注色</p> <p>（鋼材及びステンレス鋼板の場合）</p> <p>・</p> <p>ガラス溝の寸法、形状等 ※カーテンウォールの製造所の仕様 ・</p> <p>取付け</p> <p>躯体付け金物の取付け位置の寸法許容差</p> <p>鉛直方向 ※±10mm ・</p> <p>水平方向 ※±25mm ・</p> <p>カーテンウォール部材の取付け位置の寸法許容差</p> <p>目地の幅 ※±3mm ・</p> <p>目地の心の通り ※0～+2 mm ・</p> <p>目地両側の段差 ※0～+2mm ・</p> <p>各階の基準墨から各部材までの距離 ※±3.0 mm ・</p> <p>耐火処理</p> <p>適用部位、材料等 ※図示による ・</p> <p>ガラスの取付け材料</p> <p>ガラスの取付け材料がシーリングの場合のガラスの支持方法</p> <p>※4 辺支持 ・</p>

章	項 目	特 記 事 項
	3 PCカーテンウォール	<p>(17.3.2~17.3.6) (表 17.3.1) (表 17.3.2)</p> <p>材料</p> <p>コンクリート 種類 (・普通コンクリート ・軽量コンクリート1種 ・)</p> <p>品質 設計基準強度 (Fc) ※30N/mm²</p> <p>スランプ ※12cm</p> <p>気乾単位容積質量</p> <p>・普通コンクリートの場合 2.1t/m³~2.5t/m³ 以下</p> <p>・軽量コンクリートの場合 1.8t/m³~2.1t/m³ 以下</p> <p>・</p> <p>単位水量の最大値 ※185kg/m³ ・</p> <p>鉄筋 種別記号 ※SD295 ・</p> <p>補強鉄線 径 (mm) ・3.2 ・4.0 ・5.0 ・6.0</p> <p>網目寸法 ・</p> <p>シーリング材の種類 (目地)</p> <p>種類及び寸法等 ※図示による ・</p> <p>ガラスの取付け材料</p> <p>・構造ガasket</p> <p>形状、寸法等 ・図示による</p> <p>耐火処理</p> <p>適用不意、材料等 ※図示による ・</p> <p>断熱材</p> <p>種類及び範囲 ※図示による ・</p> <p>先付けの材料</p> <p>・表面仕上材 ・セラミックタイル</p> <p>・石材</p> <p>・建具枠</p> <p>・ゴンドラ用ガイドレール</p> <p>・図示による</p> <p>形状及び仕上げ</p> <p>製品の見え掛かり部の寸法許容差</p> <p>辺長 ※±3mm ・</p> <p>対角線長の差 ※0~+5mm ・</p> <p>版厚 ※±2mm ・</p> <p>開口部内法寸法 ※±2mm ・</p> <p>ねじれ、そり ※0~+5mm ・</p> <p>曲がり ※0~+3mm ・</p> <p>面の凹凸 ※0~+3mm ・</p> <p>先付け金物の位置 ※0~+5mm ・</p> <p>PC カーテンウォールの仕上げ ・</p> <p>構造ガasketを用いる場合のアンカー溝の寸法及び寸法許容差 (mm)</p> <p>・図示による ・</p> <p>製作</p> <p>PC 版の配筋 ※図示による</p> <p>取付け</p> <p>躯体取付金物の取付け位置の寸法許容差</p> <p>鉛直方向 ※±10mm ・</p> <p>水平方向 ※±25mm ・</p> <p>カーテンウォール部材の取付け位置の寸法許容差</p> <p>目地の幅 ※±5mm ・</p> <p>目地の心通り ※0~+3mm ・</p> <p>目地両側の段差 ※0~+4mm ・</p> <p>各階の基準墨から各部材までの距離 ※±5mm ・</p> <p>ガラスの取付け方法</p> <p>・ガラスの取付け材が構造用ガasketで複層ガラス等を使用する場合は排水機能の設置及びガラスの封着処理の強化を行う</p>

章	項 目	特 記 事 項																																		
18 塗装工事	1 材料	(18. 1. 3) 屋内で使用する塗料のホルムアルデヒド放散量 ※F☆☆☆☆ 防火材料 ※屋内の壁、天井仕上げは防火材料とする ・ 以下の箇所を除き防火材料とする (箇所：) ・																																		
	2 素地ごしらえ	(18. 2. 2～18. 2. 7) <table><tr><th colspan="2">下地面等</th><th>種別</th></tr><tr><td rowspan="2">木部</td><td>不透明塗料塗りの場合</td><td>※A 種 ・ B 種</td></tr><tr><td>透明塗りの場合</td><td>※B 種 ・ A 種</td></tr><tr><td colspan="2">鉄鋼面（DP以外）</td><td>※C 種 ・ A 種 ・ B 種</td></tr><tr><td colspan="2">鉄鋼面（DPのみ）</td><td>※B 種 ・ A 種 ・ C 種</td></tr><tr><td colspan="2">亜鉛めっき鋼面</td><td>・ A 種 ・ B 種</td></tr><tr><td colspan="2">モルタル面及びプラスター面</td><td>※B 種 ・ A 種</td></tr><tr><td colspan="2">コンクリート面（DP以外）及びALCパネル面</td><td>※B 種 ・ A 種</td></tr><tr><td colspan="2">押出成形セメント板面</td><td>※B 種 ・ A 種</td></tr><tr><td colspan="2">コンクリート面（DP）</td><td>※A 種 ・ B 種</td></tr><tr><td rowspan="2">せっこうボード面及びその他ボード面</td><td>目地：継目処理工法</td><td>※A 種 ・ B 種</td></tr><tr><td>目地：継目処理工法以外</td><td>※B 種 ・ A 種</td></tr></table>	下地面等		種別	木部	不透明塗料塗りの場合	※A 種 ・ B 種	透明塗りの場合	※B 種 ・ A 種	鉄鋼面（DP以外）		※C 種 ・ A 種 ・ B 種	鉄鋼面（DPのみ）		※B 種 ・ A 種 ・ C 種	亜鉛めっき鋼面		・ A 種 ・ B 種	モルタル面及びプラスター面		※B 種 ・ A 種	コンクリート面（DP以外）及びALCパネル面		※B 種 ・ A 種	押出成形セメント板面		※B 種 ・ A 種	コンクリート面（DP）		※A 種 ・ B 種	せっこうボード面及びその他ボード面	目地：継目処理工法	※A 種 ・ B 種	目地：継目処理工法以外	※B 種 ・ A 種
	下地面等		種別																																	
木部	不透明塗料塗りの場合	※A 種 ・ B 種																																		
	透明塗りの場合	※B 種 ・ A 種																																		
鉄鋼面（DP以外）		※C 種 ・ A 種 ・ B 種																																		
鉄鋼面（DPのみ）		※B 種 ・ A 種 ・ C 種																																		
亜鉛めっき鋼面		・ A 種 ・ B 種																																		
モルタル面及びプラスター面		※B 種 ・ A 種																																		
コンクリート面（DP以外）及びALCパネル面		※B 種 ・ A 種																																		
押出成形セメント板面		※B 種 ・ A 種																																		
コンクリート面（DP）		※A 種 ・ B 種																																		
せっこうボード面及びその他ボード面	目地：継目処理工法	※A 種 ・ B 種																																		
	目地：継目処理工法以外	※B 種 ・ A 種																																		
3 錆止め塗料塗り	(18. 3. 2) (18. 3. 3) <table><tr><th>下地面</th><th>塗料の種別</th><th>錆止め塗料の種別</th><th>錆止め塗料塗りの種別</th></tr><tr><td rowspan="3">鉄鋼面</td><td>SOP</td><td>A 種</td><td>見え掛り：A 種 見え隠れ：B 種</td></tr><tr><td>DP</td><td>C 種及びD 種</td><td>表 18. 3. 4</td></tr><tr><td>EP-G</td><td>・ A 種 ※B 種</td><td>見え掛り：A 種 見え隠れ：B 種</td></tr><tr><td rowspan="3">亜鉛めっき鋼面</td><td>SOP</td><td>※A 種 ・ B 種</td><td>鋼製建具等：A 種 上記以外：B 種</td></tr><tr><td>DP</td><td>B 種</td><td>表 18. 3. 6</td></tr><tr><td>EP-G</td><td>C 種</td><td>鋼製建具等：C 種 上記以外：B 種</td></tr></table>	下地面	塗料の種別	錆止め塗料の種別	錆止め塗料塗りの種別	鉄鋼面	SOP	A 種	見え掛り：A 種 見え隠れ：B 種	DP	C 種及びD 種	表 18. 3. 4	EP-G	・ A 種 ※B 種	見え掛り：A 種 見え隠れ：B 種	亜鉛めっき鋼面	SOP	※A 種 ・ B 種	鋼製建具等：A 種 上記以外：B 種	DP	B 種	表 18. 3. 6	EP-G	C 種	鋼製建具等：C 種 上記以外：B 種											
下地面	塗料の種別	錆止め塗料の種別	錆止め塗料塗りの種別																																	
鉄鋼面	SOP	A 種	見え掛り：A 種 見え隠れ：B 種																																	
	DP	C 種及びD 種	表 18. 3. 4																																	
	EP-G	・ A 種 ※B 種	見え掛り：A 種 見え隠れ：B 種																																	
亜鉛めっき鋼面	SOP	※A 種 ・ B 種	鋼製建具等：A 種 上記以外：B 種																																	
	DP	B 種	表 18. 3. 6																																	
	EP-G	C 種	鋼製建具等：C 種 上記以外：B 種																																	

章	項 目	特 記 事 項			
	4 塗装	(18. 4. 1～18. 13. 2)			
		塗装	種別	塗料の種類	高日射 反射率塗料
		◎合成樹脂調 合ペイント 塗り (SOP)	木部屋外	-	-
			木部屋内		-
			鉄鋼面		・適用する
			亜鉛めっき鋼面		・適用する
		◎クリヤラッカー塗り (CL)		※B 種 ・A 種	-
		◎アクリル樹脂系非水分散形塗料塗り (NAD)		※B 種 ・A 種	-
		◎耐候性塗料 塗り (DP)	鉄鋼面	-	上塗り等級 () 級
			亜鉛めっき鋼面	-	上塗り等級 () 級
			コンクリート面及び押 出成形セメント板面	・A 種 ・B 種 ・C 種	-
		◎つや有合成 樹脂エマルシ ョンペイント 塗り (EP-G)	コンクリート面、モルタ ル面、プラスター面、せ っこうボード面、その他 ボード面等	※B 種 ・A 種	-
			屋内の鉄鋼面	※B 種 ・A 種	-
		・合成樹脂エマルジョンペイント塗り (EP)		※B 種 ・A 種	-
		・ウレタン樹脂ワニス塗り (UC)		※B 種 ・A 種	-
		・ステイン塗り		・ピグメントス テイン塗り ・オイルステイ ン塗り (OS)	-
		◎木材保護塗料塗り (WP)		※B 種 ・A 種	-
		<p>高日射反射率塗料を適用する場合の適用箇所は屋上、屋根面の金属面とする。</p> <p>クリアラッカー塗り A 種の工法 2 の適用</p> <ul style="list-style-type: none"> ・適用しない ・適用する（着色剤：・有機系着色剤 ・油性染料着色剤） <p>ウレタン樹脂ワニス塗りの工法 1 の着色の適用</p> <ul style="list-style-type: none"> ・適用する ・適用しない <p>オイルステイン塗りの工程等</p> <p>※製造所の仕様による</p>			

章	項 目	特 記 事 項																											
19 内装工事	1 接着剤	(19.2.2) ビニル床シート、ビニル床タイル、ゴム床タイル用接着剤のホルムアルデヒドの放散量 ※F☆☆☆☆ ・ 施工箇所の下地がセメント系下地及び木質系下地以外の場合の接着剤の種別 ・図示による																											
	2 下地の工法	(19.2.3) 標準仕様書 19.2.3(1)～(3)以外の下地の工法 ・図示による																											
	3 ビニル床シート	(19.2.2) (19.2.3) <table><tr><th>種類の記号</th><th>色柄</th><th>厚さ (mm)</th><th>備考</th></tr><tr><td>※FS (複層ビニル床シート) ・ ・</td><td>◎無地 ◎マーブル柄 ◎柄物</td><td>※2.0 ◎図示</td><td></td></tr></table> 接合部の処理 ※熱溶接工法	種類の記号	色柄	厚さ (mm)	備考	※FS (複層ビニル床シート) ・ ・	◎無地 ◎マーブル柄 ◎柄物	※2.0 ◎図示																				
	種類の記号	色柄	厚さ (mm)	備考																									
	※FS (複層ビニル床シート) ・ ・	◎無地 ◎マーブル柄 ◎柄物	※2.0 ◎図示																										
4 ビニル床タイル	(19.2.2) <table><tr><th>種類の記号</th><th>色柄</th><th>寸法 (mm)</th><th>厚さ (mm)</th><th>備考</th></tr><tr><td>※KT (コンポジションビニル床タイル) ・TT (単層ビニル床タイル) ・FT (服装ビニル床タイル) ◎FOA (置敷きビニル床タイル) ・FOB (薄型置敷きビニル床タイル)</td><td>・無地 ・柄物</td><td>・300×300 ・450×450 ・500×500</td><td>※2.0 ・2.5 ・3.0 ◎図示</td><td></td></tr></table>	種類の記号	色柄	寸法 (mm)	厚さ (mm)	備考	※KT (コンポジションビニル床タイル) ・TT (単層ビニル床タイル) ・FT (服装ビニル床タイル) ◎FOA (置敷きビニル床タイル) ・FOB (薄型置敷きビニル床タイル)	・無地 ・柄物	・300×300 ・450×450 ・500×500	※2.0 ・2.5 ・3.0 ◎図示																			
種類の記号	色柄	寸法 (mm)	厚さ (mm)	備考																									
※KT (コンポジションビニル床タイル) ・TT (単層ビニル床タイル) ・FT (服装ビニル床タイル) ◎FOA (置敷きビニル床タイル) ・FOB (薄型置敷きビニル床タイル)	・無地 ・柄物	・300×300 ・450×450 ・500×500	※2.0 ・2.5 ・3.0 ◎図示																										
5 特殊機能床材	(19.2.2) <table><tr><th>シート種別</th><th>厚さ、寸法、形状</th><th>性能</th><th>種類</th></tr><tr><td>・帯電防止床シート</td><td>(mm)</td><td></td><td></td></tr><tr><td>・帯電防止床タイル</td><td>－ (mm)</td><td></td><td></td></tr><tr><td>・視覚障害者用床タイル</td><td>(mm)</td><td>視覚障害者誘導ブロック等の突起の形状・寸法及びその配列は JIS T 9251 による</td><td></td></tr><tr><td>・耐動荷重性床シート</td><td>(mm)</td><td></td><td></td></tr><tr><td>・防滑性床シート</td><td>(mm)</td><td></td><td></td></tr><tr><td>・防滑性床タイル</td><td>－ (mm)</td><td></td><td></td></tr></table>	シート種別	厚さ、寸法、形状	性能	種類	・帯電防止床シート	(mm)			・帯電防止床タイル	－ (mm)			・視覚障害者用床タイル	(mm)	視覚障害者誘導ブロック等の突起の形状・寸法及びその配列は JIS T 9251 による		・耐動荷重性床シート	(mm)			・防滑性床シート	(mm)			・防滑性床タイル	－ (mm)		
シート種別	厚さ、寸法、形状	性能	種類																										
・帯電防止床シート	(mm)																												
・帯電防止床タイル	－ (mm)																												
・視覚障害者用床タイル	(mm)	視覚障害者誘導ブロック等の突起の形状・寸法及びその配列は JIS T 9251 による																											
・耐動荷重性床シート	(mm)																												
・防滑性床シート	(mm)																												
・防滑性床タイル	－ (mm)																												
6 ビニル幅木	(19.2.2) 材質 ◎軟質 ・硬質 高さ (mm) ※60 ・75 ・100 厚さ (mm) ※1.5 以上																												
7 ゴム床タイル	(19.2.2) 種類 ・単層品 ・積層品 色柄 () 厚さ (mm) ・3.0 ・4.5 ・6.0 ・9.0 寸法 (mm) ()																												

章	項 目	特 記 事 項			
9	合成樹脂塗床	(19. 4. 3) (表 19. 4. 4) (表 19. 4. 5)			
		種別	施工箇所	工法	仕上げの種類
		・ 厚膜型塗床材 (弾性ウレタン樹脂系塗床)			※平滑仕上げ ・ 防滑仕上げ ・ つや消し仕上げ
		◎厚膜型塗床材 (エポキシ樹脂系塗床)		・ 薄膜流しのペ工法 ◎厚膜流しのペ工法 ・ 樹脂モルタル工法	・ 平滑仕上げ ◎防滑仕上げ
		・ 薄膜型塗床材 (エポキシ樹脂系塗床)			※平滑仕上げ
		・ アクリル樹脂塗床 (JIS K 5970) (防塵塗料塗り)		※製造所の指定 による	工程 塗布量 (kg/㎡) ※0. 25kg/㎡以上 表面仕上げ ※平滑 ・ 防滑 溶剤 ※水性 ・ 溶剤系 ・ 無溶剤系 仕上げ色 ※標準色 ・
		塗床料のホルムアルデヒドの放散量 ※F☆☆☆☆ ・			
10	フローリング張り	(19. 5. 2～19. 5. 6) (表 19. 5. 1～表 19. 5. 6)			
		フローリングのホルムアルデヒドの放散量等 ※標準仕様書 19. 5. 2 (2) による ・			
		各工法に使用する接着剤のホルムアルデヒドの放散量 ※F☆☆☆☆ ・			
		単層フローリング ・ フローリングボード1等			
		工法	・ 釘止め工法 (・ 根太張り ・ 直張り) ・ 接着工法		
		樹種	※なら ・		
		厚さ、大きさ	※標準仕様書 表 19. 5. 1 による ・		
		仕上塗装	※塗装品 ・ 無塗装品		
		間伐材等の適用	・ 適用する ・ 適用しない		
		・ フローリングブロック1等			
		工法	※接着工法		
		樹種	※なら ・		
		厚さ、大きさ	※標準仕様書 表 19. 5. 1 による ・		
		仕上塗装	※塗装品 ・ 無塗装品		
		間伐材等の適用	・ 適用する ・ 適用しない		
		複合フローリング ・ 天然木化粧複合フローリング			
		工法	・ 釘止め工法 (・ 根太張り ・ 直張り) ・ 接着工法		
		樹種	※なら ・		
		種別 (標準仕様書 表 19. 5. 2)	・ A 種 ・ B 種 ・ C 種		
		仕上塗装	・ 塗装品 ・ 無塗装品		
間伐材等の適用	・ 適用する ・ 適用しない				

章	項 目	特 記 事 項																																																															
		接着工法の場合の裏面緩衝材 ※合成樹脂発泡シート 現場塗装仕上げ ・ 行う（施工箇所） ※ウレタン樹脂ワニス塗り ・ オイルステインの上、ワックス塗り ・ 生地のままワックス塗り																																																															
11	畳敷き	(19. 6. 2) (表 19. 6. 1) 種別 ・ A 種 ・ B 種 ・ C 種 ・ D 種（畳床： ・ KT-I ・ KT-II ・ KT-Ⅲ ・ KT-K ・ KT-N） 下地の種類 ・ 標準仕様書 表 12. 6. 1 による床組 ・ ポリスチレンフォーム床下地（ノンフロン） ・ 畳表及び畳床はホルムアルデヒド、アセトアルデヒド及びスチレンを発生しないか、 発生が極めて少ない材料を使用するものとする。 衝撃緩和型畳（畳表： ・ C1 ・ C2）																																																															
12	せっこうボード その他のボード張り	(19. 7. 2) (19. 7. 3) (表 19. 7. 1) MDF 及びパーティクルボードのホルムアルデヒド放散量 ※F☆☆☆☆ ・ 合板のホルムアルデヒド放散量 ※標準仕様書 19. 7. 2 (2) (イ) の (a) ～ (d) のいずれか ・ 接着剤のホルムアルデヒド放散量 ※F☆☆☆☆ ・ 木質系セメント板 <table><tr><th>種類</th><th colspan="4">厚さ (mm)、規格等</th></tr><tr><td>・ 硬質 (HW)</td><td>・ 15</td><td>・ 20</td><td>・ 25</td><td>・</td></tr><tr><td>・ 中質 (MW)</td><td>・ 15</td><td>・ 20</td><td>・ 25</td><td>・</td></tr><tr><td>・ 普通 (NW)</td><td>・ 15</td><td>・ 20</td><td>・ 25</td><td>・</td></tr></table> 木片セメント板 <table><tr><th>種類</th><th colspan="4">厚さ (mm)、規格等</th></tr><tr><td>・ 硬質 (HW)</td><td>・ 12</td><td>・ 15</td><td>・ 18</td><td>・ 21 ・</td></tr><tr><td>・ 普通 (NW)</td><td>・ 30</td><td colspan="3">・</td></tr></table> 繊維強化セメント板 <table><tr><th>種類</th><th colspan="2">厚さ (mm)、規格等</th></tr><tr><td>◎けい酸カルシウム板</td><td>普通ボード 0. 8FK</td><td>タイプ 2（無石棉）</td></tr><tr><td></td><td>◎6</td><td>◎8</td></tr><tr><td>◎化粧けい酸カルシウム板</td><td>普通ボード 0. 8FK</td><td>タイプ 2（無石棉）</td></tr><tr><td></td><td>◎6</td><td>・ 8</td></tr><tr><td></td><td colspan="2">表面への化粧張り等の加工</td></tr><tr><td></td><td colspan="2">・ アクリル樹脂系焼付け</td></tr><tr><td></td><td colspan="2">・</td></tr></table> 火山性ガラス質複層板 <table><tr><th>種類</th><th>厚さ (mm)、規格等</th></tr><tr><td>・ 火山性ガラス質複層板</td><td>・ 図示による</td></tr></table>	種類	厚さ (mm)、規格等				・ 硬質 (HW)	・ 15	・ 20	・ 25	・	・ 中質 (MW)	・ 15	・ 20	・ 25	・	・ 普通 (NW)	・ 15	・ 20	・ 25	・	種類	厚さ (mm)、規格等				・ 硬質 (HW)	・ 12	・ 15	・ 18	・ 21 ・	・ 普通 (NW)	・ 30	・			種類	厚さ (mm)、規格等		◎けい酸カルシウム板	普通ボード 0. 8FK	タイプ 2（無石棉）		◎6	◎8	◎化粧けい酸カルシウム板	普通ボード 0. 8FK	タイプ 2（無石棉）		◎6	・ 8		表面への化粧張り等の加工			・ アクリル樹脂系焼付け			・		種類	厚さ (mm)、規格等	・ 火山性ガラス質複層板	・ 図示による
種類	厚さ (mm)、規格等																																																																
・ 硬質 (HW)	・ 15	・ 20	・ 25	・																																																													
・ 中質 (MW)	・ 15	・ 20	・ 25	・																																																													
・ 普通 (NW)	・ 15	・ 20	・ 25	・																																																													
種類	厚さ (mm)、規格等																																																																
・ 硬質 (HW)	・ 12	・ 15	・ 18	・ 21 ・																																																													
・ 普通 (NW)	・ 30	・																																																															
種類	厚さ (mm)、規格等																																																																
◎けい酸カルシウム板	普通ボード 0. 8FK	タイプ 2（無石棉）																																																															
	◎6	◎8																																																															
◎化粧けい酸カルシウム板	普通ボード 0. 8FK	タイプ 2（無石棉）																																																															
	◎6	・ 8																																																															
	表面への化粧張り等の加工																																																																
	・ アクリル樹脂系焼付け																																																																
	・																																																																
種類	厚さ (mm)、規格等																																																																
・ 火山性ガラス質複層板	・ 図示による																																																																

章	項 目	特 記 事 項																																						
		<div>繊維板</div> <table><tr><th>種類</th><th>厚さ(mm)、規格等</th></tr><tr><td>・ハードボード（素地） スタンダードボード</td><td>・素地ハードボード（・未研磨板（RN） ・研磨板（RS）） ・内装用化粧ハードボード（DI） 厚さ ・2.5 ・3.5 ・5 ・7</td></tr><tr><td>・テンパードボード（処理）</td><td>・素地ハードボード（・未研磨板（RN） ・研磨板（RS）） ・外装用化粧ハードボード（DI） 厚さ ・2.5 ・3.5 ・5 ・7</td></tr><tr><td>・ミディアムデンシティファイバーボード（MDF）</td><td>・3 ・7 ・9 ・12</td></tr><tr><td>・インシュレーションボード</td><td>A級（・天然仕上げ ・内装仕上げ ・ ） ・9 ・12 ・15 ・18</td></tr></table> <div>パーティクルボード</div> <table><tr><th>種類</th><th>厚さ(mm)、規格等</th></tr><tr><td>・単板張りパーティクルボード</td><td>・無研磨板（VN） ・研磨板（VS） ・10 ・12 ・15 ・18 ・</td></tr><tr><td>・化粧パーティクルボード</td><td>・単板オーバーレイ（DV） ・プラスチックオーバーレイ（D0） ・塗装（DC） ・10（難燃） ・12（難燃） ・</td></tr></table> <div>吸音材料</div> <table><tr><th>種類</th><th>厚さ(mm)、規格等</th></tr><tr><td>◎ロックウール化粧吸音板（DR）</td><td>・フラットタイプ （◎9（不燃） ・12（不燃） ・ ） ・凹凸タイプ （・12（不燃） ◎15（不燃） ・ ）</td></tr><tr><td>・ロックウール吸音ボード1号</td><td>・25 ・</td></tr><tr><td>・グラスウール吸音ボード 32K</td><td>・25（ガラスクロス包） ・</td></tr></table> <div>せっこうボード製品</div> <table><tr><th>種類</th><th>厚さ(mm)、規格等</th></tr><tr><td>◎せっこうボード（GB-R）</td><td>◎12.5（不燃） ・15（不燃） ◎9.5</td></tr><tr><td>・不燃積層せっこうボード（GB-NC）</td><td>9.5（不燃） ・化粧有（下地張り用） ・化粧無（トラバーチン模様）</td></tr><tr><td>◎シージングせっこうボード（GB-S）</td><td>12.5（※不燃 ・準不燃）</td></tr><tr><td>◎強化せっこうボード（GB-F）</td><td>◎12.5（不燃） ・15（不燃）</td></tr><tr><td>・せっこうラスボード（GB-L）</td><td>9.5</td></tr><tr><td>◎化粧せっこうボード（GB-D）</td><td>・木目 12.5（不燃） 幅440mm程度 模様（・柾目 ・板目）専用下地材有り ◎トラバーチン模様 9.5（準不燃）</td></tr></table>	種類	厚さ(mm)、規格等	・ハードボード（素地） スタンダードボード	・素地ハードボード（・未研磨板（RN） ・研磨板（RS）） ・内装用化粧ハードボード（DI） 厚さ ・2.5 ・3.5 ・5 ・7	・テンパードボード（処理）	・素地ハードボード（・未研磨板（RN） ・研磨板（RS）） ・外装用化粧ハードボード（DI） 厚さ ・2.5 ・3.5 ・5 ・7	・ミディアムデンシティファイバーボード（MDF）	・3 ・7 ・9 ・12	・インシュレーションボード	A級（・天然仕上げ ・内装仕上げ ・ ） ・9 ・12 ・15 ・18	種類	厚さ(mm)、規格等	・単板張りパーティクルボード	・無研磨板（VN） ・研磨板（VS） ・10 ・12 ・15 ・18 ・	・化粧パーティクルボード	・単板オーバーレイ（DV） ・プラスチックオーバーレイ（D0） ・塗装（DC） ・10（難燃） ・12（難燃） ・	種類	厚さ(mm)、規格等	◎ロックウール化粧吸音板（DR）	・フラットタイプ （◎9（不燃） ・12（不燃） ・ ） ・凹凸タイプ （・12（不燃） ◎15（不燃） ・ ）	・ロックウール吸音ボード1号	・25 ・	・グラスウール吸音ボード 32K	・25（ガラスクロス包） ・	種類	厚さ(mm)、規格等	◎せっこうボード（GB-R）	◎12.5（不燃） ・15（不燃） ◎9.5	・不燃積層せっこうボード（GB-NC）	9.5（不燃） ・化粧有（下地張り用） ・化粧無（トラバーチン模様）	◎シージングせっこうボード（GB-S）	12.5（※不燃 ・準不燃）	◎強化せっこうボード（GB-F）	◎12.5（不燃） ・15（不燃）	・せっこうラスボード（GB-L）	9.5	◎化粧せっこうボード（GB-D）	・木目 12.5（不燃） 幅440mm程度 模様（・柾目 ・板目）専用下地材有り ◎トラバーチン模様 9.5（準不燃）
種類	厚さ(mm)、規格等																																							
・ハードボード（素地） スタンダードボード	・素地ハードボード（・未研磨板（RN） ・研磨板（RS）） ・内装用化粧ハードボード（DI） 厚さ ・2.5 ・3.5 ・5 ・7																																							
・テンパードボード（処理）	・素地ハードボード（・未研磨板（RN） ・研磨板（RS）） ・外装用化粧ハードボード（DI） 厚さ ・2.5 ・3.5 ・5 ・7																																							
・ミディアムデンシティファイバーボード（MDF）	・3 ・7 ・9 ・12																																							
・インシュレーションボード	A級（・天然仕上げ ・内装仕上げ ・ ） ・9 ・12 ・15 ・18																																							
種類	厚さ(mm)、規格等																																							
・単板張りパーティクルボード	・無研磨板（VN） ・研磨板（VS） ・10 ・12 ・15 ・18 ・																																							
・化粧パーティクルボード	・単板オーバーレイ（DV） ・プラスチックオーバーレイ（D0） ・塗装（DC） ・10（難燃） ・12（難燃） ・																																							
種類	厚さ(mm)、規格等																																							
◎ロックウール化粧吸音板（DR）	・フラットタイプ （◎9（不燃） ・12（不燃） ・ ） ・凹凸タイプ （・12（不燃） ◎15（不燃） ・ ）																																							
・ロックウール吸音ボード1号	・25 ・																																							
・グラスウール吸音ボード 32K	・25（ガラスクロス包） ・																																							
種類	厚さ(mm)、規格等																																							
◎せっこうボード（GB-R）	◎12.5（不燃） ・15（不燃） ◎9.5																																							
・不燃積層せっこうボード（GB-NC）	9.5（不燃） ・化粧有（下地張り用） ・化粧無（トラバーチン模様）																																							
◎シージングせっこうボード（GB-S）	12.5（※不燃 ・準不燃）																																							
◎強化せっこうボード（GB-F）	◎12.5（不燃） ・15（不燃）																																							
・せっこうラスボード（GB-L）	9.5																																							
◎化粧せっこうボード（GB-D）	・木目 12.5（不燃） 幅440mm程度 模様（・柾目 ・板目）専用下地材有り ◎トラバーチン模様 9.5（準不燃）																																							

章	項 目	特 記 事 項																				
		<div>合板</div> <table><tr><th>種類</th><th>厚さ(mm)、規格等</th></tr><tr><td>◎普通合板</td><td>表面の樹種 生地、透明塗料塗り（※ワッ程度 ・ ） 不透明塗料塗り（※しな合板程度 ・ ） 板面の品質（ ） 厚さ(mm) ※図示による 接着の程度（・1 類 ・2 類） 防虫処理 ・行う ・行わない</td></tr><tr><td>・天然木化粧合板</td><td>化粧板の樹種名（ ） 接着の程度（・1 類 ・2 類） 厚さ(mm) ※図示による 防虫処理 ・行う ・行わない</td></tr><tr><td>・特殊加工化粧合板</td><td>化粧加工の方法（・オーバーレイ ・プリント ・塗装） 表面性能（ ）タイプ 接着の程度（・1 類 ・2 類） 厚さ(mm) ※図示による 防虫処理 ・行う ・行わない</td></tr></table> <div>化粧板</div> <table><tr><th>種類</th><th>厚さ(mm)、規格等</th></tr><tr><td>◎メラミン樹脂化粧板</td><td>JIS K 6903 による（※1.2 ・ ）</td></tr><tr><td>◎ポリエステル樹脂化粧板</td><td></td></tr></table> <p>天井ボード類（ロックウール吸音板を除く）の重ね張りを行う場合 ※図示による ・ 合板類の張付け ・A 種 ・B 種 ・ せっこうボードの目地等 目地工法の種類 ※仕上表による ・</p> <table><tr><td>・突付け工法のエッジの種類</td><td>・ベベルエッジ</td><td>・スクエアエッジ</td></tr><tr><td>・目透かし工法のエッジの種類</td><td>・ベベルエッジ</td><td>・スクエアエッジ</td></tr></table> <p>化粧加工の方法（・オーバーレイ ・プリント ・塗装 ・ ）</p>	種類	厚さ(mm)、規格等	◎普通合板	表面の樹種 生地、透明塗料塗り（※ワッ程度 ・ ） 不透明塗料塗り（※しな合板程度 ・ ） 板面の品質（ ） 厚さ(mm) ※図示による 接着の程度（・1 類 ・2 類） 防虫処理 ・行う ・行わない	・天然木化粧合板	化粧板の樹種名（ ） 接着の程度（・1 類 ・2 類） 厚さ(mm) ※図示による 防虫処理 ・行う ・行わない	・特殊加工化粧合板	化粧加工の方法（・オーバーレイ ・プリント ・塗装） 表面性能（ ）タイプ 接着の程度（・1 類 ・2 類） 厚さ(mm) ※図示による 防虫処理 ・行う ・行わない	種類	厚さ(mm)、規格等	◎メラミン樹脂化粧板	JIS K 6903 による（※1.2 ・ ）	◎ポリエステル樹脂化粧板		・突付け工法のエッジの種類	・ベベルエッジ	・スクエアエッジ	・目透かし工法のエッジの種類	・ベベルエッジ	・スクエアエッジ
種類	厚さ(mm)、規格等																					
◎普通合板	表面の樹種 生地、透明塗料塗り（※ワッ程度 ・ ） 不透明塗料塗り（※しな合板程度 ・ ） 板面の品質（ ） 厚さ(mm) ※図示による 接着の程度（・1 類 ・2 類） 防虫処理 ・行う ・行わない																					
・天然木化粧合板	化粧板の樹種名（ ） 接着の程度（・1 類 ・2 類） 厚さ(mm) ※図示による 防虫処理 ・行う ・行わない																					
・特殊加工化粧合板	化粧加工の方法（・オーバーレイ ・プリント ・塗装） 表面性能（ ）タイプ 接着の程度（・1 類 ・2 類） 厚さ(mm) ※図示による 防虫処理 ・行う ・行わない																					
種類	厚さ(mm)、規格等																					
◎メラミン樹脂化粧板	JIS K 6903 による（※1.2 ・ ）																					
◎ポリエステル樹脂化粧板																						
・突付け工法のエッジの種類	・ベベルエッジ	・スクエアエッジ																				
・目透かし工法のエッジの種類	・ベベルエッジ	・スクエアエッジ																				

章	項 目	特 記 事 項																
	13 壁紙張り	(19. 8. 2) (19. 8. 3) ホルムアルデヒドの放散量 ※F☆☆☆☆																
		<table><tr><th>施工箇所</th><th>壁紙の種類</th><th>防火性能</th><th>備考</th></tr><tr><td></td><td>・紙 ・塩化ビニル ・無機質</td><td>・繊維 ・プラスチック ・その他</td><td>・不燃 ・準不燃 ・難燃</td></tr><tr><td></td><td>・紙 ・塩化ビニル ・無機質</td><td>・繊維 ・プラスチック ・その他</td><td>・不燃 ・準不燃 ・難燃</td></tr><tr><td></td><td>・紙 ・塩化ビニル ・無機質</td><td>・繊維 ・プラスチック ・その他</td><td>・不燃 ・準不燃 ・難燃</td></tr></table>	施工箇所	壁紙の種類	防火性能	備考		・紙 ・塩化ビニル ・無機質	・繊維 ・プラスチック ・その他	・不燃 ・準不燃 ・難燃		・紙 ・塩化ビニル ・無機質	・繊維 ・プラスチック ・その他	・不燃 ・準不燃 ・難燃		・紙 ・塩化ビニル ・無機質	・繊維 ・プラスチック ・その他	・不燃 ・準不燃 ・難燃
		施工箇所	壁紙の種類	防火性能	備考													
			・紙 ・塩化ビニル ・無機質	・繊維 ・プラスチック ・その他	・不燃 ・準不燃 ・難燃													
			・紙 ・塩化ビニル ・無機質	・繊維 ・プラスチック ・その他	・不燃 ・準不燃 ・難燃													
			・紙 ・塩化ビニル ・無機質	・繊維 ・プラスチック ・その他	・不燃 ・準不燃 ・難燃													
		モルタル及びせっこうプラスター面の素地ごしらの種類 ※B種 ・A種																
		コンクリート面の素地ごしらの種類 ※B種 ・A種																
		せっこうボード面の素地ごしらの種類 ※B種 ・A種																
		14 断熱材	(19. 9. 2～19. 9. 4) フェノールフォームを使用した断熱材のホルムアルデヒド放散量 ※F☆☆☆☆															
開口部等補修のための張付け用の接着剤のホルムアルデヒド放散量 ※F☆☆☆☆																		
※断熱材打込み工法																		
<table><tr><th>種類</th><th>厚さ (mm)</th><th>施工箇所</th></tr><tr><td>・ピーズ法^ホ リスレンフォーム保温版 (・)</td><td>・</td><td>・</td></tr><tr><td>◎押出法^ホ リスレンフォーム断熱材 (スキン層なし) (・ 2 種 bA ・ 3 種 bA ・ 3 種 bC ・ 3 種 bD)</td><td>◎図示</td><td>◎図示</td></tr><tr><td>・硬質ウレタンフォーム断熱材</td><td>・</td><td>・</td></tr><tr><td>・フェノールフォーム断熱材</td><td>・</td><td>・</td></tr></table>	種類		厚さ (mm)	施工箇所	・ピーズ法 ^ホ リスレンフォーム保温版 (・)	・	・	◎押出法 ^ホ リスレンフォーム断熱材 (スキン層なし) (・ 2 種 bA ・ 3 種 bA ・ 3 種 bC ・ 3 種 bD)	◎図示	◎図示	・硬質ウレタンフォーム断熱材	・	・	・フェノールフォーム断熱材	・	・		
種類	厚さ (mm)		施工箇所															
・ピーズ法 ^ホ リスレンフォーム保温版 (・)	・		・															
◎押出法 ^ホ リスレンフォーム断熱材 (スキン層なし) (・ 2 種 bA ・ 3 種 bA ・ 3 種 bC ・ 3 種 bD)	◎図示		◎図示															
・硬質ウレタンフォーム断熱材	・		・															
・フェノールフォーム断熱材	・		・															
◎断熱材現場発泡工法																		
断熱材の種類 ◎A 種 1 ・A 種 1H																		
吹付け厚さ (mm) ・25 ・30 ◎図示																		
施工箇所 ◎図示による ・																		
(品質・性能及び試験方法は建築材料等品質性能表による)																		

章	項 目	特 記 事 項																
20 ユニット及びその他の工事	1 フリーアクセス フロア	<div>(20. 2. 2)</div> <table><tr><th>施工箇所</th><th>構法</th><th>寸法 (mm)</th><th>高さ (mm)</th></tr><tr><td>◎図示による ・</td><td>・置敷式 ◎支柱調整式</td><td>・ 500 × 500 ◎図示</td><td>100</td></tr></table> <table><tr><th>耐震性能</th><th>所定荷重 (N)</th><th>表面仕上材</th><th>備考</th></tr><tr><td>◎1. 0G ・ 0. 6G</td><td>◎3000 ・ 5000</td><td>◎帯電防止床タイル ・ タイルカーペット ・</td><td></td></tr></table> <p>寸法精度 ※標準仕様書 20. 2. 2 (2) (オ) (a) ～ (c) による ・ 以下による パネルの長さ () パネルの平面形状 (角度) () フリーアクセスフロアの高さ ()</p> <p>帯電防止性能 ・ 評価値 (U) ≥0. 6 以上 ・ 評価値 (U) ≥1. 2 以上</p> <p>感電防止性能 漏えい抵抗 (R) ≥1 × 10⁶ 以上</p> <p>(性能及び試験方法は建築材料等品質性能表による)</p>	施工箇所	構法	寸法 (mm)	高さ (mm)	◎図示による ・	・置敷式 ◎支柱調整式	・ 500 × 500 ◎図示	100	耐震性能	所定荷重 (N)	表面仕上材	備考	◎1. 0G ・ 0. 6G	◎3000 ・ 5000	◎帯電防止床タイル ・ タイルカーペット ・	
	施工箇所	構法	寸法 (mm)	高さ (mm)														
◎図示による ・	・置敷式 ◎支柱調整式	・ 500 × 500 ◎図示	100															
耐震性能	所定荷重 (N)	表面仕上材	備考															
◎1. 0G ・ 0. 6G	◎3000 ・ 5000	◎帯電防止床タイル ・ タイルカーペット ・																
2 可動間仕切		<div>(20. 2. 3)</div> <table><tr><th rowspan="2">構造形式</th><th colspan="2">構成基材の種類</th></tr><tr><th>スタッド</th><th>パ 柵</th></tr><tr><td>・ スタッド 式 (内蔵) ・ スタッド 式 (露出) ◎スタッド パ 柵 式 ・ パ 柵 式</td><td>図示</td><td>図示</td></tr></table> <table><tr><th>表面仕上材</th><th rowspan="2">遮音性 (dB/500HZ)</th><th rowspan="2">防火性能</th></tr><tr><th>パネル表面仕上げ</th></tr><tr><td>・ マリン樹脂焼付又はアクリル樹脂焼付 ・ 壁紙張り ・</td><td>・ 0 ・ 12 ・ 20 ・ 28 ・ 36</td><td>・ 不燃</td></tr></table> <p>パネル内に取付ける建具 ・ あり (※図示 ・) ・ なし</p> <p>パネル内に取り付ける建具のドアクローザー、丁番、錠前、上げ落としは、標準仕様書 16 章 8 節の建具用金物に対応する材質とする。</p> <p>表面仕上材を壁紙張りとする場合の品質、性能は標準仕様書 19 章による</p> <p>パネル材のホルムアルデヒド放散量 ※F☆☆☆☆ ・</p>	構造形式	構成基材の種類		スタッド	パ 柵	・ スタッド 式 (内蔵) ・ スタッド 式 (露出) ◎スタッド パ 柵 式 ・ パ 柵 式	図示	図示	表面仕上材	遮音性 (dB/500HZ)	防火性能	パネル表面仕上げ	・ マリン樹脂焼付又はアクリル樹脂焼付 ・ 壁紙張り ・	・ 0 ・ 12 ・ 20 ・ 28 ・ 36	・ 不燃	
構造形式	構成基材の種類																	
	スタッド	パ 柵																
・ スタッド 式 (内蔵) ・ スタッド 式 (露出) ◎スタッド パ 柵 式 ・ パ 柵 式	図示	図示																
表面仕上材	遮音性 (dB/500HZ)	防火性能																
パネル表面仕上げ																		
・ マリン樹脂焼付又はアクリル樹脂焼付 ・ 壁紙張り ・	・ 0 ・ 12 ・ 20 ・ 28 ・ 36	・ 不燃																

章	項 目	特 記 事 項								
3	移動間仕切	(20. 2. 4)								
		走行方向	操作方法による種別	圧接装置の操作方法	総厚さ (mm)	パネル表面材		遮音性 (dB/500HZ)		
		・ 平行方向移動式 ◎二方向移動式	◎手動式 ・ 電動式 ・ 部分電動式	・ プッシュ式 ◎ハンドル式 ・		◎鋼板 ・	◎焼付塗装 ・ 壁紙張り ・	・ 36 未満 ◎36 以上		
		パネル表面仕上げの壁紙張りの品質、性能 標準仕様書 19 章による								
		ハンガーレールの取付け下地の補強 ※取付け全重量の 5 倍以上の荷重に対して、使用上支障のない耐力及び変形量となるように補強する。 ・ 図示による								
		パネルをランナーに取り付ける部品 ※ライナーに加わる重量の 5 倍以上の荷重に耐えられるもの ・								
		ハンガーレール及びランナー ※パネル重量の 5 倍以上の荷重を、パネル 1 枚に使用するライナー数で除した値に対して、耐力及び変形量が使用上支障のないものとする ・								
		(品質・性能及び試験方法は建築材料等品質性能表による)								
		4	トイレブース	(20. 2. 5)						
				表面材の材料	脚部種類	ドアエッジ				
・ マリン樹脂系化粧板 ・ ポリエステル樹脂系化粧板 ◎図示	※幅木タイプ ・			材質		形状				
				※製造所の仕様による ・ アルミニウム製 ・ ステンレス製 ・ 表面材と同材		・ 標準 ・ R タイプ				
(品質・性能及び試験方法は建築材料等品質性能表による)										
5	手すり			(20. 2. 6)						
				材料の種類及び仕上げ ・ SUS304 表面処理 ※HL 程度 ◎鋼板 表面処理 溶融亜鉛めっき (※標準仕様書 表 14. 2. 2 による種別 (種)) ◎アルミニウム 表面処理 (※標準仕様書 表 14. 2. 1 による種別 (種)) 色合い等 ・ 標準色 () ・ 特注色 ()						
				手すりの握り部分						
				材種	表面仕上げ	直径 (mm)		取付箇所	備考	
				・ 集成材 (材種 :)	・ クリアラッカー ・	・ 30 程度 ・ 35 程度 ・ 45 程度				
		・ ビニル製 ハンドレール	・	・ 30 程度 ・ 35 程度 ・ 45 程度						

章	項 目	特 記 事 項
	6 階段滑り止め	(20. 2. 7) 材種 ◎ステンレス製 ・黄銅製押出型材 ・アルミニウム製押出型材 ・ 形状 ◎タイヤ型（タイヤの材質：ゴム又は合成樹脂等） ・タイヤレス型 端部の形状 ・フラットエンドあり ・フラットエンドなし 寸法（幅） ◎35 mm程度 ・40 mm程度 ・50 mm程度 取付け工法 ※接着工法 ・埋め込み工法
	7 黒板及び ホワイトボード	(20. 2. 9) ・黒板 区分 ※焼き付け ・ 種類 ・ほうろう黒板 ・鋼製黒板 ・ 色 ※緑 ・ ・ホワイトボード
	8 鏡	(20. 2. 10) 取付箇所（ 図示 ） 寸法(mm) ◎図示による ・ 厚さ(mm) ※5 ・
	9 表示	(20. 2. 11) 衝突防止表示 ◎設置する 設置場所 ※図示による 形状、寸法 ◎30 φ ・ 材質 ◎ステンレス ・塩ビシート ・設置しない 誘導標識、非常用進入口等の表示 ※消防法に適合する市販品 ・ 室名札、ピクトグラフ、案内板等の形状、寸法、材質、色、書体、印刷等の種別、取付け形式等（案内用図記号は JIS Z 8210 による） ※図示による
	10 タラップ	(20. 2. 12) 材質及び仕上げ ◎SUS304（スリップ止め加工 ※あり ・なし） ◎鋼製 表面処理 溶融亜鉛めっき （※標準仕様書 表 14. 2. 2 による種別（※C 種 ・ 種））
	11 煙突ライニング	(20. 2. 13) 適用安全使用温度 ・ °C 工法 ※鋼製ユニット煙突（煙突用成形ライニング材） ・

章	項 目	特 記 事 項						
12	ブラインド	(20. 2. 14)						
		形式	操作 方法	操作方法の 種類	スラットの 種類	スラット幅 (mm)	ボックス・レール の材種	幅・高さ 取付箇所
		◎横型	◎手動	※ギヤ式 ・コード式 ・操作棒式	※アルミニウム合金製 ・	※25 ・	※鋼製 ・	◎図示による ・
			◎電動	—				
		・縦型	・手動	※2本操作コード式 ・1本操作コード式	・アルミスラット ・クロススラット ・	・80 ・100	※アルミニウム合金製 ・	◎図示による ・
			・電動	—				
		縦型ブラインドのスラットの材質 ・アルミスラット 焼付け塗装仕上げ ・クロススラット 消防法で定める防火性能の表示がある特殊樹脂加工 ポリエステル繊維又は植物を原料とする合成繊維を使用した製品を使用する場合は「国等による環境物品等の調達の推進等に関する法律（平成12年法律第100号）」に基づく「環境物品等の調達の推進に関する基本方針（令和4年2月25日変更閣議決定）」に定める特定調達物品における判断基準（特定調達品目「公共工事」において表1中の品目ごとの判断の基準）を満たすものとする。						
13	ロールスクリーン	(20. 2. 13)						
		操作方法	スクリーンの材種		その他の材料	幅・高さ 取付位置	品質等	
		・スプリング式 ◎コード式 ・電動式	・ガラス繊維製 ・合成 ◎図示 ・天然繊維製		※製造所の仕様	◎図示による ・	◎図示	
		スクリーンの仕様 消防法で定める防火性能の表示があるもの ポリエステル繊維又は植物を原料とする合成繊維を使用した製品を使用する場合は「国等による環境物品等の調達の推進等に関する法律（平成12年法律第100号）」に基づく「環境物品等の調達の推進に関する基本方針（令和4年2月25日変更閣議決定）」に定める特定調達物品における判断基準（特定調達品目「公共工事」において表1中の品目ごとの判断の基準）を満たすものとする。						

章	項 目	特 記 事 項						
14	カーテン	(20. 2. 14)						
		形式		開閉操作	ひだの種類	生地の種類、品質、特殊加工等	取付箇所	備考
		◎シングル ・ダブル	◎片引き ・引分け	◎手引き ・ひも引き ・電動	・つまみ ひだ ・箱ひだ ・プレーンひだ		◎図示 ・	
		・シングル ・ダブル	・片引き ・引分け	・手引き ・ひも引き ・電動	・つまみ ひだ ・箱ひだ ・プレーンひだ		・図示 ・	
生地の仕様 消防法で定める防火性能の表示があるもの ポリエステル繊維又は植物を原料とする合成繊維を使用した製品を使用する場合は「国等による環境物品等の調達の推進等に関する法律（平成 12 年法律第 100 号）」に基づく「環境物品等の調達の推進に関する基本方針（令和 4 年 2 月 25 日変更閣議決定）」に定める特定調達物品における判断基準（特定調達品目「公共工事」において表 1 中の品目ごとの判断の基準）を満たすものとする。 暗幕カーテンの両端、上部及び召合せの重なり ※300mm 以上 ・								
15	カーテンレール	(20. 2. 14)						
		材料による区分	※アルミニウム又はアルミニウム合金の押出し成型材 ・ステンレス製					
16	ブラインドボックス及びカーテンボックス	強さによる区分	※10-90 ・					
		仕上げ	※アルマイト ・					
		形状	※角形 ・					
		溝型×深さ(mm)	・90×150 ・120×80 ・120×150 ・150×80 ◎図示					
		材質	◎集成材（仕上げ：） ◎アルミニウム製 押出し型材（市販品） 種別（標準仕様書 表 14. 2. 1） ・BC-1 種 ・BC-2 種 色合い ・標準色（ ） ・特注色（ ） ・鋼製（仕上げ：）					
17	天井点検口							
		材種	寸法	形式		外枠	内枠	
		◎アルミニウム製 ・	◎450×450 ◎600×600 ・	◎一般形 ・気密形	・屋内外用 ◎屋内用	・額縁タイプ ◎目地タイプ	・額縁タイプ ◎目地タイプ	
(品質・性能及び試験方法は建築材料等品質性能表による)								
18	床点検口							
		材種	寸法	形式		備考		
		・アルミニウム製 ◎ステンレス製 ・鋼製	・450×450 ◎600×600 ・	・一般形 ◎密閉形	・屋内外用 ◎屋内用	◎鍵付き		
密閉形とは、ボルト、ナット等メカニカル構造にパッキンを装着したものとする (品質・性能及び試験方法は建築材料等品質性能表による)								

章	項 目	特 記 事 項																																
	19 耐震スリット	<table><tr><th>方向</th><th>幅 (mm)</th><th>タイプ</th><th>耐火性能</th><th>防水性能</th><th>備考</th></tr><tr><td>・ 垂直方向</td><td>・ 25 ・</td><td rowspan="2">※完全 (全貫通型) ・</td><td rowspan="2">・ 耐火型 ・ 非耐火型</td><td rowspan="2">・ 有り ・ 無し</td><td rowspan="2"></td></tr><tr><td>・ 水平方向</td><td>・ 25 ・</td></tr></table> 目地 <table><tr><th>目地</th><th>内壁</th><th>外壁</th></tr><tr><td>目地材</td><td>・ シリング 材 (見え掛かりのみ) ・</td><td>・ シリング 材 (見え掛かりのみ) ・ シリング 材 (内外とも)</td></tr><tr><td>目地寸法 (mm)</td><td colspan="2">・ スリット幅 20×深さ 10 ・</td></tr></table> 目地材の材質は標準仕様書 表 9. 7. 1 による						方向	幅 (mm)	タイプ	耐火性能	防水性能	備考	・ 垂直方向	・ 25 ・	※完全 (全貫通型) ・	・ 耐火型 ・ 非耐火型	・ 有り ・ 無し		・ 水平方向	・ 25 ・	目地	内壁	外壁	目地材	・ シリング 材 (見え掛かりのみ) ・	・ シリング 材 (見え掛かりのみ) ・ シリング 材 (内外とも)	目地寸法 (mm)	・ スリット幅 20×深さ 10 ・					
	方向	幅 (mm)	タイプ	耐火性能	防水性能	備考																												
	・ 垂直方向	・ 25 ・	※完全 (全貫通型) ・	・ 耐火型 ・ 非耐火型	・ 有り ・ 無し																													
	・ 水平方向	・ 25 ・																																
	目地	内壁	外壁																															
	目地材	・ シリング 材 (見え掛かりのみ) ・	・ シリング 材 (見え掛かりのみ) ・ シリング 材 (内外とも)																															
	目地寸法 (mm)	・ スリット幅 20×深さ 10 ・																																
	20 止水板	形 式 ・ 差込式 ◎据置式 ・ 壁張り式 施工箇所 ・ 図示による ◎基礎コンクリート打継部																																
	21 エキスパンション ジョイント金物	建築非構造部材の耐震性能に係る特記事項による																																
	22 くつふきマット	<table><tr><th>材種</th><th>受け枠</th><th>備考</th></tr><tr><td>・ 塩化ビニル又はゴム製 ・ 硬質アルミニウム合金製 ・ ステンレス鋼 (SUS304) 製 ・</td><td>・ ステンレス鋼 (SUS304) ・ 硬質アルミニウム合金 ・</td><td></td></tr></table>						材種	受け枠	備考	・ 塩化ビニル又はゴム製 ・ 硬質アルミニウム合金製 ・ ステンレス鋼 (SUS304) 製 ・	・ ステンレス鋼 (SUS304) ・ 硬質アルミニウム合金 ・																						
材種	受け枠	備考																																
・ 塩化ビニル又はゴム製 ・ 硬質アルミニウム合金製 ・ ステンレス鋼 (SUS304) 製 ・	・ ステンレス鋼 (SUS304) ・ 硬質アルミニウム合金 ・																																	
23 流し台ユニット	<table><tr><th rowspan="2">材種</th><th colspan="3">寸法 (mm)</th><th rowspan="2">備考</th></tr><tr><th>W</th><th>D</th><th>H</th></tr><tr><td>・ 流し台</td><td>・ 1200 ・ 1500 ・ 1800</td><td>・ 550 ・ 600 ・ 650</td><td>・ 800 ・ 850</td><td>市販品 トラップ付き 天板ステンレス製</td></tr><tr><td>・ コンロ台</td><td>・ 600</td><td>・ 550 ・ 600 ・ 650</td><td>・ 620 ・ 670</td><td>市販品 バックガード有り 天板ステンレス製</td></tr><tr><td>・ つり戸棚</td><td>・ 1200 ・ 900</td><td>・ 450</td><td>・ 500 ・ 700</td><td>市販品</td></tr><tr><td>・ 水切り</td><td>・ 1200 ・ 900 ・ 600</td><td>—</td><td>—</td><td>市販品 ステンレス製 ・ 1 段式 ・</td></tr></table> 品質・性能 外観は、JIS A 4420「キッチン設備の構成材」の 4. 1 による。 構成材は、JIS A 4420 の 8 により試験を行ったとき、表 1 の規定による。 形状 ※図示による ・						材種	寸法 (mm)			備考	W	D	H	・ 流し台	・ 1200 ・ 1500 ・ 1800	・ 550 ・ 600 ・ 650	・ 800 ・ 850	市販品 トラップ付き 天板ステンレス製	・ コンロ台	・ 600	・ 550 ・ 600 ・ 650	・ 620 ・ 670	市販品 バックガード有り 天板ステンレス製	・ つり戸棚	・ 1200 ・ 900	・ 450	・ 500 ・ 700	市販品	・ 水切り	・ 1200 ・ 900 ・ 600	—	—	市販品 ステンレス製 ・ 1 段式 ・
材種	寸法 (mm)			備考																														
	W	D	H																															
・ 流し台	・ 1200 ・ 1500 ・ 1800	・ 550 ・ 600 ・ 650	・ 800 ・ 850	市販品 トラップ付き 天板ステンレス製																														
・ コンロ台	・ 600	・ 550 ・ 600 ・ 650	・ 620 ・ 670	市販品 バックガード有り 天板ステンレス製																														
・ つり戸棚	・ 1200 ・ 900	・ 450	・ 500 ・ 700	市販品																														
・ 水切り	・ 1200 ・ 900 ・ 600	—	—	市販品 ステンレス製 ・ 1 段式 ・																														

章	項 目	特 記 事 項																				
	24 旗竿	<table><tr><td>材種</td><td>形式</td><td>高さ (mm)</td><td>操作方法</td><td>固定方法</td><td>備考</td></tr><tr><td>・アルミニウム合金製 ・</td><td>・テーパー式 ・同一断面式</td><td></td><td>・ハンドル式 ・ロープ式</td><td>・埋込式 ・ベース式 ・バンド式</td><td></td></tr></table>						材種	形式	高さ (mm)	操作方法	固定方法	備考	・アルミニウム合金製 ・	・テーパー式 ・同一断面式		・ハンドル式 ・ロープ式	・埋込式 ・ベース式 ・バンド式				
	材種	形式	高さ (mm)	操作方法	固定方法	備考																
	・アルミニウム合金製 ・	・テーパー式 ・同一断面式		・ハンドル式 ・ロープ式	・埋込式 ・ベース式 ・バンド式																	
25 旗竿受金物	材種 ・ ステンレス製 (SUS304) ・																					
26	車止めさく	<table><tr><td colspan="2">形式</td><td>材種</td><td>柱径、肉厚 (mm)</td><td>高さ (mm)</td></tr><tr><td>◎上下式鎖内蔵式</td><td>・ 標準品 ◎スプリング式</td><td>◎ステンレス製 ・</td><td>・ 図示</td><td>・ 図示</td></tr><tr><td>・</td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr></table>				形式		材種	柱径、肉厚 (mm)	高さ (mm)	◎上下式鎖内蔵式	・ 標準品 ◎スプリング式	◎ステンレス製 ・	・ 図示	・ 図示	・						
		形式		材種	柱径、肉厚 (mm)	高さ (mm)																
		◎上下式鎖内蔵式	・ 標準品 ◎スプリング式	◎ステンレス製 ・	・ 図示	・ 図示																
・																						
27	フェンス	フェンスの種類 ・ ビニル被覆エキスパンドフェンス ◎樹脂塗装メッシュフェンス ・ 鋼管フェンス ・ アルミフェンス ・ 高さ ◎図示による ・																				
28	プレキャスト コンクリート	(20. 3. 3) (20. 3. 4) コンクリートの設計基準強度 ※水セメント比 55%以下、単位セメント量の最小値 300kg/m³を満足する調合強度 ・ 図示による 配筋 ※配筋を定めた計算書を監督員に提出する。 ・ 図示による 取付方法 ※図示による ・																				
29	間知石及びコンクリート間知ブロック積み	(20. 4. 2) (20. 4. 3) <table><tr><td colspan="2">材種</td><td>種類</td><td>質量区分</td><td>備考</td></tr><tr><td>・ 間知石</td><td>・ 花こう岩 ・ 凝灰岩</td><td>—</td><td>—</td><td></td></tr><tr><td>・ コンクリート 間知ブロック</td><td>—</td><td></td><td>・ A ・ B</td><td></td></tr></table>					材種		種類	質量区分	備考	・ 間知石	・ 花こう岩 ・ 凝灰岩	—	—		・ コンクリート 間知ブロック	—		・ A ・ B		
		材種		種類	質量区分	備考																
		・ 間知石	・ 花こう岩 ・ 凝灰岩	—	—																	
・ コンクリート 間知ブロック	—		・ A ・ B																			
積み方 ※谷積み ・ 布積み 目塗り ・ 図示による ・ 伸縮調整目地 材種 ・ 図示による ・ 厚さ ・ 図示による ・																						
30	鋼製書架及び物品棚	<table><tr><td>種類</td><td>規格等</td><td colspan="4">JIS による種類</td></tr><tr><td>・ 鋼製書架</td><td rowspan="2">JIS S 1039 の規格による</td><td>・ 1 種</td><td>・ 2 種</td><td>・ 3 種</td><td></td></tr><tr><td>・ 鋼製物品棚</td><td>・ 4 種</td><td>・ 5 種</td><td>・ 6 種 ・</td></tr></table>					種類	規格等	JIS による種類				・ 鋼製書架	JIS S 1039 の規格による	・ 1 種	・ 2 種	・ 3 種		・ 鋼製物品棚	・ 4 種	・ 5 種	・ 6 種 ・
		種類	規格等	JIS による種類																		
		・ 鋼製書架	JIS S 1039 の規格による	・ 1 種	・ 2 種	・ 3 種																
・ 鋼製物品棚	・ 4 種	・ 5 種		・ 6 種 ・																		

章	項 目	特 記 事 項																				
	31 屋内掲示板	枠の材質 ※アルミニウム製 表面の材質 ※塩ビ発泡シート張り																				
	32 洗面カウンター	材 種 ◎メラミン樹脂化粧板張り（心材：集成材） ・人工大理石 奥行き (mm) ・約 450 ◎約 600																				
	33 防煙垂れ壁	<div>・ 固定式</div> <table><tr><th>材質</th><th>厚さ (mm)</th><th>高さ (mm)</th><th>備考</th></tr><tr><td>※網入り磨板ガラス ・ 線入り磨板ガラス</td><td>※6.8 ・</td><td>※500 ・</td><td>アルミ製枠付き</td></tr></table> <div>・ 可動式</div> <table><tr><th>種類</th><th>材質</th><th>高さ (mm)</th><th>備考</th></tr><tr><td>・ 垂直降下式 （巻取り型）</td><td>※不燃布 （不燃認定品）</td><td>※500 ・ 800 ・</td><td>ガイドレール ※固定式（壁埋込型） ・ 可動式（天井収納型）</td></tr><tr><td>・ 回転降下式</td><td>鋼板製又はアルミ製</td><td>※500 ・ 800 ・</td><td>表面仕上げ ※天井材張り ・</td></tr></table> 降下機構 煙感知器連動及び手動開放装置（埋込型）	材質	厚さ (mm)	高さ (mm)	備考	※網入り磨板ガラス ・ 線入り磨板ガラス	※6.8 ・	※500 ・	アルミ製枠付き	種類	材質	高さ (mm)	備考	・ 垂直降下式 （巻取り型）	※不燃布 （不燃認定品）	※500 ・ 800 ・	ガイドレール ※固定式（壁埋込型） ・ 可動式（天井収納型）	・ 回転降下式	鋼板製又はアルミ製	※500 ・ 800 ・	表面仕上げ ※天井材張り ・
	材質	厚さ (mm)	高さ (mm)	備考																		
※網入り磨板ガラス ・ 線入り磨板ガラス	※6.8 ・	※500 ・	アルミ製枠付き																			
種類	材質	高さ (mm)	備考																			
・ 垂直降下式 （巻取り型）	※不燃布 （不燃認定品）	※500 ・ 800 ・	ガイドレール ※固定式（壁埋込型） ・ 可動式（天井収納型）																			
・ 回転降下式	鋼板製又はアルミ製	※500 ・ 800 ・	表面仕上げ ※天井材張り ・																			
34 屋外掲示板	照明器具 ※有り ◎無し 施 錠 ※有り ・無し 製造所 ・ 形 状 ・ステンレスケース 1800×900																					
	35 収納家具	材料のホルムアルデヒド放散量 ※F☆☆☆☆ 材質、形状、寸法 ※図示による																				

章	項 目	特 記 事 項																											
21 排水工事	1 屋外雨水排水	<div>(21. 2. 1) (21. 2. 2) (表 21. 2. 1) (表 21. 2. 2)</div> <div>材料</div> <table><tr><th>材種</th><th>種類・記号</th><th>形状</th><th>呼び径</th><th>備考</th></tr><tr><td>◎ 遠心力鉄筋コンクリート管</td><td>外圧管 (1 種)</td><td>◎B 形管 ・</td><td>※図示による ・</td><td></td></tr><tr><td rowspan="4">◎ 硬質ポリ塩化ビニル管</td><td>◎VP</td><td></td><td>※図示による ・</td><td></td></tr><tr><td>◎VU</td><td></td><td>※図示による ・</td><td></td></tr><tr><td>・RF-VP</td><td></td><td>※図示による ・</td><td></td></tr><tr><td>・RS-VU</td><td></td><td>※図示による ・</td><td></td></tr></table> <div>基床の厚さ及び種類 ◎図示による ・ 硬質ポリ塩化ビニル管の継手に用いる材料 ※接着剤 ・ゴム輪</div> <div>側塊の形状及び寸法 ◎図示による ・ 排水柵、ふたの種類 ◎図示による ・ 砂地業に用いる材料 ・シルト ・山砂 ・川砂 ・砕砂 砂利事業に用いる材料 ◎再生クラッシャラン ・切込砂利又は切込碎石</div> <div>・現場打ちの場合のコンクリート材料 種類 ※普通コンクリート ・ 設計基準強度 ※18N/mm² ・ スランプ ※15cm 又は 18cm ・ ・現場打ちの場合の鉄筋 種類の記号 ※SD295 ・ ・排水柵が現場打ちの場合の足掛け金物 材料 ※標準仕様書 21. 2. 2 (6) (オ) による (材質・ステンレス製 ・鋼製 ・合成樹脂被覆加工されたもの) ・</div> <div>凍上抑制層の厚さ ・図示による ・ 凍上抑制層に用いる材料 ・ (砂を用いる場合の砂の粒度試験 ・行う ・行わない)</div>	材種	種類・記号	形状	呼び径	備考	◎ 遠心力鉄筋コンクリート管	外圧管 (1 種)	◎B 形管 ・	※図示による ・		◎ 硬質ポリ塩化ビニル管	◎VP		※図示による ・		◎VU		※図示による ・		・RF-VP		※図示による ・		・RS-VU		※図示による ・	
	材種	種類・記号	形状	呼び径	備考																								
◎ 遠心力鉄筋コンクリート管	外圧管 (1 種)	◎B 形管 ・	※図示による ・																										
◎ 硬質ポリ塩化ビニル管	◎VP		※図示による ・																										
	◎VU		※図示による ・																										
	・RF-VP		※図示による ・																										
	・RS-VU		※図示による ・																										
2 鑄鉄製ふた	<div>(21. 2. 1)</div> <table><tr><th>名称</th><th>種類</th><th>適用荷重</th><th>鍵</th><th>備考</th></tr><tr><td>鑄鉄製マンホールふた</td><td>・水封形 ・簡易気密形 (パッキン式) ◎密閉形 (テーパ・パッキン式) ・中ふた付き密閉形 (テーパ・パッキン式) ・RS-VU</td><td>・T-2 用 ・T-6 用 ◎T-20 用 ・</td><td>・有り ・無し</td><td>左記以外の品質等は (公社) 空気調和衛生工学会 SHASE-S209 による</td></tr></table>	名称	種類	適用荷重	鍵	備考	鑄鉄製マンホールふた	・水封形 ・簡易気密形 (パッキン式) ◎密閉形 (テーパ・パッキン式) ・中ふた付き密閉形 (テーパ・パッキン式) ・RS-VU	・T-2 用 ・T-6 用 ◎T-20 用 ・	・有り ・無し	左記以外の品質等は (公社) 空気調和衛生工学会 SHASE-S209 による																		
名称	種類	適用荷重	鍵	備考																									
鑄鉄製マンホールふた	・水封形 ・簡易気密形 (パッキン式) ◎密閉形 (テーパ・パッキン式) ・中ふた付き密閉形 (テーパ・パッキン式) ・RS-VU	・T-2 用 ・T-6 用 ◎T-20 用 ・	・有り ・無し	左記以外の品質等は (公社) 空気調和衛生工学会 SHASE-S209 による																									

章	項 目	特 記 事 項																	
3	グレーチング	(21. 2. 1)																	
		◎鋼製																	
		<table><tr><th>形式</th><th>用途</th><th>適用荷重</th><th>メインバー ピッチ</th><th>亜鉛めっき (付着量)</th><th>上面 形状</th></tr><tr><td rowspan="2">◎受枠付 き、ボルト 固定 ・</td><td>◎溝ふた (横断用)</td><td>◎歩行用</td><td>◎細目 ・</td><td>・ ()</td><td>・ 凹凸形 ・</td></tr><tr><td>◎溝ふた (側溝用) ◎樹ふた用 ・U字溝用</td><td>・ T-2 用 ・ T-6 用 ・ T-14 用 ◎T-20 用</td><td>◎普通目 ◎細目</td><td>・ ()</td><td>・ 平形 ・</td></tr></table>	形式	用途	適用荷重	メインバー ピッチ	亜鉛めっき (付着量)	上面 形状	◎受枠付 き、ボルト 固定 ・	◎溝ふた (横断用)	◎歩行用	◎細目 ・	・ ()	・ 凹凸形 ・	◎溝ふた (側溝用) ◎樹ふた用 ・U字溝用	・ T-2 用 ・ T-6 用 ・ T-14 用 ◎T-20 用	◎普通目 ◎細目	・ ()	・ 平形 ・
		形式	用途	適用荷重	メインバー ピッチ	亜鉛めっき (付着量)	上面 形状												
		◎受枠付 き、ボルト 固定 ・	◎溝ふた (横断用)	◎歩行用	◎細目 ・	・ ()	・ 凹凸形 ・												
			◎溝ふた (側溝用) ◎樹ふた用 ・U字溝用	・ T-2 用 ・ T-6 用 ・ T-14 用 ◎T-20 用	◎普通目 ◎細目	・ ()	・ 平形 ・												
		◎ステンレス製																	
		<table><tr><th>形式</th><th>用途</th><th>適用荷重</th><th>メインバー ピッチ</th><th>亜鉛めっき (付着量)</th><th>上面 形状</th></tr><tr><td rowspan="2">◎受枠付 き、ボルト 固定 ・</td><td>◎溝ふた (横断用)</td><td>◎歩行用</td><td>—</td><td>—</td><td>◎凹凸形 ・</td></tr><tr><td>・ 溝ふた (側溝用) ・ 樹ふた用 ・ U字溝用</td><td>・ T-2 用 ・ T-6 用 ・ T-14 用 ・ T-20 用</td><td>—</td><td>—</td><td>・ 平形 ・</td></tr></table>	形式	用途	適用荷重	メインバー ピッチ	亜鉛めっき (付着量)	上面 形状	◎受枠付 き、ボルト 固定 ・	◎溝ふた (横断用)	◎歩行用	—	—	◎凹凸形 ・	・ 溝ふた (側溝用) ・ 樹ふた用 ・ U字溝用	・ T-2 用 ・ T-6 用 ・ T-14 用 ・ T-20 用	—	—	・ 平形 ・
		形式	用途	適用荷重	メインバー ピッチ	亜鉛めっき (付着量)	上面 形状												
		◎受枠付 き、ボルト 固定 ・	◎溝ふた (横断用)	◎歩行用	—	—	◎凹凸形 ・												
・ 溝ふた (側溝用) ・ 樹ふた用 ・ U字溝用	・ T-2 用 ・ T-6 用 ・ T-14 用 ・ T-20 用		—	—	・ 平形 ・														
(品質・性能及び荷重試験方法は建築材料等品質性能表による)																			
4	街きよ、縁石、側溝	(21. 3. 1) (21. 3. 2) (表 21. 3. 1)																	
		街きよ、縁石、側溝																	
		<table><tr><th>種類</th><th>形状、寸法</th></tr><tr><td>◎縁石</td><td rowspan="5">※図示 ・</td></tr><tr><td>・ L 形側溝</td></tr><tr><td>◎U 形側溝</td></tr><tr><td>◎U 形側溝ふた</td></tr><tr><td>・</td></tr></table>	種類	形状、寸法	◎縁石	※図示 ・	・ L 形側溝	◎U 形側溝	◎U 形側溝ふた	・									
		種類	形状、寸法																
		◎縁石	※図示 ・																
		・ L 形側溝																	
		◎U 形側溝																	
◎U 形側溝ふた																			
・																			
砂地業の材料 ・シルト ・山砂 ・川砂 ・砕砂 ◎図示 砂利地業に用いる材料 ・再生クラッシュラン ・切込砂利 ・切込碎石 ◎図示 砂利地業の厚さ (mm) ※100 ◎図示による																			
◎現場打ちの場合のコンサート 種類 ※普通コンクリート ・ 設計基準強度 ※18N/mm ² ・ スランプ ※15cm 又は 18cm ・																			
◎現場打ちの場合の鉄筋 種類の記号 ※SD295 ・																			
凍上抑制層に用いる材料 ・ (砂を用いる場合の砂の粒度試験 ・行う ・行わない)																			
5	埋戻し土	(21. 2. 1) (表 3. 2. 1)																	
		※B 種 ・																	

章	項 目	特 記 事 項																																																											
22 舗装工事	1 路床	(22. 2. 2) (22. 2. 3) (22. 2. 5) (表 22. 2. 1)																																																											
		<p>路床の材料</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>種別</th><th>材料</th><th>厚さ (mm)</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>◎盛土</td><td>・ A 種 ・ B 種 ・ C 種 ・ D 種 ・ 建設汚泥から再生した処理土</td><td>◎図示による ・</td></tr> <tr> <td>・ 凍上抑制層</td><td>・ 再生クツシャラン ・ クツシャラン ・ 切込み砂利 ・ 砂 (標準仕様書 表 21. 2. 2 による) ・</td><td>・ 図示による ・</td></tr> <tr> <td>◎フィルター層</td><td>・ 砂 (標準仕様書 表 21. 2. 3 (3) による) ・</td><td>◎図示による ・</td></tr> </tbody> </table> <p>凍結抑制層に用いる材料に砂を使用する場合の粒度試験</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 行う ・ 行わない <p>◎路床安定処理</p> <p>安定処理の方法</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 置き換え工法 <p>◎安定処理工法</p> <p>路床安定化処理用添加材料</p> <table border="0"> <tr> <td>種類</td><td>・ 普通ポルトランドセメント</td><td>・ 高炉セメント B 種</td></tr> <tr> <td></td><td>・ フライアッシュセメント B 種</td><td></td></tr> <tr> <td></td><td>・ 生石灰 (・ 特号 ・ 1 号)</td><td>・ 消石灰 (・ 特号 ・ 1 号)</td></tr> <tr> <td></td><td>◎固化剤 (・ セメント系</td><td>・ 石灰系)</td></tr> <tr> <td>添加量</td><td>・</td><td>kg/ m³ (目標 CBR ※3 以上 ◎6 以上)</td></tr> </table> <p>・ 路床置換処理</p> <table border="0"> <tr> <td>置換厚さ</td><td>※図示による</td><td>・</td></tr> <tr> <td>置換材料の種類、品質</td><td>※図示による</td><td>・</td></tr> </table> <p>・ ジオテキスタイル</p> <table border="0"> <tr> <td>単位面積質量</td><td>・ 60g/m²以上</td><td>・</td></tr> <tr> <td>厚さ (mm)</td><td>・ 0. 5～1. 0</td><td>・</td></tr> <tr> <td>引張強さ</td><td>・ 98N/5cm (10kgf/5cm) 以上</td><td>・</td></tr> <tr> <td>透水係数</td><td>・ 1. 5 × 10⁻¹ cm/sec 以上</td><td>・</td></tr> </table> <p>試験</p> <table border="0"> <tr> <td>路床土の支持力比 (CBR) 試験</td><td>・ 行う (箇所)</td><td>・ 行わない</td></tr> <tr> <td>現場 CBR 試験</td><td>◎行う (箇所)</td><td>・ 行わない</td></tr> <tr> <td>安定処理土の CBR 試験</td><td>◎行う</td><td>・ 行わない</td></tr> <tr> <td>路床締固め度の試験</td><td>◎行う (箇所)</td><td>・ 行わない</td></tr> <tr> <td>六価クロム溶出試験</td><td>・ 行う</td><td>・ 行わない</td></tr> </table>	種別	材料	厚さ (mm)	◎盛土	・ A 種 ・ B 種 ・ C 種 ・ D 種 ・ 建設汚泥から再生した処理土	◎図示による ・	・ 凍上抑制層	・ 再生クツシャラン ・ クツシャラン ・ 切込み砂利 ・ 砂 (標準仕様書 表 21. 2. 2 による) ・	・ 図示による ・	◎フィルター層	・ 砂 (標準仕様書 表 21. 2. 3 (3) による) ・	◎図示による ・	種類	・ 普通ポルトランドセメント	・ 高炉セメント B 種		・ フライアッシュセメント B 種			・ 生石灰 (・ 特号 ・ 1 号)	・ 消石灰 (・ 特号 ・ 1 号)		◎固化剤 (・ セメント系	・ 石灰系)	添加量	・	kg/ m ³ (目標 CBR ※3 以上 ◎6 以上)	置換厚さ	※図示による	・	置換材料の種類、品質	※図示による	・	単位面積質量	・ 60g/m ² 以上	・	厚さ (mm)	・ 0. 5～1. 0	・	引張強さ	・ 98N/5cm (10kgf/5cm) 以上	・	透水係数	・ 1. 5 × 10 ⁻¹ cm/sec 以上	・	路床土の支持力比 (CBR) 試験	・ 行う (箇所)	・ 行わない	現場 CBR 試験	◎行う (箇所)	・ 行わない	安定処理土の CBR 試験	◎行う	・ 行わない	路床締固め度の試験	◎行う (箇所)	・ 行わない	六価クロム溶出試験	・ 行う
種別	材料	厚さ (mm)																																																											
◎盛土	・ A 種 ・ B 種 ・ C 種 ・ D 種 ・ 建設汚泥から再生した処理土	◎図示による ・																																																											
・ 凍上抑制層	・ 再生クツシャラン ・ クツシャラン ・ 切込み砂利 ・ 砂 (標準仕様書 表 21. 2. 2 による) ・	・ 図示による ・																																																											
◎フィルター層	・ 砂 (標準仕様書 表 21. 2. 3 (3) による) ・	◎図示による ・																																																											
種類	・ 普通ポルトランドセメント	・ 高炉セメント B 種																																																											
	・ フライアッシュセメント B 種																																																												
	・ 生石灰 (・ 特号 ・ 1 号)	・ 消石灰 (・ 特号 ・ 1 号)																																																											
	◎固化剤 (・ セメント系	・ 石灰系)																																																											
添加量	・	kg/ m ³ (目標 CBR ※3 以上 ◎6 以上)																																																											
置換厚さ	※図示による	・																																																											
置換材料の種類、品質	※図示による	・																																																											
単位面積質量	・ 60g/m ² 以上	・																																																											
厚さ (mm)	・ 0. 5～1. 0	・																																																											
引張強さ	・ 98N/5cm (10kgf/5cm) 以上	・																																																											
透水係数	・ 1. 5 × 10 ⁻¹ cm/sec 以上	・																																																											
路床土の支持力比 (CBR) 試験	・ 行う (箇所)	・ 行わない																																																											
現場 CBR 試験	◎行う (箇所)	・ 行わない																																																											
安定処理土の CBR 試験	◎行う	・ 行わない																																																											
路床締固め度の試験	◎行う (箇所)	・ 行わない																																																											
六価クロム溶出試験	・ 行う	・ 行わない																																																											

章	項 目	特 記 事 項												
	2 路盤	<div>(22. 3. 2) (22. 3. 3) (表 22. 3. 1)</div> <div>路盤の構成及び厚さ ※図示による ・</div> <div>路盤材料（標準仕様書表 22. 3. 1 による種別）</div> <table><tr><th colspan="2">種別</th></tr><tr><td rowspan="2">砕石</td><td>◎クラッシャラン</td></tr><tr><td>◎粒度調整砕石</td></tr><tr><td rowspan="2">再生材</td><td>◎再生クラッシャラン</td></tr><tr><td>◎再生粒度調整砕石</td></tr><tr><td rowspan="3">鉄鋼スラグ</td><td>・ クラッシャラン鉄鋼スラグ</td></tr><tr><td>・ 粒度調整鉄鋼スラグ</td></tr><tr><td>・ 水硬性粒度調整鉄鋼スラグ</td></tr></table>	種別		砕石	◎クラッシャラン	◎粒度調整砕石	再生材	◎再生クラッシャラン	◎再生粒度調整砕石	鉄鋼スラグ	・ クラッシャラン鉄鋼スラグ	・ 粒度調整鉄鋼スラグ	・ 水硬性粒度調整鉄鋼スラグ
	種別													
砕石	◎クラッシャラン													
	◎粒度調整砕石													
再生材	◎再生クラッシャラン													
	◎再生粒度調整砕石													
鉄鋼スラグ	・ クラッシャラン鉄鋼スラグ													
	・ 粒度調整鉄鋼スラグ													
	・ 水硬性粒度調整鉄鋼スラグ													
3 アスファルト舗装	<div>(22. 4. 2～22. 4. 6) (表 22. 4. 4)</div> <div>アスファルト舗装の構成及び厚さ ※図示による ・</div> <div>舗装の平坦性 ※通行の支障となる水たまりを生じない程度 ・</div> <div>材料</div> <div>アスファルト ◎再生アスファルト</div> <div>(標準仕様書表 22. 4. 1 による種類： ・ 60～80 ・ 80～100)</div> <div>・ ストレートアスファルト</div> <div>骨材 ◎道路用砕石</div> <div>・ アスファルトコンクリート再生骨材</div> <div>シーコート用の乳剤 ・ PK-1 ・ PK-2</div> <div>加熱アスファルト混合物等の種類（配合は標準仕様書 表 22. 4. 4 による）</div> <div>・ 密粒度アスファルト混合物（13）</div> <div>・ 細粒度アスファルト混合物（13）</div> <div>・ 密粒度アスファルト混合物（13F）</div> <div>・ 粗粒度アスファルト混合物（20）</div> <div>試験</div> <div>アスファルト混合物等の抽出試験 ◎行う ・ 行わない</div> <div>加熱混合物製造施設</div> <div>※茨城県指定のアスファルトコンクリート合材混合所</div>													

章	項 目	特 記 事 項											
4	コンクリート舗装	(22. 5. 2～22. 5. 4) (22. 5. 6) (表 22. 5. 1) (表 22. 5. 3)											
		コンクリート舗装の構成及び厚さ											
		<table><tr><th>舗装の種類</th><th>部位</th><th>構成</th><th>厚さ (mm)</th></tr><tr><td rowspan="2">コンクリート舗装</td><td>◎車路、駐車場</td><td>※図示による</td><td>◎図示による</td></tr><tr><td>・歩行者用通路</td><td>※図示による</td><td>※ 70</td></tr></table>	舗装の種類	部位	構成	厚さ (mm)	コンクリート舗装	◎車路、駐車場	※図示による	◎図示による	・歩行者用通路	※図示による	※ 70
舗装の種類	部位	構成	厚さ (mm)										
コンクリート舗装	◎車路、駐車場	※図示による	◎図示による										
	・歩行者用通路	※図示による	※ 70										
		材料											
		コンクリート											
		※普通コンクリート、標準仕様書 表 22. 5. 1 による											
		・以下による											
		コンクリートの種類 ()											
		設計基準強度 (N/mm ²) ()											
		所定のスランプ (cm) ※8											
		粗骨材の最大寸法 (mm) ()											
		早強ポルトランドセメント ・使用する ・使用しない											
		注入目地材料 ※低弾性タイプ ・高弾性タイプ											
		目地											
		※標準仕様書 表 22. 5. 3 及び図 22. 5. 1 による											
		・以下による											
		種類 ()											
		間隔 (m程度ごと)											
		構造 ・図示による											
		舗装の平たん性											
		※通行の支障となる水たまりを生じない程度											
		・											
5	カラー舗装	(22. 6. 2～22. 6. 4)											
		◎加熱系カラー舗装											
		構成及び厚さ ◎図示による											
		加熱系混合物の結合材											
		・アスファルト混合物											
		・石油樹脂系混合物 (顔料の添加量： %)											
		添加材											
		着色骨材 ()											
		自然石 ()											
		・常温系カラー舗装											
		工法 ・ニート工法 ・塗布工法											
		着色部の下部 ・アスファルト舗装 ・コンクリート舗装											
		舗装の平たん性											
		※通行の支障となる水たまりを生じない程度											
		・											

章	項 目	特 記 事 項
6	透水性アスファルト舗装	(22. 7. 2) (22. 7. 3) (22. 7. 6) 舗装の構成 ※図示 材料 骨材 ・ 道路用碎石 ・ アスファルトコンクリート再生骨材 (標準仕様書表 22. 4. 1 による種類 : ・ 60～80 ・ 80～100) 舗装の平坦性 ※著しい不陸がないもの ・ 試験 開粒度アスファルト混合物等の抽出試験 ・ 行う ・ 行わない

章	項 目	特 記 事 項																				
		<p>半たわみ性舗装用アスファルト混合物のマーシャル安定度試験に対する基準値</p> <table><tr><th>項目</th><th>基準値</th></tr><tr><td>密度 (g/cm3)</td><td>1.90 以上</td></tr><tr><td>安定度 (kN)</td><td>2.94 以上</td></tr><tr><td>フロー値 (1/100cm)</td><td>20～40</td></tr><tr><td>空隙率 (%)</td><td>20～28</td></tr><tr><td>突固め回数 (回)</td><td>50</td></tr></table> <p>施工</p> <p>アスファルト混合物等の施工は、標準仕様書 22.4.5 による。</p> <p>浸透用セメントミルクの施工は、(1)から(5)による。</p> <p>(1) 浸透用セメントミルクの製造は、一般に移動式ミキサによって行うが、工事規模が大きい場合には専用の移動式や固定式の混合プラントを用いることもある。</p> <p>(2) 浸透用セメントミルクの施工は、一般に舗装体表面の温度が50℃程度以下になってから行う。その場合、舗装体にごみ、泥、水などが残っていないことを確認する。浸透作業は、一般に振動ローラ等により行う。</p> <p>(3) セメントミルクが舗装表面に残っていると、路面のすべり抵抗値を低下させることがあるので、舗装表面の骨材の凹凸が現れる程度にセメントミルクをゴムレーキ等で除去する。特にすべり止め対策を必要とするところは、珪砂の使用及び余剰セメントミルクのよりいっそうの除去等、材料や施工法等で対処するか、場合によっては施工後ショットブラスト等で表面を粗くすることが必要である。</p> <p>(4) 交通開放までの一般的な養生期間は、下表に示すとおりである。</p> <table><tr><th>セメントミルクの種類</th><th>養生期間</th></tr><tr><td>普通タイプ</td><td>約3日</td></tr><tr><td>早強タイプ</td><td>約1日</td></tr><tr><td>超速硬タイプ</td><td>約3時間</td></tr></table> <p>(5) 浸透用セメントミルクを注入する前に交通開放すると、骨材の剥奪や飛散、またはごみ、泥等による汚れが生じることがあるので、基本的には注入前に交通開放を行わないようにする。</p> <p>締固め度 標準仕様書 22.4.2(2)による</p> <p>舗装厚さの許容差 ※標準仕様書 22.4.2(3)による</p> <p>舗装の平たん性 ※通行の支障となる水たまりを生じない程度</p>	項目	基準値	密度 (g/cm3)	1.90 以上	安定度 (kN)	2.94 以上	フロー値 (1/100cm)	20～40	空隙率 (%)	20～28	突固め回数 (回)	50	セメントミルクの種類	養生期間	普通タイプ	約3日	早強タイプ	約1日	超速硬タイプ	約3時間
項目	基準値																					
密度 (g/cm3)	1.90 以上																					
安定度 (kN)	2.94 以上																					
フロー値 (1/100cm)	20～40																					
空隙率 (%)	20～28																					
突固め回数 (回)	50																					
セメントミルクの種類	養生期間																					
普通タイプ	約3日																					
早強タイプ	約1日																					
超速硬タイプ	約3時間																					
8	弾性舗装	<p>(22.4.2～22.4.6) (表 22.4.2～22.4.6)</p> <p>弾性舗装（歩行者用通路）の構成及び厚さ ※図示による</p> <table><tr><th>区分</th><th>種類</th><th>厚さ(mm)</th></tr><tr><td>表層</td><td>弾性舗装材</td><td>15～20</td></tr><tr><td>基層</td><td>再生密粒度アスファルト混合物(13)</td><td>30</td></tr></table> <p>加熱アスファルト混合物は、アスファルト舗装による</p>	区分	種類	厚さ(mm)	表層	弾性舗装材	15～20	基層	再生密粒度アスファルト混合物(13)	30											
区分	種類	厚さ(mm)																				
表層	弾性舗装材	15～20																				
基層	再生密粒度アスファルト混合物(13)	30																				
9	ブロック系舗装	<p>(22.8.2) (22.8.3)</p> <p>◎コンクリート平板舗装</p> <table><tr><th>種類</th><th>寸法(mm)</th><th>厚さ(mm)</th><th>目地材</th><th>備考</th></tr><tr><td>◎普通平板(N) ・透水平板(P) ・保水性平板(M)</td><td>・300角 ・</td><td>※60 ・</td><td>※砂 ・モルタル</td><td>表面加工 ・研ぎ出し ・洗い出し ・たたき出し</td></tr></table> <p>クッション材 ※砂 ・空練りモルタル</p> <p>普通平板は再生材料を用いた舗装用ブロック、透水平板は透水性コンクリートとする。</p> <p>仕上り面の平たん性 ※歩行に支障となる段差がないものとし、コンクリート平板間の段差は3mm以内とする。</p>	種類	寸法(mm)	厚さ(mm)	目地材	備考	◎普通平板(N) ・透水平板(P) ・保水性平板(M)	・300角 ・	※60 ・	※砂 ・モルタル	表面加工 ・研ぎ出し ・洗い出し ・たたき出し										
種類	寸法(mm)	厚さ(mm)	目地材	備考																		
◎普通平板(N) ・透水平板(P) ・保水性平板(M)	・300角 ・	※60 ・	※砂 ・モルタル	表面加工 ・研ぎ出し ・洗い出し ・たたき出し																		

章	項 目	特 記 事 項																																																	
		<div>・インターロッキングブロック舗装</div> <table><tr><th>種類</th><th>部位</th><th>厚さ (mm)</th><th>形状 寸法</th><th>横断面 勾配 (%)</th><th>曲げ強度 (N/mm²)</th><th>備考</th></tr><tr><td>※普通ブロック (N) ・透水性ブロック (P) ・保水性ブロック (M)</td><td>車路 ・駐車場</td><td>80</td><td>・図示による ・</td><td>2</td><td>5.0 以上</td><td>表面 加工</td></tr><tr><td>※普通ブロック (N) ・透水性ブロック (P) ・保水性ブロック (M)</td><td>歩行者用 通路</td><td>60</td><td>・図示による ・</td><td>1.5～2</td><td>3.0 以上</td><td></td></tr></table> <div>クッション材 ※砂 ・空練りモルタル 普通ブロックは再生材料を用いた舗装用ブロック、透水性ブロックは透水性コンクリートとする。 仕上り面の平たん性 ※歩行に支障となる段差がないものとし、インターロッキングブロック間の段差は 3mm 以内とする。</div> <div>・</div> <table><tr><th>区分</th><th>部位</th><th>厚さ (mm)</th><th>種類</th></tr><tr><td rowspan="2">敷砂層</td><td>・ 車路、駐車場</td><td>20</td><td rowspan="2">砂</td></tr><tr><td>・ 歩行者用通路</td><td>30</td></tr><tr><td>フィルター層</td><td></td><td>100</td><td>川砂、海砂又は良質な山砂 (75 μm ふるい通過量 6%以下)</td></tr></table> <div>・不織布（ジオテキスタイル） 敷設位置 ※図示による ・敷砂層と路盤の間に敷設 ・フィルター層と路床の間に敷設 単位面積質量 ・ 60g/m²以上 ・ 厚さ（mm） ・ 0.5～1.0 ・ 引張強さ ・ 98N/5cm（10kgf/5cm） 以上 ・ 透水係数 ・ 1.5 × 10⁻¹cm/sec 以上 ・ 舗装の割付（車路、駐車場） ・ ヘリンボンボンド（45° ） ・ ヘリンボンボンド（90° ） 仕上り面の平たん性 ※歩行に支障となる段差がないものとし、ブロック間の段差は 3mm 以内とする。</div> <div>・</div> <div>・舗石舗装（歩行者用通路）</div> <table><tr><th>種類</th><th>形状・寸法 (mm)</th><th>厚さ (mm)</th><th>張り方</th><th>基層</th><th>基層の 厚さ (mm)</th></tr><tr><td rowspan="2">・ 花こう岩 ・</td><td rowspan="2">・ 割石 ・ 図示による ・</td><td rowspan="2"></td><td rowspan="2">・ うろこ張り ・</td><td>・ コンクリート版</td><td>※70 ・</td></tr><tr><td>・ アスファルト混合物</td><td>※50 ・</td></tr></table> <div>クッション材 ※砂 ・空練りモルタル 仕上面の平たん性 ※歩行に支障となる段差がないものとし、舗石間の段差は 3mm 以内とする。</div> <div>・</div>	種類	部位	厚さ (mm)	形状 寸法	横断面 勾配 (%)	曲げ強度 (N/mm ²)	備考	※普通ブロック (N) ・透水性ブロック (P) ・保水性ブロック (M)	車路 ・駐車場	80	・図示による ・	2	5.0 以上	表面 加工	※普通ブロック (N) ・透水性ブロック (P) ・保水性ブロック (M)	歩行者用 通路	60	・図示による ・	1.5～2	3.0 以上		区分	部位	厚さ (mm)	種類	敷砂層	・ 車路、駐車場	20	砂	・ 歩行者用通路	30	フィルター層		100	川砂、海砂又は良質な山砂 (75 μm ふるい通過量 6%以下)	種類	形状・寸法 (mm)	厚さ (mm)	張り方	基層	基層の 厚さ (mm)	・ 花こう岩 ・	・ 割石 ・ 図示による ・		・ うろこ張り ・	・ コンクリート版	※70 ・	・ アスファルト混合物	※50 ・
種類	部位	厚さ (mm)	形状 寸法	横断面 勾配 (%)	曲げ強度 (N/mm ²)	備考																																													
※普通ブロック (N) ・透水性ブロック (P) ・保水性ブロック (M)	車路 ・駐車場	80	・図示による ・	2	5.0 以上	表面 加工																																													
※普通ブロック (N) ・透水性ブロック (P) ・保水性ブロック (M)	歩行者用 通路	60	・図示による ・	1.5～2	3.0 以上																																														
区分	部位	厚さ (mm)	種類																																																
敷砂層	・ 車路、駐車場	20	砂																																																
	・ 歩行者用通路	30																																																	
フィルター層		100	川砂、海砂又は良質な山砂 (75 μm ふるい通過量 6%以下)																																																
種類	形状・寸法 (mm)	厚さ (mm)	張り方	基層	基層の 厚さ (mm)																																														
・ 花こう岩 ・	・ 割石 ・ 図示による ・		・ うろこ張り ・	・ コンクリート版	※70 ・																																														
				・ アスファルト混合物	※50 ・																																														
10	砂利敷き	(22.9.2) 種別 ◎A 種（施工範囲：◎図示による ・ 通路 ・ ） ◎B 種（施工範囲：◎図示による ・ 建物周囲他 ・ ）																																																	
11	路面標示用塗料	路面標示用塗料は JIS K 5665 による <table><tr><th>種類</th><th>施工</th><th>適用</th><th>色</th><th>幅 (mm)</th><th>塗布厚さ (mm)</th></tr><tr><td>・ 1 種</td><td>常温</td><td rowspan="2">液状</td><td>◎白</td><td>・ 150</td><td>◎1.0</td></tr><tr><td>・ 2 種</td><td>加熱</td><td>◎黄</td><td>・ 100</td><td>・</td></tr><tr><td>※3 種 1 号</td><td>溶融</td><td>粉体状</td><td></td><td>◎図示</td><td></td></tr></table>	種類	施工	適用	色	幅 (mm)	塗布厚さ (mm)	・ 1 種	常温	液状	◎白	・ 150	◎1.0	・ 2 種	加熱	◎黄	・ 100	・	※3 種 1 号	溶融	粉体状		◎図示																											
種類	施工	適用	色	幅 (mm)	塗布厚さ (mm)																																														
・ 1 種	常温	液状	◎白	・ 150	◎1.0																																														
・ 2 種	加熱		◎黄	・ 100	・																																														
※3 種 1 号	溶融	粉体状		◎図示																																															

章	項 目	特 記 事 項															
23 植栽及び屋上緑化工事	1 植栽地の確認等	(23. 1. 3) 土壌の水素イオン濃度指数 (pH) 試験 ・ 行う ・ 行わない 電気伝導度 (EC) の試験 ・ 行う ・ 行わない															
	2 植栽基盤の整備	(23. 2. 2) (23. 2. 4) 樹木の植栽基盤の整備 ・ 適用する ・ 適用しない <table><tr><th>植栽</th><th>工法</th><th>有効土層の厚さ (cm)</th><th>整備範囲</th><th>土壌改良材</th></tr><tr><td>◎樹木</td><td>※A 種 ・ B 種 ・ C 種 ・ D 種</td><td>樹高 12m 以上 (※100 ・ 120 ・ 150) 樹高 7m 以上～12m 未満 (※80 ・ 100) 樹高 3m 以上～7m 未満 (※60 ・ 80) 樹高 3m 未満 (※50 ・ 60)</td><td>・ 葉張り部分 ・ 植栽部分 ・ 図示による ・</td><td>・ 適用する ・ 適用しない</td></tr><tr><td>※芝、地被類</td><td>※B 種 ・</td><td>※20 ・</td><td>・ 植栽部分 ・ 図示 ・</td><td>・ 適用する ・ 適用しない</td></tr></table> 植栽基盤の排水整備 ・ 設ける (※図示による ・) ・ 設けない	植栽	工法	有効土層の厚さ (cm)	整備範囲	土壌改良材	◎樹木	※A 種 ・ B 種 ・ C 種 ・ D 種	樹高 12m 以上 (※100 ・ 120 ・ 150) 樹高 7m 以上～12m 未満 (※80 ・ 100) 樹高 3m 以上～7m 未満 (※60 ・ 80) 樹高 3m 未満 (※50 ・ 60)	・ 葉張り部分 ・ 植栽部分 ・ 図示による ・	・ 適用する ・ 適用しない	※芝、地被類	※B 種 ・	※20 ・	・ 植栽部分 ・ 図示 ・	・ 適用する ・ 適用しない
	植栽	工法	有効土層の厚さ (cm)	整備範囲	土壌改良材												
	◎樹木	※A 種 ・ B 種 ・ C 種 ・ D 種	樹高 12m 以上 (※100 ・ 120 ・ 150) 樹高 7m 以上～12m 未満 (※80 ・ 100) 樹高 3m 以上～7m 未満 (※60 ・ 80) 樹高 3m 未満 (※50 ・ 60)	・ 葉張り部分 ・ 植栽部分 ・ 図示による ・	・ 適用する ・ 適用しない												
	※芝、地被類	※B 種 ・	※20 ・	・ 植栽部分 ・ 図示 ・	・ 適用する ・ 適用しない												
	3 植込み用土	(23. 2. 3) ・ 現場発生土の良質土 ◎客土															
4 土壌改良材	(23. 2. 3) 種別及び指定量等 ・ バーク堆肥 施工箇所 ※植栽範囲 ・ 図示による 使用量 植栽基盤面積 1 m ² あたり (・ 50L ・) ・ 汚泥発酵肥料 (下水汚泥コンポスト) 施工箇所 ※植栽範囲 ・ 図示による 使用量 植栽基盤面積 1 m ² あたり (・ 10L ・) 材料 「金属等を含む産業廃棄物に係る判定基準を定める省令」の別表第 1 の基準に適合する原料を使用したもので、植害試験の調査の結果、害が認められないものとする																
5 樹木	(23. 3. 2) 樹種、寸法、株立数等 ※図示による ・																
6 支柱	(23. 3. 2) (23. 3. 3) 支柱材 ※丸太 (間伐材) ・ 真竹 防腐処理方法 ※加圧式防腐処理丸太材 ・ 形式 ・ 図示による ・																
7 幹巻き用材料	(23. 3. 2) 材料 ※幹巻き用テープ ・ わら及びこも																
8 芝	(23. 4. 2) (23. 4. 3) 種類 ※コウライシバ ・ ノシバ ◎図示 芝張りの工法 平地 ※目地張り ・ べた張り 法面 ※べた張り ・ 目地張り																

章	項 目	特 記 事 項												
	9 吹付けは種	(23. 4. 2) <table><tr><th>種子の種類</th><th>発芽率</th><th>種子の量(g/m²)</th><th>備考</th></tr><tr><td>※洋芝類（採取後 2 年以内）</td><td>※発芽率 80%以上</td><td></td><td></td></tr><tr><td>・</td><td></td><td></td><td></td></tr></table>	種子の種類	発芽率	種子の量(g/m ²)	備考	※洋芝類（採取後 2 年以内）	※発芽率 80%以上			・			
	種子の種類	発芽率	種子の量(g/m ²)	備考										
	※洋芝類（採取後 2 年以内）	※発芽率 80%以上												
	・													
10 地被類	(23. 4. 2) <table><tr><th>樹種</th><th>コンテナ径</th><th>単位面積当たりのコンテナ数</th><th>芽立数</th></tr><tr><td>・</td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>・</td><td></td><td></td><td></td></tr></table>	樹種	コンテナ径	単位面積当たりのコンテナ数	芽立数	・				・				
樹種	コンテナ径	単位面積当たりのコンテナ数	芽立数											
・														
・														
11 新植、芝等の枯補償、移植樹木の枯損処置	(23. 3. 4) (23. 3. 6) (23. 4. 7) (23. 5. 5) 新植樹木（芝張り、吹付けは種及び地被類を含む）の枯補償の期間 ※引渡しの日から 1 年 ・無し ・ 移植樹木の枯損処置を行う期間 ※引渡しの日から 1 年 ・無し ・													
12 屋上緑化	(23. 5. 2～23. 5. 4) 植栽基盤及び材料 ・屋上緑化システム 土壌層の厚さ ・図示 ・ 排水層 ・軽量骨材（層の厚さ： ） ・板状成型品 植込み用土 ※改良土 ・人口軽量土 樹木、芝及び地被類の樹種並びに種類、寸法、株立数等 ※図示による ・ 見切り材、舗装材、排水孔、マルチング材等 ※図示による ・ (品質・性能及び試験方法は建築材料等品質性能表による) 支柱 ・設置する ・設置しない 形式 ・図示による ・ かん水装置 ・設置する ・設置しない 種類 ・図示による ・ 工法 「屋根ふき材及び屋外に面する帳壁の風圧に対する構造耐力上の安全性を確かめるための構造計算の基準を定める件」（平成 12 年 5 月 31 日 建設省告示第 1458 号）に基づく風圧力に対応した工法 ・図示による ・													
24 その他	1 軽微な変更の対応（あらかじめ検討）	施工の関係上やむを得ず発生する可能性の高い変更事項への対応方法について、あらかじめの検討を行っている部分 (本検討は、計画通知の変更を要しない範囲及び対応方法を定めるものであり、品質管理上の施工誤差を許容するものではない。) ◎杭の芯ずれを考慮した検討 あらかじめ検討の範囲及び対応方法 ※図示 ◎範囲（±100mm） ◎対応方法 監理者との協議による ・杭の長さの変更を見込んだ検討 あらかじめ検討の範囲及び対応方法 ※図示 ・梁貫通孔の大きさと位置の変更を見込んだ検討 あらかじめ検討の範囲及び対応方法 ※図示												

特記仕様書（昇降機設備工事）

I 工事概要

1. 工事名 坂東消防署庁舎建設工事
2. 工事場所 茨城県坂東市岩井字西ノ台 267 番 1 外 10 筆（飛び地 3 筆含）
3. 敷地面積 12,899.53 m²（飛び地 330.46 m²含）
4. 工事範囲 図示のとおり
5. 建物概要 意匠図による
該当する建物：庁舎棟

建物名称	庁舎棟	第2車庫棟	防災倉庫棟	訓練塔 A 塔	訓練塔 B 塔	訓練塔 C 塔	自家給油施設	駐輪場
構造	RC 造	S 造	S 造	S 造	S 造	S 造	S 造	アルミ合金造
階数	地上 2 階	平屋	平屋	地上 5 階	地上 2 階	地上 2 階	平屋	平屋
建築面積	1,449.33 m ²	306.97 m ²	204.20 m ²	76.77 m ²	176.51 m ²	27.80 m ²	7.04 m ²	9.00 m ²
延べ面積	2,214.29 m ²	293.02 m ²	194.40 m ²	257.51 m ²	245.22 m ²	35.60 m ²	21.84 m ²	9.00 m ²

6. 別途工事

- ・昇降機設備工事は建築・電気設備・機械設備の一式工事に含む
- ・第2車庫棟建築工事は別途工事

II 昇降機設備工事仕様

1. 共通事項

図面及び本特記仕様書のほか、国土交通省大臣官房官庁営繕部監修「公共建築工事標準仕様書（機械設備工事編）（令和4年版）」（以下「標準仕様書」という。）及び「公共建築改修工事標準仕様書（建築工事）（令和4年版）」（以下「改修標準仕様書」という。）を適用する。

2. 特記事項

- (1) 項目は、番号に□の付いたものを適用する。
- (2) 特記仕様で※印、・印の適用は、次による。
 - ※印の付いたものを適用する。
 - ・印の付いたものは適用しない。
- (3) 特記仕様に記載の（ ）内表示番号は、標準仕様書の当該項目、当該表及び当該図を示す。
- (4) 建築工事、電気設備工事、機械設備工事は、別記各工事の特記仕様書による。

Ⅲ 特 記 仕 様

第1章 一 般 共 通 事 項

1. 技術者等

建設工事請負契約書及び茨城県建設工事施工適正化指針に基づき、適切な施工体制が行える現場代理人及び技術者(主任技術者・監理技術者・専門技術者)を配置する。

2. 施工従事者

施工にあたっては、必要な資格保有者を従事させる。

3. 工事实績情報(CORINS)の登録 ※ 適用する (付記事項参照)

4. 設計図書の優先順位 (1)現場説明に対する質問回答書 (2)現場説明書 (3)特記仕様書 (4)図面 (5)標準仕様書

5. 機材等

本工事に使用する機材等は、設計図書に定める品質及び性能を有するものとする。

6. 機材等の試験

JIS A 4302(昇降機の検査標準)に準じて行い、(一社)日本エレベータ協会標準の定める試験成績表に記載して、監督員に提示する。監督員が必要と認める場合には、試験に立ち会う。

7. 機材等の検査

機材等は種別ごとに監督員の検査を受ける。ただし、JIS マーク等が表示された機材で所要の品質があることが確認でき設計図書に適合するものは、監督員の承諾を受けて検査を省略することができる。

8. 建設発生土の処理等

- ※ 構内適正処理 (※構内の指示する場所に敷き均し・構内の指示する場所にたい積)
- ・ 構外搬出適正処理 (付記事項参照)
- ・ ストックヤードに搬出する場合は、付記事項参照。

9. 発生材の処理等

(1. 3. 9)

- ・ 受注者に引き渡しを要するもの()
- ※ 構外搬出とし、関係法令に準拠し適切に処理し、監督員に報告する。
- ・ 撤去した照明器具の安定器は、PCB を含まないことを確認のうえ、処理すること。
- ※ 産業廃棄物を運搬する際は、車両の両側面に運搬車である旨の表示をし、関係書類を携帯 すること。
- ・ 再資源化等するもの ・ 電線、ケーブル ・ 盤類 ・ その他()

10. 監督員事務所 ※ 設けない ・ 設ける(種別： ・ 1号 ・ 2号 ・ 3号)

11. 官公署その他への届出手続等

(1. 1. 3)

- ※ 工事の着手、施工及び完成に当たり、関係官公署その他の関係機関への必要な届出手続等を遅滞なく行う。関係法令等に基づく官公署その他の関係機関の検査においては、その検査に必要な資機材、労務等を提供する。なお、本項に関して生じる経費等は、受注者の負担とする。

- ※ 建築基準法(昭和 25 年法律第 201 号)第 18 条に基づく計画通知及び完了検査にかかる手数料は受注者が負担する。支出手続きには日数を要するため、余裕を持って申請等の準備をすること。なお、受注者の責に帰すべき事由により再申請・変更申請が生じた場合の手数料についても受注者の負担とする。

12. 施工図等の取り扱い

施工図等の著作権に係わる当該建築物工事物件に限る使用权は、発注者に委譲するものとする。

13. 提出書類

建設業法(昭和 24 年法律第 100 号)等で規定された関係書類のほか、次の書類を提出する。

適用	書類	備考
※	工事实績情報(CORINS)の登録内容確認書の写し(付記事項参照)	請負代金の額が 500 万円以上となる工事
※	火災保険等に参加したことを証明できる書類	
※	<u>法定外労災保険証券等の写し</u>	
※	建設業退職金共済組合証紙購入状況報告書(原本)	請負代金の額が 500 万円以上となる工事
※	施工体系図、施工体制台帳、再下請負通知書、建設業許可証の写し、作業員名簿、 <u>施工従事者資格証(施工に必要なものに限る)の写し、主任(監理)技術者の雇用契約を証する書面及び注文書・請書の写し</u>	作業員名簿の様式は、茨城県建設工事施工適正化指針様式 2 又はそれに準拠するもの (個人情報 は は黒塗りする こと 。)
※	施工計画書	請負代金の額が 500 万円未満の場合は監督員の指示による。
※	<u>産業廃棄物処理関係書類(14 項参照)</u>	
※	使用機材メーカー一覧表及び機器・材料納入仕様書承諾願	
※	<u>機器の設計及び施工に対する計算書</u>	耐震
※	施工図承諾願	
※	<u>石綿事前調査結果報告</u>	請負代金の額が 100 万円以上となる工事
※	実施工程表(全体工程、月間工程及び 3 週工程)	監督員の指示により省略できる。
※	<u>工事完成通知書及び支払用完成写真(A4 版カラー)</u>	完成写真は黒板を写さない
※	完成図書(14 項参照)	
・	維持保全に関する資料 部	
・	管理機器一覧表(指定様式: エクセル形式のデータで提出)	様式は営繕課より提供する。
※	工事物件引渡書	
※	<u>創意工夫・社会性等に関する実施状況(別紙一</u>	様式は営繕課より提供する。

	6) (付記事項参照)	
※	完成書類等引継書(提出書類及び完成図書類を施設に提出する際に、施設の署名を得たもの)	
※	その他 監督員が必要と認め、指示した書類	

14. 完成図書類

※ CD-R 又は DVD-R 2 枚 (付記事項参照)

完成図面(JWW 形式 CAD データ、PDF 形式)、完成写真及び工事写真(JPEG 形式)を収録したものを 1 枚は施設担当者へ、もう 1 枚は監督員へ提出する。工事写真の撮影方法は国土交通省大臣官房官庁営繕部監修「営繕工事写真撮影要領(平成 31 年版)による工事写真撮影ガイドブック 電気設備工事編 平成 30 年版」を参考とする。

※ 完成図

・ 白焼製本(A1) ・ 1 部 ・ 2 部

※ 白焼製本縮小版(A3)

(施設担当者へ提出) ※ 1 部 ・ 2 部 ・ 3 部 ・ 4 部

(監督員へ提出) ※ 1 部 ・ 2 部 ・ 3 部 ・ 4 部

※ 産業廃棄物処理関係書類

処理フロー図(種類、数量)、委託契約書の写し、許可証の写し、運搬車両一覧表及び車検証(使用車両のみ)、写真(積込、場外搬出時、処分場搬入時、荷下状況)、産業廃棄物管理票(マニフェスト)の写し、PCB 含有試験成績書等、古物商許可証の写し及び計量書(有価処分の場合)、再生資源利用(促進)計画書・実施書(付記事項参照。建設副産物情報交換システム(COBRIS)により作成・提出

※ 完成図書 A4 ファイルに次の書類を綴じ、目次を付けること。

(2.2.1)

(1) 官公署等届出書の写し

(2) 機器完成図(品目は監督員の指示による)、検査合格証、取扱説明書、機器の出荷証明書

(3) 機器の社内検査成績表

(4) 材料試験成績表、検査証明書(電動機、鋼材、ロープ等)

(5) ケーブル、ダクトの防火区画貫通部の施工方法説明書

(6) 重量機器の据え付け要領説明書

(7) 工事完了検査試験成績表

(8) 測定機器の校正証明書

(9) 保守指導案内書

(10) 瑕疵 2 年保証書(保証期間は工事目的物の引渡しの日から 2 年間とする。)

※ 保守点検に必要な工具、予備品および付属品(鍵は 1 か所につき、3 個を 1 組とする。)

15. 工事用電力・水・その他

本工事に必要な工事用電力、水等の費用及び官公署その他の関係機関への諸手続等に要する費用は受注者の負担とする。

16. 他工事との取り合いは設計図内工事区分表による。

17. 石綿含有建材の調査

※ 石綿含有建材の事前調査

工事着手に先立ち、あらかじめ関係法令及び建築改修標準仕様書 1.5.1 に基づき、石綿含有建材の事前調査を行う。

貸与資料（ ）

・分析による石綿含有建材の調査

分析対象

アクチノライト、アモサイト、アンソフィライト、クリソタイル、クロシドライト、トレモライト

分析方法

材料名	定性分析方法	定量分析方法
	<u>(JIS A 1481-1) または (JIS A 1481-2)</u>	<u>(JIS A 1481-3) (JIS A 1481-4) または (JIS A 1481-5)</u>
	・ (箇所)	・ (箇所)
	・ (箇所)	・ (箇所)
	・ (箇所)	・ (箇所)

サンプル数 1 箇所あたり 3 サンプル

採取箇所

・図示による

※ 表示及び掲示

建築改修標準仕様書 9.1.2(6)により、必要な表示及び掲示を行うこと。

※ 官公庁への手続き

大気汚染防止法・労働安全衛生法等(昭和 47 年法律第 57 号)に基づき、必要な届出手続等を行うこと。その際、届出等内容について、あらかじめ監督員に報告すること。

※ 作業完了報告

特定粉じん排出等作業が完了した際は、大気汚染防止法に基づき、その結果を監督員に提出すること。

第2章 施 工 共 通 事 項

1. 条例への適合

「茨城県ひとにやさしいまちづくり条例」(平成8年3月28日茨城県条例第10号)に適合するものとする。

2. 耐震措置

エレベータ設備機器の固定等は、すべて(一財)日本建築設備・昇降機センター編集の「昇降機耐震設計・施工指針(最新版)」により行う。なお、施工に際し、耐震強度計算書を監督員に提出し、承諾を受けるものとする。

3. 低圧屋内配線と油圧配管との離隔

低圧屋内配線と油圧配管は接触しないように施設する。

4. 絶縁抵抗

低圧配線の絶縁抵抗は、測定電圧 500V(好ましくない場合を除く)で測定し、開閉器等で区切ることのできる電路ごとに $5M\Omega$ 以上とする。

5. 制御盤、端子盤

製造者、製造年月、受注者、受注者電話番号を表示した銘板を取り付けること。

6. 油圧配管試験

油圧配管施工後、耐压試験を行う。

7. 溶接

配管の場合は、標準仕様書第2編 2.5.15 による。

配管以外の場合は、標準仕様書第2編 4.6.3 による。

8. 施工調査

はつり工事及び穿孔作業を行う場合は、全箇所を事前に走査式埋設物調査又はレントゲン撮影を行い、監督員に報告を行うこと。

9. 安全表示

(1.1.1)

かご内には、エレベーター安全装置設置済マーク（（一社）建築性能基準推進協会）を表示すること。

特記仕様書（電気設備工事）

I 工事概要

1. 工事名 坂東消防署庁舎建設工事
2. 工事場所 茨城県坂東市岩井字西ノ台 267 番 1 外 10 筆（飛び地 3 筆含）
3. 敷地面積 12,899.53 m²（飛び地 330.46 m²含）
4. 工事範囲 図示のとおり
5. 建物概要 意匠図による

建物名称	庁舎棟	第2車庫棟	防災倉庫棟	訓練塔 A 塔	訓練塔 B 塔	訓練塔 C 塔	自家給油施設	駐輪場
構 造	RC 造	S 造	S 造	S 造	S 造	S 造	S 造	アルミ合金造
階 数	地上 2 階	平屋	平屋	地上 5 階	地上 2 階	地上 2 階	平屋	平屋
建築面積	1,449.33 m ²	306.97 m ²	204.20 m ²	76.77 m ²	176.51 m ²	27.80 m ²	7.04 m ²	9.00 m ²
延べ面積	2,214.29 m ²	293.02 m ²	194.40 m ²	257.51 m ²	245.22 m ²	35.60 m ²	21.84 m ²	9.00 m ²

6. 別途工事

- ・第2車庫棟建築工事は別途工事

II 電気設備工事仕様

1. 共通事項

図面及び本特記仕様書のほか、以下を適用する。

国土交通省大臣官房官庁営繕部監修

「公共建築工事標準仕様書（電気設備工事編）（令和 4 年版）」（以下「標準仕様書」という。）

「公共建築改修工事標準仕様書（電気設備工事編）（令和 4 年版）」（以下「改修標準仕様書」という。）

「公共建築改修工事標準仕様書（建築工事）（令和 4 年版）」（以下「建築改修標準仕様書」という。）及び「公共建築設備工事標準図（電気設備工事編）（令和 4 年版）」（以下「標準図」という。）

2. 特記事項

(1) 項目は、番号に□の付いたものを適用する。

(2) 特記仕様で※印、・印の適用は、次による。

※印の付いたものを適用する。

・印の付いたものは適用しない。

(3) 特記仕様に記載の()内表示番号は、標準仕様書の当該項目、当該表及び当該図を示す。

(4) 建築工事、機械設備工事は、別記各工事の特記仕様書による。

Ⅲ 特 記 仕 様

第 1 章 一 般 共 通 事 項

1. 技術者等

建設工事請負契約書及び茨城県建設工事施工適正化指針に基づき、適切な施工体制が行える現場代理人及び技術者(主任技術者・監理技術者・専門技術者)を配置する。

2. 施工従事者

施工にあたっては、必要な資格保有者を従事させる。

3. 工事实績情報(CORINS)の登録 ※ 適用する (付記事 項参照)

4. 設計図書の優先順位 (1)現場説明に対する質問回答書 (2)現場説明書 (3)特記仕 様書

(4)図面 (5)標準仕様書、改修標準仕様書及び標準図

5. 機材等

(1)使用する機材等は、標準仕様書、設備機材等評価名簿(最新版)((一社)公共建築協会)によるもの又はこれらと同等以上のものとし、監督員の承諾を受ける。

(2)使用する機材等は、揮発性有機化合物の放散による健康への影響に配慮し、かつ、石綿を含有しないものとする。

(3)「茨城県リサイクル建設資材評価認定制度」で認定されたりサイクル建設資材は、茨城県リサイクル建設資材率先利用指針により率先利用に努めるものとする。

(4)「国等による環境物品等の調達の推進等に関する法律(平成 12 年法律第 100 号)」に基づく、「環境物品等の調達の推進に関する基本方針(平成 29 年 2 月 7 日閣議決定)」及び茨城県環境保全率先実行計画(県庁エコ・オフィスプラン)に基づき、県が定める「特定調達品目」の判断基準等を満たす環境物品等を選択するよう努めるものとする。

(5)次に指定する機材は、設計図書に定めがない場合に適用する。

①厚鋼電線管は、付着量内外面 300g/m²以上の溶融亜鉛めっきを施したものを標準とする。

②ケーブルラックの仕上げは、付着量片面 350g/m²以上の溶融亜鉛めっきを施したものの又は

同等以上の耐食性能を有する溶融亜鉛-アルミニウム系合金めっき鋼板製を標準とする。

(6)上記の条件を満たすものが県産品で確保できる場合においては、優先使用に努めるものとする。なお、県産品とは、「茨城県内で生産されたもの、又は加工し製品化されたもの」とする。

6. 機材等の試験

機材等の試験は、標準仕様書、JIS、JEC 及び JEM 等に基づいて行い、試験成績書を提示する。また、設計図書で定めた条件の証明ができない場合、監督員が必要と指示した場合などは試験を行い、監督員が試験に立ち会う。

7. 機材等の検査

機材等は種別ごとに監督員の検査を受ける。ただし、設計図書に適合し、一定以上の品

質が確認できたものは、監督員の承諾を受けて検査を省略することができる。

8. 建設発生土の処理等

※ 構内適正処理 (※構内の指示する場所に敷き均し ・ 構内の指示する場所にたい積)

・ 構外搬出適正処理 (付記事項参照)

・ ストックヤードに搬出する場合は、付記事項参照。

9. 発生材の処理等

(1.3.9)

・ 発注者に引き渡しを要するもの()

※ 構外搬出とし、関係法令に準拠し適切に処理し、監督員に報告する。

・ 特別管理産業廃棄物(・PCB 機器)

※ 産業廃棄物を運搬する際は、車両の両側面に運搬車である旨の表示をし、関係書類を携帯 すること。

※ 撤去した電気機器や照明器具の安定器は、PCB の含有量が基準値未満であるか、含まないことを確認のうえ、処理すること。なお、含有量が基準値以上である場合は、場内保管とする。

※ 再資源化等するもの ※電線、ケーブル ※配電盤類 ・ その他 ()

・ 特定家庭用機器再商品化法(平成 10 年法律第 97 号)の対象となるもの ()は、同法の定めに従って処理すること。

10. 監督員事務所 ※ 設けない ・ 設ける(種別： ・ 1 号 ・ 2 号 ・ 3 号)

11. 官公署その他への届出手続等

(1.1.3)

工事の着手、施工及び完成に当たり、関係官公署その他の関係機関及び電気主任技術者への協議や必要な届出手続等を遅滞なく行う。関係法令等に基づく官公署その他の関係機関の検査においては、その検査に必要な資機材、労務等を提供する。なお、本項に関して生じる経費等は、受注者の負担とする。

12. 施工図等の取扱い

施工図等の著作権に係わる当該建築物又は工事物件に限る使用权は発注者に委譲するものとする。

13. 提出書類

建設業法(昭和 24 年法律第 100 号)等で規定された関係書類のほか、次の書類を提出する。

適用	書類	備考
※	工事实績情報(CORINS)の登録内容確認書の写し (付記事項参照)	請負代金の額が 500 万円以上となる工事
※	火災保険等に参加したことを証明できる書類	
※	<u>法定外労災保険証券等の写し</u>	
※	建設業退職金共済組合証紙購入状況報告書 <u>(原本)</u>	請負代金の額が 500 万円以上となる工事
※	<u>施工体系図、施工体制台帳、再下請負通知書、建設業許可証の写し、作業員名簿、施工従事者資格証</u>	作業員名簿の様式は、茨城県建設工事施工適正化指針様式 2 又

	<u>(施工に必要なものに限る)・主任(監理)技術者の雇用契約を証する書面及び注文書・請書の写し</u>	はそれに準拠するもの (個人情報 は 黒塗りすること。)
※	施工計画書	請負代金の額が 500 万円未満の場合は監督員の指示による。
※	<u>産業廃棄物処理関係書類 (14 項参照)</u>	
※	<u>使用機材メーカー一覧表及び機器・材料納入仕様書承諾願</u>	
※	<u>機器の設計及び施工に対する計算書</u>	<u>耐震、風圧、電圧降下等</u>
※	<u>施工図承諾願</u>	
※	<u>石綿事前調査結果報告</u>	<u>請負代金の額が 100 万円以上となる工事</u>
※	実施工程表(全体工程、月間工程及び 3 週工程)	監督員の指示により省略できる。
※	<u>工事完成通知書及び支払用完成写真(A4 版カラー)</u>	<u>完成写真は黒板を写さない。</u>
※	<u>完成図書__ (14 項参照)</u>	
・	管理機器一覧表(指定様式：エクセル形式のデータで提出)	様式は営繕課より提供する。
※	工事物件引渡書	
※	<u>創意工夫・社会性等に関する実施状況 (別紙－ 6) (付記事項参照)</u>	<u>様式は営繕課より提供する。</u>
適用	書類	備考
※	完成書類等引継書(<u>提出書類及び完成図書類を施設に提出する際に、施設の署名を得たもの</u>)	
※	その他 監督員が必要と認め、指示した書類	

14. 完成図書類

- ※ CD-R 又は DVD-R 2 枚 (付記事項参照)

完成図面(JWW 形式 CAD データ、PDF 形式)、完成写真及び工事写真(JPEG 形式)を収録したものを 1 枚は施設担当者へ、もう 1 枚は監督員へ提出する。工事写真の撮影方法は国土交通省大臣官房官庁営繕部監修「営繕工事写真撮影要領(平成 31 年版)による工事写真撮影ガイドブック 電気設備工事編 平成 30 年版」を参考とする。

- ※ 完成図

- ・ 白焼製本(A1) ・ 1 部 ・ 2 部

- ※ 白焼製本縮小版(A3)

- (施設担当者へ提出) ※ 1 部 ・ 2 部 ・ 3 部 ・ 4 部

- (監督員へ提出) ※ 1 部 ・ 2 部 ・ 3 部 ・

- ※ 産業廃棄物処理関係書類

処理フロー図(種類、数量)、委託契約書の写し、許可証の写し、運搬車両一覧表及び車検証(使用車両のみ)、写真(積込、場外搬出時、処分場搬入時、荷下状況)、産業廃棄物管理票(マニフェスト)の写し、PCB 含有試験成績書等、古物商許可証の写し及び計量書(有価処分の場合)、再生資源利用(促進)計画書・実施書(付記事項参照)。建設副産物情報交換システム(COBRIS)により作成・提出

※ 完成図書 A4 ファイルに次の書類を綴じ、目次を付けること。

- (1) 官公署等届出書の写し
- (2) 機器完成図(品目は監督員の指示による)、検査合格証、取扱説明書
- (3) 機器の社内検査成績表
- (4) 現地試験成績表 (付表参照)
- (5) 測定機器の校正証明書の写し
- (6) 電気設備工事チェックリスト (一社)茨城県電設業協会
- (7) 瑕疵2年保証書(保証期間は工事目的物の引渡しの日から2年間とする。)

※ 保守点検に必要な工具、予備品および付属品

付表 現地試験成績表

電灯・動力設備工事	・	電圧測定表(分電盤等)
	・	絶縁抵抗測定表(②)
	・	接地抵抗測定表
	・	照度測定表(③)
	・	コンセント極性試験表 接地極又は端子付きのものは、接地の導通
	・	相回転測定表
	・	シーケンス試験
	・	機器締付けチェック表(①)
受変電設備工事	・	耐電圧試験表
受変電設備工事	・	絶縁抵抗測定表(②)
	・	接地抵抗測定表
	・	継電器特性試験表
	・	シーケンス試験
	・	機器締付けチェック表(①)
発電設備工事	・	発電設備試験表
	・	騒音試験表
	・	振動試験表
構内情報通信網設備工事	・	構内情報通信網設備試験表
構内交換設備工事	・	構内交換設備試験表
放送設備工事	・	拡声設備試験表
テレビ共同受信設備工事	・	テレビ・ラジオ電界強度測定表
	・	画質評価写真
自動火災報知設備工事	・	消防設備試験表
自動閉鎖設備工事	・	防火戸自動閉鎖試験表
その他	※	監督員の指示

①：電気設備工事監理指針 第2編第2章第1節共通事項 2.1.2 及び資料5

②：試験電圧を記載すること。

③：平面図に測定場所・測定高さ・測定日時を記載すること。

工事に必要な工事用電力、水等の費用及び官公署その他の関係機関への諸手続等に要する費用は受注者の負担とする。

16. 他工事との取り扱い

- | | | |
|---|-------|------|
| (1) 鉄筋コンクリートの梁、床、壁貫通のスリーブ補強 | ・ 本工事 | ※ 別途 |
| (2) 埋込照明器具天井切り込み及び補強 | ・ 本工事 | ※ 別途 |
| (3) 開口部補強(分電盤、端子盤等) | ・ 本工事 | ※ 別途 |
| (4) 点検口 | ・ 本工事 | ※ 別途 |
| (5) 自動火災報知設備の総合盤箱体
(ただし、消火栓箱組み込みの場合) | ・ 本工事 | ・ 別途 |
| (6) 換気扇 | ・ 本工事 | ※ 別途 |
| (7) 防火シャッター自動閉鎖装置 | ・ 本工事 | ・ 別途 |
| (8) 防火扉自動閉鎖装置(レリーズ) | ・ 本工事 | ・ 別途 |
| (9) 電気室、発電機室等のピット | ・ 本工事 | ・ 別途 |
| (10) 足場 | ・ 本工事 | ※ 別途 |

17. 埋蔵文化財の調査

本工事場所は、文化財保護法(昭和 25 年法律第 214 号)に基づく周知の埋蔵文化財包蔵地内に位置する。

- (1) 掘削作業に際しては、工事立会、試掘確認調査等を要する。施工にあたっては、あらかじめ、工事日程、掘削範囲図及び掘削断面図等を作成の上、監督員、施設管理担当、県教育庁文化課担当と協議を行うこと。
- (2) 掘削作業に際しては、慎重に施工のこと。施工にあたり、文化財その他埋蔵物を発見した場合は、直ちにその状況を監督員に報告すること。

18. 石綿含有建材の調査

※ 石綿含有建材の事前調査

工事着手に先立ち、あらかじめ関係法令及び建築改修標準仕様書 1.5.1 に基づき、石綿含有建材の事前調査を行う。

貸与資料 ()

・ 分析による石綿含有建材の調査

分析対象

アクチノライト、アモサイト、アンソフィライト、クリソタイル、クロシドライト、トレモライト

分析方法

材料名	定性分析方法	定量分析方法
	(JIS A 1481-1) または (JIS A 1481-2)	(JIS A 1481-3) (JIS A 1481-4) または (JIS A 1481-5)
	・ (箇所)	・ (箇所)
	・ (箇所)	・ (箇所)
	・ (箇所)	・ (箇所)

サンプル数 1 箇所あたり 3 サンプル

採取箇所

・ 図示による

※ 表示及び掲示

建築改修標準仕様書 9.1.2(6)により、必要な表示及び掲示を行うこと。

※ 官公庁への手続き

大気汚染防止法・労働安全衛生法等(昭和 47 年法律第 57 号)に基づき、必要な届出手続等を行うこと。その際、届出等内容について、あらかじめ監督員に報告すること。

※ 作業完了報告

特定粉じん排出等作業が完了した際は、大気汚染防止法に基づき、その結果を監督員に提出すること。

第2章 施 工 共 通 事 項

1. 配管の支持

(2.2.3) (2.3.3) (2.4.3)

配管の支持材は鋼製とし、スラブ等の構造体に取り付ける。配管の支持間隔は、金属管では 2m 以下、1 種金属線ぴのベースでは 1m 以下、合成樹脂管では 1.5m 以下とする。ただし、合成樹脂管をコンクリート埋設とする場合は 1m 以下とする。また、露出金属管配線で人が容易に触れるおそれのある場所は、支持金物に保護キャップを取り付ける。

2. 管の接続

(2.2.5)

管相互の接続は、カップリング又はねじなしカップリングを使用し、ねじ込み、突合せ及び締付けを行う。また、管とボックス、分電盤等との接続がねじ込みによらないものには内外面にロックナットを使用して接続部分を締付け、管端にはブッシングを設ける。

3. 金属管の接地

(2.2.5)

配管とボックス、配分電盤の間にボンディングを施し、電氣的に接続する。ただし、ねじ込み接続となる箇所及びねじなし丸形露出ボックス、ねじなし露出スイッチボックス等に接続される箇所は省略することができる。ボンディング線の太さは、配線用遮断器定格電流 100A 以下は 2.0 mm 以上、225A 以下は 5.5mm² 以上、600A 以下は 14mm² 以上とする。

4. 他配管との隔離

金属管、ダクト、ケーブルは水管、ガス管と接触しないように施設する。

5. 空配管

分電盤及び端子盤から天井裏まで空配管 25mm 相当を 2 本立ち上げる。

6. 呼び線（導入線）

長さ 1m 以上の入線しない電線管には電線太さ 1.2mm 以上の被覆鉄線を挿入する。

7. 配管の養生及び清掃

(2.2.6)

管に水気、じんあい等が侵入しがたいようにし、コンクリート埋込となる場合は、管端にパイプキャップ、キャップ付きブッシング等を用いて養生する。

管及びボックスは、据付後速やかに清掃する。また、コンクリートに埋設した場合は、型枠取外し後、速やかに管路の清掃、導通確認を行う。

8. プレート

※新金属 ・ステンレス製 ・樹脂製

9. コンセント

コンセントは盤名、回路番号を表示する。専用コンセントの場合は電圧も表示する。

10. 配管の塗装

金属管露出配管は素地ごしらえ後に指定色塗装とする。（塗装工程を撮影すること。）

合成樹脂調合ペイント(JIS K 5516 合成樹脂調合ペイント) 2 回 (上塗り)

※屋内の施工に使用する塗料は、ホルムアルデヒド等放散量区分 F ☆☆☆☆品とする。

※鉛等の環境汚染物質を含まないものとする。

11. ケーブルのふ設

(2.10.4)

(1) ケーブルラック配線

水平部では 3m 以下、垂直部では 1.5m 以下の間隔ごとに固定する。ただし、トレー形ケーブルラック水平部の配線及び二重天井内におけるケーブルラック水平部の配線はこの限りでない。

電力ケーブルは積み重ねを行ってはならない。ただし、単心ケーブルの俵積み、分電盤 2 次側のケーブル及び積重ねるケーブルの許容電流について必要な補正を行い、配線の太さに影響がない場合はこの限りでない。

(2) 保護管(金属線ぴを含む)へのふ設

垂直にふ設する管路内のケーブルは、支持間隔を 6m 以下として固定する。

(3) 金属トラフへのふ設

ケーブルは、整然と並べ、垂直部では 1.5m 以下の間隔ごとにケーブル支持物に固定する。

電力ケーブルは、積み重ねを行ってはならない。ただし、単心ケーブルの俵積み、分電盤 2 次側のケーブル及び積重ねるケーブルの許容電流について必要な補正を行い、配線の太さに影響がない場合はこの限りでない。

(4) ちょう架配線

径間は、15m 以下とする。

ちょう架は、ケーブルに適合するハンガ、バインド線、金属テープ等によりちょう架し、支持間隔は 0.5m 以下とする。

(5) 二重天井内配線

ケーブルを支持してふ設する場合は、支持間隔を 2m 以下とする。

ケーブルを集合して束ねる場合は、許容電流について必要な補正を行い、配線の太さに影響を与えない範囲で束ねる。

ケーブルを支持せず、ころがし配線とする場合は、天井下地材及び天井材に過度の荷重をかけないものとし、ケーブルの被覆を天井下地材、天井材等で損傷しないように、整然とふ設する。

また、弱電流電線並びに水管、ガス管及びダクト等と接触しないようにふ設する。

(6) 二重床内配線

ころがし配線とする。

ケーブルの接続場所は、上部の二重床が開閉可能な場所とし、床上から接続場所が確認できるようマーキングを施す。

弱電流電線と接触しないようセパレータ等で処置を施す。

(7) 垂直ケーブル配線

つり方式は、プーリングアイ方式又はワイヤグリップ方式とする。

ケーブル及びその支持部分の安全率は、4 以上とする。

各階ごとに振止め支持を施す。

ワイヤグリップ方式の支持間隔は、6m 以下とする。

(8) 造営材沿い配線

ケーブルを造営材に沿わせてふ設する場合の支持間隔は、下表のとおりとし、ケーブル支持材は、ケーブル及びそのふ設場所に適合するサドル、ステーブル等を使用する。

ふ設区分	支持間隔(m)
造営材の側面又は下面において水平方向にふ設するもの	1 以下

人が触れるおそれがあるもの	1 以下
その他の場所	2 以下
ケーブル相互並びにケーブルとボックス及び器具との接続箇所	接続箇所から 0.3 以下

12. 電線・ケーブルの余長

(2.12.5)

高圧・低圧及び弱電配線は、要所、引込口及び引出口近くのマンホール、ハンドホール内で 1 ターン程度の余裕をもたせる。

13. ケーブルラックのふ設

(2.10.1)

ケーブルラックの水平支持間隔は、鋼製では 2m 以下、その他については 1.5m 以下とする。

天井又はスラブより支持をとる場合は、耐震用振止めも併用する。使用電圧が 300V 以下の場合は D 種、300V を超える場合は C 種接地を施す。ケーブルラックの接合部はボンディングを行うこと。ノンボンド工法を採用する場合は、証明シールを貼り付ける。全ネジボルト、ダクター等の支持材を切断して使用する場合は、保護キャップ又は錆止め塗装(ローバル等)を塗布する。

14. 標識シート(埋設シート)

(2.12.4)

地中配線(高圧・低圧・弱電)には折り込み式の標識シートを地表面下 0.3m~0.5m に種別毎に 2 条並行して埋設する。また、おおむね 2m の間隔で用途を表示する。(材質：高密度ポリエチレン平織、文字付)

15. 回路種別の表示

(2.2.10) (2.7.5)

キュービクル式配電盤内、開放型電気室内、ハンドホール内及び設計図書により指定した箇所の表示札はプレートに彫刻し、墨入れ表示とする。また、盤内の外部配線、プルボックス、ハンドホール内、EPS、点検口、ダクト内分岐箇所付近、その他要所の配線には、合成樹脂製、ファイバ製等の表示札(施工者名、回路の種別、電線種類、サイズ、行先、施工年月)を取り付ける。

・表示札の標記例

○	回路種別	電灯	○
	配線	EM-CET○○sq	
	発	キュービクル 電灯盤	
		No. 1	
	着	1L-1	
	施工者	○○(株)	
	施工年月	令和○年○月	

回路種別の例

電灯、動力、電話、火報、放送等

施工年月は完成年月とする。

16. ハンドホール

(2.12.3) (2.12.4)

建物、配電盤及びボックス類側の通線部にはネオシールを充填し、湿気の浸入を防ぐ。

また、保守点検に必要な工具類としてハンドホールキーを 1 組納品する。

17. 貫通部の通線等

配管、配線、ケーブルラック及びダクト類が壁、床等を貫通する箇所は、開口部にネオシールを隙間なく充填する。なお、防火区画を貫通する場合は 27 項を適用する。

18. 電線の色別

(2.1.3)

ビニル電線は、原則として下表により色別する。ただし、これにより難しい場合は端部を色別する。なお、接地線は緑又は緑／色帯、漏電遮断器用接地線は緑／黄とし、盤内の接地線はキャップ、テープ等を取付けること。

電気方式	赤	白	黒	青
三相 3 線式	第 1 相	接地側 第 2 相	非接地 第 2 相	第 3 相
三相 4 線式	第 1 相	中性相	第 2 相	第 3 相
単相 2 線式	第 1 相	接地側 第 2 相	非接地 第 2 相	—
単相 3 線式	第 1 相	中性相	第 2 相	—
直流 2 線式	正極	—		負極

19. 絶縁抵抗

(2.18.2)

低圧配線の絶縁抵抗は、下表により測定し、開閉器等で区切ることのできる回路ごとに 5 MΩ 以上、機器が接続された状態で 1 MΩ 以上とする。ただし、EM-UTP ケーブル、電子機器等の損傷が予想される場合は除く。

回路の使用電圧	定格測定電圧	
	一般の場合	制御機器等が接続されている 場合
25V / 50V 級	25V / 50V	
100V 級	500V	125V
200V 級		250V
400V 級		500V

※推奨値がある場合は、それを優先とする。

20. 接地工事

(2.13.10) (2.13.11)

接地極の上端は、地表面下 0.75m 以上の深さに埋設する。接地線は、地表面下 0.75m から地表上 2.5m までの部分を硬質ビニル管で保護する。(C 種・D 種接地線は金属管を用いることができる。)なお、銅板及び銅棒は地面に対し垂直方向に埋設すること。

21. 接地抵抗測定用補助極

接地抵抗測定用補助極を 10m の間隔を空け直線上に設置し、接地端子盤又は端子台に測定用端子を設ける。補助極の埋設部には、コンクリート製又は鉄製埋設標を設置する。

22. 各接地と雷保護設備、避雷器の接地との隔離

(2.13.13)

接地極及びその裸導線の地中部分は、雷保護設備、避雷器の接地極及びその裸導線の地中部分から 2m 以上離す。

23. 接地極埋設標

(2.13.14)

接地極の埋設部には、コンクリート製又は鉄製埋設標を設置する。A 種、B 種及び C 種接地極の埋設位置の近くには、接地極埋設標(黄銅板製厚さ 1.0mm 以上、140mm×90mm 以上、文字はエッチング又は打刻)を設け埋設位置、深さ、埋設年月、接地種別、接地抵抗値を刻記する。

24. 接地抵抗値

A 種、B 種及び C 種は電気設備技術基準の解釈第 17 条に従う。D 種接地抵抗値は 50Ω 以下とする。

25. 接地極

A 種、B 種及び C 種は銅板(900mm×900mm×1.5mm 厚)及び補助棒は 14φ×1,500mm を 2 本以上とし、それぞれ規定値以下とする。D 種は 14φ×1,500mm で 2 連結以上とする。

26. 盤類

(1.7.3) (1.1.3)

(1)分電盤、制御盤、端子盤、キュービクル式配電盤等の標準厚さは、下表に示す値以上とする。また、各部は必要に応じて補強を施す。

盤の種類	設置場所	標準厚さ(mm)	
		鋼板製	ステンレス製
分電盤、制御盤、端子盤等	屋内、屋外	1.6	1.2
キュービクル式配電盤等	屋内	1.6	1.5
	屋外	2.3	2.0

(2)塗装について、下地処理(りん酸塩処理)を行ったのち、下塗りは電着塗装(SUS 製の場合は不要)、仕上げは指定色(参考 屋内：2.5Y9/1、屋外：5Y7/1、半艶)焼付塗装とする。

(3)製造者、製造年月、受注者名、受注者電話番号を表示した銘板を取り付ける。

(4)盤内でケーブルの固定等に利用する結束バンド等は、耐候性のあるものを使用する。

(5)盤の扉の鍵はタキゲン製造(株)製 No. 200 で開錠可能なものとする。

27. 防火区画等の貫通

(2.1.10)

ケーブル、ケーブルラック及びダクトが防火区画を貫通する場合は、関係法令に適合したもので、貫通部に適合する材料及び工法とする。防火区画貫通の耐火処理工法については、耐火性能を証明するものを監督員に提出する。なお、施工場所の近傍には、必要事項を記載した表示を設けること。

28. プルボックス

(1.2.6)

屋外は、防水型ステンレス又はステンレス指定色メラミン焼付塗装を原則とする。また、隠ぺい部のふたの止めねじは、ちょうねじとする。屋外取付の際は、設置面周辺に防水コーキングを施すこと。

29. 機器取付高さ

機器の取付高さは、図面に記載のない場合は次の表による。

	名 称	レベル	取付高さ(mm)
電 灯	分電盤	床上～中心	1,500
	スイッチ(一般)	床上～中心	1,300
	スイッチ(多機能トイレ)	床上～中心	1,100
	コンセント(一般)	床上～中心	300

	コンセント(和室)	床上～中心	150
	コンセント(台上)	台上～中心	150
	ブラケット(一般)	床上～中心	2, 100
	ブラケット(踊場)	床上～中心	2, 500
	ブラケット(鏡上)	鏡上端～中心	150
	避難口誘導灯(壁付・壁掛)	床上～下端	1, 500 以上
	廊下通路誘導灯	床上～上端	1, 000 以下
動力	制御盤	床上～中心	1, 500
	手元開閉器	床上～中心	1, 500
	操作釦	床上～中心	1, 300
電 話	端子盤	床上～下端	500
	保安器箱	床上～下端	500
	ボックス(一般)	床上～中心	300
	ボックス(和室)	床上～中心	150
	M D F	床上～上端	500
火災報知	火報受信機(複合盤)、副受信機	床上～操作部	800～1, 500
	機器収納盤	床上～操作部	800～1, 500
	発信機	床上～操作部	800～1, 500
	警報ベル	天井～操作部	(天井高×0.9)
	表示灯	天井～操作部	(天井高×0.8)
その他	呼出ボタン(多機能トイレ)	床上～中心	900, (400)
	復帰ボタン(多機能トイレ)	床上～中心	1, 300
	廊下表示灯(多機能トイレ)	床上～中心	2, 000

注 1)ユニバーサルデザインを適用する場合は「茨城県ひとにやさしいまちづくり条例施設整備

マニュアル」を参考とする。

注 2) (天井高)×0.9 及び(天井高)×0.8 は天井高が 2,500～3,000mm の場合に適用する。天井高 3,000mm 以上の場合及び上記取付高さにおいて、機器の使用に支障が生じる場合は監督員と協議すること。

注 3)呼出ボタン(多機能トイレ)の取付高さ(400)は床に転倒した時を考慮した高さを示す。

30. 配管等の耐震施工

(2.1.13)

横引き配管等は、地震力に耐えるよう下表により標準図(電力 30)の S_A 種、A 種又は B 種耐震支持を行う。鉛直震度は水平震度の 1/2 とし同時に働くものとする。ただし、建築の構造体が免震構造、制震構造等である場合は、構造体の特性を考慮し下表の内容を準用する。

なお、呼び径が 82mm 以下の単独配管、周長 800mm 以下の金属ダクト、幅 400mm 未満のケーブルラック、幅 400mm 以下の集合配管、定格電流 600A 以下のバスダクト及びつり材

の長さが平均 0.2m 以下の配管等の場合は、耐震支持を省略できる。

設置場所	耐震安全性の分類					
	※特定の施設			・一般の施設		
	水平震度	適用		水平震度	適用	
		電気配線(金属管・金属ダクト・バスダクトなど)	ケーブルラック		電気配線(金属管・金属ダクト・バスダクトなど)	ケーブルラック
上層階 屋上及び塔屋	2.0	12m 以内ごとに S _A 種耐震支持	6m 以内ごとに S _A 種耐震支持	1.5	12m 以内ごとに A 種耐震支持	8m 以内ごとに A 種又は B 種耐震支持
中間階	1.5	12m 以内ごとに A 種耐震支持	8m 以内ごとに A 種耐震支持	1.0	12m 以内ごとに A 種又は B 種耐震支持	12m 以内ごとに A 種又は B 種耐震支持
1 階及び地下階	1.0			0.6		

注) (1) 設置場所の区分は配管等を支持する床部分により適用し、天井面より支持する配管等は直上階を適用する。

(2) 上層階は、2 から 6 階建の場合は最上階、7 から 9 階建の場合は上層 2 階、10 から 12 階建の場合は上層 3 階、13 階建以上の場合は上層 4 階とする。

(3) 中間階は、1 階及び地下階を除く各階で上層階に該当しない階とする。

31. 機器等の耐震施工

設備機器の固定は、次に示す事項を除き、「官庁施設の総合耐震計画基準及び同解説(平成 8 年版)」(建設大臣官房官庁営繕部監修)及び「建築設備耐震設計・施工指針 2014 年版」(国土交通省国土技術政策総合研究所・独立行政法人建築研究所監修)による。なお、施工に際し、耐震強度計算書を監督員に提出し、承諾を受けるものとする。

(1) 設計用水平地震力

機器の重量【kN】に、設計用水平震度を乗じたものとする。なお、設計用水平震度は下表による。

設置場所	耐 震 安 全 性 の 分 類			
	※特定の施設		・一般の施設	
	※重要機器	※一般機器	・重要機器	・一般機器
上層階、屋上及び塔屋	2.0(2.0)	1.5(2.0)	1.5(2.0)	1.0(1.5)
中間階	1.5(1.5)	1.0(1.5)	1.0(1.5)	0.6(1.0)
地下階、1 階	1.0(1.0)	0.6(1.0)	0.6(1.0)	0.4(0.6)

注)()内の数値は、防振支持の機器の場合に適用する。

重要機器 ※ 配電盤等 ※ 発電装置 ・ 交流無停電電源装置 ・ 直流電源装置

※ 自動火災報知受信機 ・ 構内交換装置 ・ 中央監視制御装置

水槽類の設計用水平震度

設置場所	耐 震 安 全 性 の 分 類			
	・ 特定の施設		・ 一般の施設	
	・ 重要水槽	・ 一般水槽	・ 重要水槽	・ 一般水槽
上層階、屋上及び塔屋	2.0	1.5	1.5	1.0
中間階	1.5	1.0	1.0	0.6
地下階、1階	1.5	1.0	1.0	0.6

注)重要水槽とは重要機器として扱う水槽類、一般水槽とは一般機器として扱う水槽類を示す。

また、水槽類にはオイルタンク等を含む。

(2) 設計用鉛直地震力

設計用水平地震力の 1/2 とし、設備機器の重心に水平地震力と同時に働くものとする。

32. 施工調査

はつり工事及び穿孔作業を行う場合は、全箇所を事前に走査式埋設物調査又はレントゲン撮影を行い、監督員に報告を行うこと。

33. 既存躯体への穿孔

穿孔機械を使用し、既存躯体に穿孔する場合は、金属探知により電源供給が停止できる付属装置等を用いて施工すること。

34. 埋込アンカー、あと施工アンカー

- (1) 基礎を新設し、かつ機器単体で 100kg を超える場合は、埋込アンカーを使用して固定すること。現場条件により埋込アンカーを使用できない場合は監督員と協議し、機器固定方法を決定する。
- (2) 配管、ダクト、機器等の天井吊り下げ用アンカーには、接着系アンカーを使用しないこと。
- (3) あと施工アンカーの施工に際しては、品質管理上、施工についての指導を行う施工技術管理者の配置や、十分な経験と技能を有する技能者により施工を行うこと。

第3章 電 気 方 式

1. 高圧

※ 三相 3 線式 6,600V 50Hz

2. 低圧

※ 単相 3 線式 100/200V 50Hz

・ 単相 2 線式 ※ 100V ※ 200V 50Hz

※ 三相 3 線式 ※ 200V ・ 415V 50Hz

・ 三相 4 線式 240/415V 50Hz

・ 直流 2 線式 ・ 100V

第4章 電 灯 設 備

1. 照明器具

※ LED 照明器具 ・ 蛍光灯器具

2. 連結器具

照明器具 2 連結以上の電線接続は EM-EEF ケーブル 3 心を使用し、1 線は接地線とする。

3. 照明器具取付

(2.14.3)

原則として照明器具（器具質量 3kg 以下のダウンライト形器具を除く）は、スラブその他構造体に呼び径 9mm 以上のつりボルト 2 本以上で堅固に支持する。ただし、天井下地材より支持する照明器具は脱落防止の措置を施す。また、耐震上必要な場合は、ねじ、ワイヤ等により振れ止めを施す。

4. 照明器具の接地

(2.13.7)

照明器具の金属製部分及び LED 制御装置を別置とする場合の金属製外箱には、D 種接地工事を施す。ただし、次の場合は、接地工事を省略することができる。

- (1) 器具が二重絶縁構造の場合、直流 300V 以下又は対地電圧が交流 150V 以下の器具を乾燥した場所に施設する場合、又は器具外郭が合成樹脂等耐水性のある絶縁物製のものである場合。
- (2) LED 制御装置を別置とする場合において、器具と制御装置の間の回路の対地電圧が 150V 以下のものを乾燥した場所に施設する場合、又は簡易接触防護措置を施し、かつ器具と制御装置の外箱の金属製部分が、金属製の造営材と電氣的に接続しないように施設する場合。

第5章 動 力 設 備

1. 漏電遮断器

電動機の定格電流が 50A 以下は定格感度電流 30mA 以下、動作時間は 0.1 秒以内とする。50A を超えるものは定格感度電流 100mA～200mA、動作時間は 0.1 秒以内とする。（動力について、15kW 以上は定格感度電流 100mA～200mA とする。）

2. 電流計

電動機用は、延長目盛電流計とし、赤指針付きとする。

第6章 受 変 電 設 備

1. 形 式
 - ・ 開放形 ・ 屋内キュービクル式 ※ 屋外キュービクル式
キュービクル式の場合
 - ※高圧部が露出する部分は、透明保護カバーを設ける。
 - ※盤内には、内部照明(LED)を盤ごとに設け、点灯・消灯はドアの開閉
による。
 - ※点検用のコンセントは、同一列盤で1箇所以上設ける。
2. 交流遮断器 ※ 真空遮断器(12.5kA) ・ ガス遮断器
- ※ 手動ばね式 ・ 電動ばね式 ・ 電磁操作方式
3. 断路器 ※ 三極単投断路器(避雷器用は除く。)
- ・ 単極断路器
4. 高圧負荷開閉器 ※ 手動操作式 ・ 遠方手動操作式 ・ 電動操作式
- 相間及び側面に絶縁バリアを設ける。
5. 高圧引込開閉器 ※ 過電流蓄勢トリップ付地絡トリップ形で制御電源用変圧器を内蔵とす
る。
- ※ 柱上用気中開閉器(VT、LA 内蔵) ・ 地中線用気中開閉器(VT 内蔵)
- ※ SOG 制御箱の材質はSUS 製とし、容易に点検ができる高さに、開閉ひ
もはGL+2,500mm の位置に取り付ける。
6. 変圧器 ※ 連続定格自冷式 (※ 油入式 ・ モールド式 ・ H 種乾式)
- 付属機器(※ ダイアル式温度計 ※ 防振ゴム)
- ・ 振止め
- ※見易い位置にタップ値を明示する(設定値、年月日)。
- ※変圧器ごとに漏洩電流を容易に測定できるように接地線を配置すること。
7. 高圧進相コンデン
サ ※ 油入式 ・ モールド式
8. 直列リアクトル ※ 油入式 ・ モールド式
- ※ 6% ・ 13%
9. 避雷器 ※ 酸化亜鉛型 ・ 弁抵抗型
10. 計器類 高圧盤 ※ 電圧計 ※ 電流計 ※ 力率計 ・ 電力計
- 低圧盤 ※ 最大需要電流計(※2分デマンド・5分デマンド・10分デ
マンド)
- ※ 電流計は多機能型デジタル(階級1.5級以上)とし、警報接点
付、 需要指示値、最大需要指示値の機能を有する。
- ※ 計器類高さは中心でFL+1,600mm程度とする。
11. デマンド警報装置 ※ 無線通信方式 ・ 有線通信方式
12. 標識・表示 ※ 立入り禁止 ※ 高圧危険 ※主要機器銘板
13. 接地 ※ 接地線は、漏洩電流を容易に測定できる位置に設置し、接地種別をブ
レートに彫刻し、墨入れ表示すること。
- ※ 施工前に接地抵抗値を測定し、基準値未満であることを確認するこ
と。

第7章 電力貯蔵設備

第1節 直流電源装置

防災電源(消防法(昭和23年法律第186号)による非常電源、建築基準法(昭和25年法律第201号)による予備電源)となる直流電源装置は、消防法及び建築基準法に適合したもの又は、蓄電池設備認定委員会((一社)日本電気協会)の認定証票が貼付されたものとする。

1. 設置方式 ※ キャビネット式 ・ キャビネット式以外
2. 換気方式 ※ 自然換気 ・ 機械換気
3. 蓄電池

据置鉛蓄電池

(2.1.6)

		構 造		極板構造	シールの種 類	適 用 規 格
・		ベント形		クラッド式	－	JIS C 8704-1
・		ペースト式				据置鉛蓄電池
・		シール形	クラッド式	触媒栓式		
・		ペースト式				
・		ペースト式	制 御 弁 式		JIS C 8704-2	
・					制 御 弁 式	制御弁式据置鉛蓄電池

注)長寿命 MSE は JIS C 8704-2 によるほか、JIS C 8702-1 附属書 1(参考)「高温加速寿命試験」を行い、期待寿命を 13 年以上有するものとする。

また、蓄電池には更新推奨時期・期間を表示すること。

アルカリ蓄電池

	構造	極板構造	シールの種類	適用規格
・	シール形	ポケット式	触媒栓式	JIS C 8706
・		焼結式		据置ニッケル・カドミウムアルカリ蓄電池
・		焼結式	陰極吸収式	JIS C 8709 シール形ニッケル・カドミウムアルカリ蓄電池

注)蓄電池には更新推奨時期・期間を表示すること。

第2節 交流無停電電源装置(UPS)

1. 設置方式 ※ キャビネット式 ・ キャビネット式以外
2. 換気方法 ・ 自然換気 ※ 機械換気
3. 蓄電池

「第1節 直流電源装置 3. 蓄電池」による他 簡易形は下表による。

呼称	適用規格
蓄電池	JIS C 8702-1 小形制御弁式鉛蓄電池-第1部
	JIS C 8702-2 小形制御弁式鉛蓄電池-第2部
	JIS C 8702-3 小形制御弁式鉛蓄電池-第3部

注)蓄電池には更新推奨時期・期間を表示すること。

4. 逆変換装置(インバータ) ・ トランジスタ式 ※ サイリスタ式
5. 回路方式 ・ 常時インバータ給電方式 ・ ラインインタラクティブ方式
・ 常時商用給電方式

第8章 発電設備

第1節 燃料系発電装置

1. 形式 ※ キュービクル式 ・ 簡易形 ・ オープン式
2. 時間定格 ・ 連続 ※ 72 時間 ・ 10 時間
3. 原動機 ※ ディーゼル ・ ガスエンジン ・ ガスタービン
4. 始動方式 ・ 10 秒以内電圧確立 ※ 40 秒以内電圧確立
5. 冷却方式 ※ ラジエータ式 ・ 循環放流式 ・ 貯水槽循環方式
6. 始動方式 ※ 電気始動 ・ 空気始動
7. 直流電源装置 ※ 鉛蓄電池 ・ アルカリ蓄電池
8. 燃料 ・ 灯油 ※ 軽油 ・ A 重油
9. 認定 ※ 消防法及び建築基準法に適合したもの又は、(社)日本内燃力発電設備協会認定票が貼付されたものとする。
10. 電圧 ・ 高圧 ※ 低圧
11. 騒音 ・ 超低騒音形 ※ 低騒音形 ・ 一般形
12. 保護形式 ※ 保護形とする。
13. 絶縁 ・ 耐熱クラスは低圧においては E 以上、高圧においては B 以上とする。
14. 燃料小出槽 ※ 鋼板製、外面はさび止めペイント 2 回塗りのうえ調合ペイント 2 回塗りとする。
・ ステンレス製
15. 標識・表示 ※ 立入り禁止 ※ 発電設備 ・ 高圧危険 ※ 機器銘板
※ 内蔵蓄電池推奨更新時期・期間

第2節 太陽光発電装置

(1.7.2)

(1.7.3)

太陽電池アレイ及び接続箱の据付けは、建築基準法施行令(昭和 25 年政令第 338 号)第 87 条又は JIS C8955「太陽電池アレイ用支持物の設計用果汁算出方法」に定めるところによる風圧力に耐えるものとし、自重、積雪及び地震その他の振動及び衝撃に対して、耐える構造とする。

1. 太陽電池モジュール ※シリコン系(※ 結晶型 ・ 薄膜型) ・ 化合物系
2. パワーコンディショナ 太陽電池出力の監視制御等により、全自動運転可能なものと

する。

- ・ 逆潮流あり ※ 逆潮流なし
 - ・ 単独運転検出機能あり ※ 単独運転検出機能なし
3. 系統連系保護装置 製造者標準とする。

第9章 通 信 ・ 情 報 設 備

第1節 構内情報通信網設備

1. 機材 電気通信回線設備に接続する端末機器は、電気通信事業法(昭和 59 年法律第 86 号)及び電波法(昭和 25 年法律第 131 号)に適合したものとする。
2. 配線等 盤内等において、通信・信号配線と交流電源配線は、セパレータ等を用いて直接接触しないようにする。

第2節 構内交換設備

1. 機材 電気通信回線設備に接続する端末機器は、電気通信事業法に適合したものとする。
2. 配線等 盤内等において、通信・信号配線と交流電源配線は、セパレータ等を用いて直接接触しないようにする。
3. 局線応答方式
 - ※ ダイアルイン方式 ・ ダイレクトインダイヤル方式
 - ・ ダイレクトインライン方式 ・ 中継台方式
4. 電話機等
 - ※一般電話機 ※多機能電話機 ・ I P 電話機 ・ P H S

5. 蓄電池

※更新推奨時期・期間を表示すること。

第3節 拡声設備

1. スピーカ 壁面付型は2点で強固に取付ける。
非常放送設備兼用スピーカは日本消防検定協会の認定に合格したものとする。
2. 配線等 非常放送設備用の配線は消防法等に適合したものとする。
盤内等において、通信・信号配線と交流電源配線は、セパレータ等を用いて直接接触しないようにする。

3. 蓄電池

※更新推奨時期・期間を表示すること。

第4節 テレビ共同受信設備

1. 機材 _____アンテナ等は各地域の状況に合わせた機材を使用する。
2. 配線等 原則として、途中接続は行わないこと。
盤内等において、通信・信号配線と交流電源配線は、セパレータ等を用いて直接接触しないようにする。

第5節 自動火災報知設備

1. 機材 受信機、中継器、発信機、感知器については日本消防検定協会又は登録検定機関の行う検定に合格したものとする。
2. 配線等 消防法等に適合したものとする。
盤内等において、通信・信号配線と交流電源配線は、セパレータ等を用いて直接接触しないようにする。

3. 蓄電池

※更新推奨時期・期間を表示すること。

特 記 仕 様 書 （機械設備工事）

I 工 事 概 要

- 1 工 事 名 坂東消防署庁舎建設工事
- 2 工事場所 茨城県坂東市岩井字西ノ台 267 番 1 外 10 筆（飛び地 3 筆含）
- 3 敷地面積 12,899.53 m²（飛び地 330.46 m²含）
- 4 工事範囲 図示のとおり
- 5 建物概要 意匠図による

建物名称	庁舎棟	第二車庫棟	防災倉庫棟	訓練塔 A 塔	訓練塔 B 塔	訓練塔 C 塔	自家給油施設	駐輪場
構 造	RC 造	S 造	S 造	S 造	S 造	S 造	S 造	アルミ合金造
階 数	地上 2 階	平屋	平屋	地上 5 階	地上 2 階	地上 2 階	平屋	平屋
建築面積	1,449.33 m ²	306.97 m ²	204.20 m ²	76.77 m ²	176.51 m ²	27.80 m ²	7.04 m ²	9.00 m ²
延べ面積	2,214.29 m ²	293.02 m ²	194.40 m ²	257.51 m ²	245.22 m ²	35.60 m ²	21.84 m ²	9.00 m ²

6. 別途工事

- ・第 2 車庫棟建築工事は別途工事

Ⅱ 機械設備工事仕様

1 共通事項

- (1) 図面及び本特記様書に記載されていない事項は、次による。

(国土交通省大臣官房官庁営繕部監修)

「公共建築工事標準仕様書（機械設備工事編）（令和4年版）」（以下、「標準仕様書」という。）

「公共建築改修工事標準仕様書」（機械設備工事編）（令和4年版）（以下、「改修標準仕様書」という。）

「公共建築設備工事標準図」（機械設備工事編）（令和4年版）（以下、「標準図」という。）

「公共建築改修工事標準仕様書」（建築工事編）（令和4年版）（以下、「建築改修標準仕様書」という。）

- (2) 電気工事及び建築工事を本工事に含む場合は、電気設備工事及び建築工事はそれぞれの工事特記仕様書を適用する。

2 特記事項

- (1) 項目は、番号に□のついたものを適用する。

- (2) 特記事項で※印、・印のある場合の適用は、下記による。

※印を適用する。

・印のついたものは適用しない。

- (3) 特記事項に記載の（ ）内表示番号は、標準仕様書の当該項目、当該表及び当該図を示す。

Ⅲ 特記仕様

第 1 章 一般共通事項

1 技術者等

建設工事請負契約書及び茨城県建設工事施工適正化指針に基づき、現場代理人及び技術者（主任技術者・監理技術者・専門技術者）を配置する。

2 技能士の適用

(1. 5. 2)

本工事に次の当該技能士を適用する。（資格証の写しを提出する）

※ 配管（配管工事） ※ 熱絶縁施工（保温工事） ※ 建築板金（ダクト製作及び取付け）

※ 冷凍空気調和機器施工（チリングユニット、パッケージ型空気調和機等の据付及び整備）

3 電気保安技術者

・ 配置する ・ 配置しない

(1. 3. 2)

4 工事実績情報の登録（付記事項参照）

5 設計図書の優先順序

(1) 質問回答書 (2) 現場説明書 (3) 特記仕様書 (4) 図面
(5) 標準仕様書、改修標準仕様書及び標準図

6 監督員事務所

※ 設けない ・ 設ける（種別 ・ 1 号 ・ 2 号 ・ 3 号）

7 機器及び材料

(1) 本工事に使用する機器及び材料（以下、「機材」という。）は、設計図書に規定するもの、標準仕様書、設備機材等評価名簿（最新版（一社）公共建築協会）によるもの又は同等のものとする。ただし、同等のものとする場合は、監督員の承諾を受ける。

(2) 「茨城県リサイクル建設資材評価認定制度」で認定されたリサイクル建設資材については、茨城県リサイクル建設資材率先利用指針により率先利用に努めるものとする。

(3) 「国等による環境物品等の調達の推進等に関する法律（平成 12 年法律第 100 号）」に基づく、「令和 3 年度茨城県グリーン購入推進方針」に定める「特定調達品目」の判断基準等を満たす環境物品等を選択するよう努めるものとする。「茨城県リサイクル建設資材評価認定制度」で認定されたリサイクル建設資材については、茨城県リサイクル建設資材率先利用指針により率先利用に努めるものとする。

(4) (1)～(3)の条件を満たすものが、県産品で確保できる場合には、その優先使用に努めるものとする。

なお、県産材とは、「茨城県内で生産されたもの、又は加工し製品化されたもの」とする。

8 機材の検査等

検査及び試験を必要とする機材等は、標準仕様書によるほか次による。

(1) 機材は種別ごとに監督員の検査を受ける。ただし、JIS マーク等が表示された機材で所要の品質があることが確認でき設計図書に適合するものは、監督員の承諾を受けて検査を省略することができる。

(2) 設計図書に定められた場合、又は試験によらなければ設計図書に定められた条件に適合することが証明できない場合には、試験を実施する。試験方法は、JIS、SHASE-S 等に定めがある場合は、それらによる。試験完了後、試験成績表を監督員に提出する。監督員が必要と認める場合には、試験に立ち会う。

9 建設発生土の処理等

・ 構内適正処理 （※ 構内の指示する場所に敷き均し ・ 構内の指示する場所にたい積）

・ 構外搬出適正処理（付記事項参照）

ストックヤードの名称：

住所：

10 発生材の処理等

(1. 3. 9)

(1) 廃棄物は、「廃棄物の処理及び清掃に関する法律」等の関係法令を遵守し、場外搬出の上、適切に処分、監督員に報告すること。

- (2) 発注者に引渡しを要するもの ※なし ・あり ()
 (3) 特別管理産業廃棄物 ※なし ・あり ()

11 冷媒の回収方法等

冷凍機等の撤去に伴う冷媒の回収方法は、改修標準仕様書第3編第2章第4節により、次の書類を監督員に提出すること。

- ※ フロン回収行程管理票写し
- ※ 特定家庭用機器廃棄物管理票（家電リサイクル券）の写し

12 揮発性有機化合物を使用した材料の対応

- (1) 揮発性有機化合物（以下、「VOC」という。）対策については、極力含有量の少ない材料を使用することとする。
- (2) 屋内清掃を行うときは、VOCを含む材料を使用しないこと。やむを得ず使用するときは、監督員の承諾を得ること。
- (3) VOCを含む材料を使用して施工した場合は十分に換気すること。

13 埋蔵文化財の調査

本工事場所は、文化財保護法に基づく「周知の埋蔵文化財包蔵地内」に位置する。

- (1) 掘削作業に際しては、工事立会、試掘確認調査等を要する。施工にあたっては、あらかじめ、工事日程、掘削範囲図及び掘削断面図等を作成の上、監督員、施設管理担当、県教育庁文化課担当と協議を行うこと。
- (2) 掘削作業に際しては、慎重に施工のこと。施工にあたり、文化財その他の埋蔵物を発見した場合は、直ちにその状況を監督員に報告すること。

14 工事用電力・用水・その他

本工事に必要な工事用電力、用水、その他の費用は全て受注者の負担とする。

15 官公署その他への届出手続等

(1.1.3)

- (1) 工事の着手、施工及び完成に当たり、関係法令等に基づく官公署その他の関係機関への必要な届出手続等を遅滞なく行うこと。
- (2) (1)に規定する届出手続等を行うに当たり、届出内容について、あらかじめ監督職員に報告すること。
- (3) 関係法令等に基づく官公署その他の関係機関の検査に必要な資機材、労務等を提供すること。

16 施工図等の取扱い

施工図等の著作権に係わる当該建物に限る使用权は、発注者に委譲するものとする。

17 提出書類

提出書類は、次による。（※ 透明書類ケースに入れて提出する）

※ 写真

適用	内 容	枚数	部数	備考
※	工事写真	適宜	1	電子納品
※	完成写真（支払用：外観及び内観）	各2枚以上	1	A4版

出来高検査、中間検査等に要する写真は、監督員の指示により提出する。

- ※ 工事実績情報の登録内容確認書（請負代金額500万円以上となる工事）
- ※ 火災保険等に参加したことを証明できる書類
- ※ 建設業退職金共済組合証紙購入状況報告書（請負代金額が500万円以上となる工事）
- ※ 施工計画書（請負代金額が500万円以上となる工事）
- ※ 実施工程表（全体工程、月間工程、3週工程）
- ※ 使用資機材メーカー一覧表
- ※ 機器・材料納入仕様書
- ※ 施工図
- ※ 施工体系図の写し（提出したものを工事関係者及び公衆が見やすい場所に掲示すること）

- ※ 施工体制台帳の写し（提出したものを現場に備え置くこと）
- ※ 作業員名簿の写し
- ※ 試験成績表
- ※ 機器類保証書
- ※ 各種届出書類控
- ※ 産業廃棄物処理関係書類
（処理フロー図（種類、数量）、産業廃棄物管理票（マニフェスト）の写し、委託契約書の写し、許可証の写し、運搬車両一覧表、写真（積込、場外搬出時、処分場搬入時、荷下状況）、古物商許可証の写し及び計量書（有価処分の場合））
- ※ 再生資源利用（促進）計画書・実施書（建設副産物情報交換システム(COBRIS)により作成・提出）
- ※ 保守点検に必要な工具
- ※ 完成図
 - ※ A3 判白焼製本 2 部
 - ※ 完成図等データ（CD-R 又は DVD-R） 2 枚
 - 完成図面（JWW 形式）、工事写真（JPEG 形式）を収録したもの
- ※ 維持保全に関する資料（完成図書） 1 部
 1. 使用資機材メーカー一覧表
 2. 官公署届出書類
 3. 機器完成図、検査合格证、取扱説明書
 4. 試験成績書
 5. 機器類保証書、工事保証書
 6. その他監督員が指示するもの
- ※ その他 監督員が必要と認め、指示した書類及び部数

第2章 共通工事

1 機器の規格

機器類の仕様は、図面による。

2 各種配管工事の試験

配管途中若しくは隠ぺい、埋戻し前又は配管完了後の塗装又は保温施工前に行う。試験方法及び試験圧力等は、標準仕様書によるものとし試験記録表を監督員に提出する。

3 総合試運転調整等

- (1) 総合試運転調整に先立ち、調整方法、調整時期、日程、人員及び安全対策を含む総合試運転調整計画書を監督員に提出し、承諾を受ける。
- (2) 総合試運転調整に先立ち、各機器の個別運転調整を行う。
- (3) 各設備における装置全体が設計図書の意図した機能を満足させることを目的とし、各設備における装置全体の施工完了時に、設計図書に示された目標値等と照合しながら、各機器相互間の総合試運転調整を行う。総合試運転調整の項目は、標準仕様書等による。
- (4) 総合試運転調整完了後、機器等の運転状態の記録表及び系統ごとに各測定結果をまとめた測定報告書を監督員に提出する。測定報告書には、測定器名、測定日時及び測定者名を記入し、測定点を示した図面を添付する。

4 容量の表示

- (1) 電動機出力などは、表示された出力以下の容量とする。ただし、防災機器は除く。
 (2) 冷・温熱源機器等及び防災機器の能力、容量は、その数値以上のものとする。

5 土工事 (4. 2. 1)

根切りは、周辺の土質などに適した工法とし、土砂が崩壊しないように関係法令に準拠し適切な法面をつけるか、山留めを設ける。(山留め箇所は、図示による。)

6 管端防食継手 (2. 1. 2)

塩ビライニング鋼管、耐熱性ライニング鋼管及びポリ粉体鋼管でねじ接合する場合の継手は、管端防食管継手とする。

7 管の切断 (2. 5. 1)

塩ビライニング鋼管、耐熱性ライニング鋼管、ポリ粉体鋼管及び外面被覆鋼管は、帯のこ盤、ねじ切機搭載形自動丸のこ機等で切断し、パイプカッターによる切断は禁止する。また、切断後、適正な内面の面取りを施す。

8 異種管の接合 (2. 5. 16)

標準仕様書第2編第2章第5節による。なお、接合要領は標準図施工3によるものとする。

9 吊り及び支持 (2. 6. 3)

標準仕様書第2編第2章第6節によるほか、次による。

- (1) 屋外支持材は、溶融亜鉛めっき又はステンレス製とする。(ボルト、ナット等は、ステンレス鋼製とする。)
- (2) 50A以下の鋼管は、形鋼振れ止め支持間隔を8m以下とする。
- (3) 梁貫通により振れ止めがされている場合は、その部分を形鋼振れ止め支持されているものとみなす。
- (4) ステンレス鋼管及び銅管の支持及び固定に鋼製又は鋳鉄製の金物を使用する場合は、合成樹脂を被覆した支持及び固定金具を用いるか、ゴムシートまたは合成樹脂の絶縁テープ等を介して取付ける。なお、合成樹脂が破損しないように、締付ける。
- (5) 冷媒管の吊り用支持受け材として保護プレートをし、断熱材被覆鋼管と吊り金物との間に設け、自重による断熱材の食込みを防止する。

10 地中埋設標及び埋設表示用テープ (標準図、機材2)

- (1) 地中埋設標及び埋設表示用テープは、次により屋外埋設部分に設置及び埋設する。なお、地中埋設標の設置場所は図示によるほか、屋外埋設管の分岐及び曲り部に設置する。
- | | | |
|---------|--------|-----------|
| (ア) 給水管 | ※地中埋設標 | ※埋設表示用テープ |
| (イ) ガス管 | ※地中埋設標 | ※埋設表示用テープ |
| (ウ) 油管 | ・地中埋設標 | ・埋設表示用テープ |
| (エ) 消火管 | ※地中埋設標 | ・埋設表示用テープ |
- (2) 地中埋設標の頭部には、図示の矢印及び「水」、「ガス」、「油」、「消火」等の用途を表示する。
 (3) 埋設表示テープは、土被り150mm程度の深さとする。

11 地中埋設の深さ

- ・ 管の上端まで60cm ・ 管の上端まで cm

(ただし、建物に引き込む場合等は、監督員の承諾を得て埋設深さを変更することができる。)

12 伸縮管継手を備えた配管 (2. 4. 1. (5))

標準仕様書第2編第2章第4節による。

13 管のフランジ接合 (2. 4. 5、2. 4. 6、2. 4. 7、2. 5. 2、2. 5. 3、2. 5. 4、2. 5. 7)

標準仕様書第2編第2章第4、5節によるほか、機器周りの配管はフランジ接合とする。ただし、鋼管及びライニング鋼管の梁貫通の場合は、片側をネジ接合としてもよい。

14 塗装工事 (3. 2. 1)

標準仕様書第2編第3章第2節による。

15 防食処置 (2. 7. 3)

標準仕様書第2編第2章第7節による。

- (1) 土中埋設の鋼管類（排水配管の鋼管類、合成樹脂などで外面を被覆された部分の配管は除く。）には、標準仕様書により防食処理を行う。
- (2) コンクリートに埋設される鋼管、鉛管、銅管は、プラスチックテープを1/2重ね1回巻きとする。

16 識別色

標準仕様書によるほか、埋設表示テープ及び地中埋設標の識別色は、給水は青、排水はシルバー、消火は赤、ガスは黄とする。

17 保温工事

標準仕様書第2編第3章第1節によるほか、次による。

- (1) 機器類付属弁類、槽類、煙道及び管寄せの保温外装は、アルミニウム板及びカラー亜鉛鉄板をステンレス板に
※ 読み替える ・ 読み替えない
- (2) ロックウール、グラスウールを使用した保温材のホルムアルデヒドの放散量 ・ F☆☆☆☆ ・ F☆☆☆

18 表示札等

鍵及び弁等に取り付ける表示札は、プラスチック製（白色）とし、系統名及び常時開又は閉の文字を記入する。

19 貫通部の処理 (2. 8. 1)

標準仕様書第2編第2章第8節による。

本工事に使用するスリーブは、次による。 (2. 2. 27)

- ・ つば付き鋼管製スリーブ（・ 防水壁 ・ 防水床）（つば付き鋼管製は第2編表2. 2. 11による。）
- ・ 紙製スリーブ（・ 壁 ・ 床）
- ・ 管とスリーブとの隙間のシーリング材は、ホルムアルデヒド、トルエン、エチルベンゼン等を放散しないか、放散が少ないものとする。

※ 配管が防火区画を貫通する場合は、建築基準法に適合する工法又は、国土交通大臣認定を受けた工法とし、貫通部に適用するものとする。（認定書を提出し、標識を適当な位置に貼り付けること。）

20 はつり

既存コンクリート床、壁等の配管貫通部の穴開けは、原則としてダイヤモンドカッターを用いる。

21 他工事との取り合い

- | | | |
|-----------------------------------|-------|---------|
| (1) 鉄筋コンクリート部の梁、床、壁貫通のスリーブ及び箱入れ補強 | ・ 本工事 | ・ 別途工事 |
| (2) 天井、壁のボード類（軽量鉄骨も含む）の補強及び切込み | ・ 本工事 | ・ 別途工事 |
| (3) 点検口 | ・ 本工事 | ・ 別途工事 |
| (4) 外壁に取り付けるガラリ、換気扇枠 | ・ 本工事 | ・ 別途工事 |
| (5) 機器のコンクリート基礎 | ・ 本工事 | ・ 別途工事 |
| 屋内設置のもの | | |
| 屋外設置のもの | ・ 本工事 | ・ 別途工事 |
| (6) 全熱交換器及び換気扇と操作スイッチ間の渡り配管配線 | ・ 本工事 | ・ 別途工事 |
| (7) 仮設（足場、養生等、仮囲い） | ・ 本工事 | ・ 別途工事0 |

22 機器等の耐震施工

設備機器設備の固定は標準仕様書によるほか、建設大臣官庁官庁営繕部監修「官庁施設の総合耐震計画基準及び同解説（平成8年版）」及び一般財団法人日本建築センター発行「建築設備耐震設計・施工指針2014年版」による。

23 機器の据付け及び取付け

- (1) 基礎は、標準基礎又は防振基礎とする。
 - (ア) 標準基礎は、コンクリート基礎とし、コンクリート打設後 10 日間以内に荷重をかけてはならない。また、表面は、金ごて押さえ又はモルタル塗りとし、据付け面を水平に仕上げたものとする。
 - (イ) 防振基礎は、コンクリート基礎と防振架台を組合せたものとし、構造体への振動の伝達を防止できるものとする。
- (2) 鋼製架台は、建築基準法施行令第 90 条及び第 92 条並びに第 129 条の 2 の 4 に定められたものとし、材料は、「鋼構造設計規準」（日本建築学会）に規定されたもの又はこれと同等以上のものとする。
- (3) 給湯設備の転倒防止措置は、建築基準法施行令第 129 条の 2 の 4 第 2 号及び同令に基づく告示（平成 24 年国土交通省告示第 1447 号）の定めによること。
- (4) 機器廻り配管は、機器へ荷重が掛からないように、標準仕様書第 2 編 2.6.1 「一般事項」の固定及び支持を行うこと。

24 あと施工アンカー

- (1) 配管、ダクト、機器等の天井吊り下げ用アンカーには、接着系アンカーを使用しないこと。
- (2) アンカーの埋込深さ及び許容引抜荷重については、標準図（形鋼振れ止め支持部材選定表(二)）によるほか、監督員に資料を提出し、承諾を得ること。
- (3) あと施工アンカー作業における技能者は、施工に関する十分な経験と技能を有するもので、施工するアンカー径に適合したあと施工アンカー施工士の資格を有すること。
- (4) 穿孔後、切粉が残らないようブロー、ブラシ等で孔内を清掃し、所定の深さがあることを確認すること。
- (5) 施工後の品質管理試験は、接触・打音検査を全数、引張・非破壊試験は、アンカー径ごとに全数の 0.5% または、アンカー径ごとに 3 本以上とし、試験荷重は計算で得られたアンカー強度の 2/3 とする。

25 既存インサート及びアンカーボルト

- (1) 既存のインサート及びアンカーボルトは、原則として、使用しないこと。
- (2) やむを得ず既存のインサート及びアンカーボルトを再使用する場合は、監督員と協議の上、状態及び強度を確認し、十分に清掃を行ってから使用すること。

第 3 章 衛生器具設備工事

1 衛生器具の接続

衛生器具と排水配管との接続には、鉛管に代えて排水用フレキシブル継手を使用してもよい。

2 衛生陶器の隙間調整

衛生陶器を据え付ける際の隙間調整は、ゴムシートなどの耐久性に優れた材料を使用すること。

第 4 章 給水設備工事

1 水道加入金 ・ 別途 ・ 本工事

2 保温

※ 標準仕様書による。

- ・ 屋外露出管（弁、フランジ類を含む）の保温材の厚さは、呼び径 25 mm 以下は 30 mm、呼び径 32 mm 以上のものは、40 mm 以上とする。

第 5 章 排水設備工事

- 1 流し接続管 床上露出部分は、硬質ポリ塩化ビニル管（VP）でもよい。
- 2 鋳鉄製ふたの文字
※ 汚 水 ・ 雑排水 ・ 雨水 ・ 実験排水 ・ その他
- 3 鋳鉄製ふたの破壊荷重
※ 中荷重 60 kN以上（丸枠） ※ 重荷重 200 kN以上（丸枠）
- 4 屋外排水管理設要領
根切り底から 100 mm 碎石敷き込みを行い、管を布設して管頂から 100 mm までを山砂にて埋め戻す。
残りの部分は ・ 根切り土 ・ 山砂 で埋め戻す
- 5 小口径桝 下水道管理者等と協議・承諾のうえ使用する。
- 6 エア抜き用排水 自動エア抜きの排水は、専用配管で排水処理をする。

第6章 給湯設備工事

- 1 ガス湯沸器排気筒
・ 本工事（厚さ 0.5 mm 以上のステンレス鋼板製） ・ 別途工事
- 2 排気筒の保温 ・ 行う ・ 行わない

第7章 消火設備工事

- 1 保温
・ 消火配管（・屋内露出・屋外露出）は保温し、標準仕様書第2編第3章第1節 3.1.5 表 2.3.5 区分、給水管を適用する。
・ 屋外露出管の保温材の厚さは、呼び径 25 mm 以下は 30 mm、呼び径 32 mm 以上のものは、40 mm 以上とする。

第8章 ガス設備工事

- 1 ガスメーター ※ 本工事 ・ 別途工事
- 2 ガスの種類 (1) 種 類 プロパンガス (2) 発熱量
- 3 ガス栓 ※ ヒューズコック
- 4 ガス漏れ警報機 外部出力端子を ・ 設ける ・ 設けない
- 5 ガス漏れ警報設備 ・ 設置する ・ 設置しない

第9章 浄化槽設備工事

- 1 装置強度
装置（槽、ふた）の強度は、次の条件による。
・ 製造者標準形 ・ 中荷重形（乗用車の走行駐車可） ・ 重荷重形
- 2 山留め ・ オープンカット ・ 鋼矢板 ・ H 鋼＋鋼矢板
- 3 埋め戻し土 ・ 山砂 ・ 発生土
- 4 マンホールふた等 ※ 錠又は安全ロック等付き
- 5 消毒剤 ※ 30 日分納入

第 10 章 空気調和設備工事

1 天井吊り設備機器の振れ止め

機器重量が 100kg 未満、且つ吊り長さが 1.0m を超え 1.5m 以内の場合は、ブレース、ターンバックル処置を行う。

機器重量が 100kg 以上、又は吊り長さが 1.5m を超える場合は、原則として鋼材（形鋼等）にて処置を行う。

2 ダクト 鋼板厚 ・ 3.2mm ・ 4.5mm ※図示による

排気測定口 ・ 取り付ける

3 風量測定口 取付箇所は標準仕様書による。

4 吹出口及び吸込口 ・ アルミ製（ヘアライン加工） ・ 鋼板製

5 防煙ダンパー

標準仕様書第 3 編 1. 15. 8 によるほか次による。

(1) 復帰方式 ・ 遠隔復帰式（電気式） ・ 手動式

(2) 操作式 ・ 電気式 ・ 空気式

自動閉鎖機構は、定格入力 DC-24V、0.6A 以下、自動復帰機構が電動式の場合は、入力 DC-24V、25A 以下とする。

(3) 日本防排煙工業会の自主適合マーク貼付品とする。

6 防火ダンパー

(1) 5 防煙ダンパーに準じたものとする。

(2) 日本防排煙工業会の自主適合マーク貼付品とする。

7 ピストンダンパー 復帰方式 ・ 自動式 ・ 手動式

8 チャンバー等

(1) 外壁に面するガラリに直接取り付けるチャンバーには、排水を設ける。

(2) シーリングディフューザー（アネモ型）、線状吹出口（ブリーズライン）のチャンバーは、図示による。

9 温度計

標準仕様書及び標準図によるほか、主要な機器類の出入口の配管に設ける。

10 圧力計及び連成計

ポンプ等の吸込み管に取り付ける場合は、連成計とする。

11 瞬間流量計及び流量測定口

標準仕様書及び標準図によるほか次による。

(1) 冷温水管寄せの各送り管 ・ 瞬間流量計 ・ 測定用タッピング （・ 設ける ・ 設けない）

(2) ボイラ又は熱交換器の温水出口 ・ 瞬間流量計 ・ 測定用タッピング （・ 設ける ・ 設けない）

12 オイルサービスタンク

(1) 油面制御装置 ・ 国土交通省型 ・ 市販品（防爆型）

(2) 防油提 ・ 本工事 ・ 別途工事

13 オイルタンク

槽形式、容量等は主要機器表によるほか、次による。

(1) 油タンクふた ・ 本工事（・ 国土交通省型 ・ 市販品） ・ 別途工事

(2) 遠隔油量指示計 ・ 抵抗変化式 ・ 磁歪式

形式 ・ 国土交通省型 ・ 製造者規格品（・ 電気式 ・ 空気式）

- (3) 計量尺 ・本工事（計量口は施錠付き） ・別途

計量尺は、青銅製又は黄銅製及びアルミ製とし、100L 実測目盛り刻印とする

- (4) 地下オイルタンク外面の保護方法は「危険物の規制に関する政令」及び「危険物の規制に関する規則」による方法とする。また、事前に関係機関と打ち合わせを行うこと。

- (5) 危険物標識板 鋼板製メラミン焼付け仕上げとし、槽最寄の適切な位置に自立型のものを取り付ける。

14 消音内貼り

消音板厚さ

- (1) ダクト保温厚さ 50mm とする箇所は、消音板 50mm とし、25mm とする箇所は 25mm とする。
(2) 内貼りチャンバー類の寸法表示は、外法寸法とする。

15 保温及び塗装

- (1) 保温

- ・標準仕様書による。
- ・屋外露出管（温水管、給水管）の保温材の厚さは、呼び径 25 mm 以下は 30 mm、呼び径 32 mm 以上のものは、40 mm 以上とする。

- (2) 外気取り入れダクトの保温 ・行う ・行わない

- (3) 油配管の土中埋設部は、消防署の指示によるか又は標準仕様書による。

第 11 章 排煙設備工事

- 1 排煙ダクト ・垂鉛鉄板製 ・鋼板製(1.6mm)
- 2 排煙口の開放装置 ・手動開放装置 ・煙感知器と連動する自動開放装置 ・遠隔操作方式による開放装置
- 3 排煙風量の測定方法

排煙風量を測定する場合は、JIS-A-4303「排煙設備の検査標準」4.2.1(2)(C)による。

第 12 章 換気設備工事

- 1 準用事項 第 10 章空気調和設備工事の当該事項に準じる。

- 2 一般湯沸器の天蓋 ・別途 ・本工事

- 3 厨房用天蓋

- (1) 材種 ※ステンレス製(SUS304、厚さ 1.0 mm 以上とする。)
(2) 帯板（フードから天井まで） ・別途 ・本工事
(3) グリスフィルターは予備品として納入する。

- 4 保温

- (1) 多湿箇所（・浴室 ・厨房）の外気取り入れ風道は保温する。ただし、送風、排風機は除く。
施工範囲は、図示による。
(2) 全熱交換ユニット用のダクト（・外気取り入れ ・排気）は保温する。
施工範囲は、図示による。

第 13 章 自動制御設備工事

- 1 システム構成及び機能 図示による

- 2 制御方式 ・電気式 ・電子式 ・デジタル式
- 3 中央監視装置 ・中央処理装置 ・補助記憶装置 ・表示装置 ・グラフィックパネル ・操作器
 ・伝送制御装置 ・電源装置
- 4 周辺装置 ・印字装置 ・アナンシエータ ・インターホン ・ハードコピー装置
- 5 端末装置 ・リモートステーション (RS) ・ダイレクトデジタルコントローラ (DDC)
 ・ユーザーターミナル (UT)

6 表示及び警報

室内外の温湿度表示、冷温水の温度表示、運転・故障・警報の表示のほか、細目は図示による。

7 自動制御装置

- (1) 図示されていない配線配管等の本数及び寸法は、製造者の仕様としてよい。
- (2) 自動制御回路には、サージ防止装置を ・取り付ける ・取り付けない

8 電気計装用配線

- (1) 電線及びEMケーブルは、標準仕様書第4編1.5.1表4.1.11による。
- (2) 屋外・屋内露出の電線は、図面に特記がなければ金属管配線とする。
- (3) 天井内隠ぺいの配線は、図面に特記がなければケーブル配線とする。

9 その他

- (1) 室内形の温度検出器、湿度検出器はケース付きとし、取付け位置は標準仕様書による。
- (2) 地震感知器の取付位置は標準仕様書による。
- (3) 地震感知器の作動により、バーナー及び給油用電磁弁等を作動させ、速やかに燃焼を停止、消火させる。

機 械 設 備 図 示 記 号 一 覧 (1)

図 示 記 号	名 称	備 考	図 示 記 号	名 称	備 考
給 水 管			排 水 管		
—— VLP ——	水道用硬質塩化ビニルライニング鋼管	一般配管	—— VP ——	配管用炭素鋼鋼管	一般配管
—— VLPD ——	水道用硬質塩化ビニルライニング鋼管	土中埋設	—— LP ——	硬質ポリ塩化ビニル管	土中埋設
—— VW ——	水道用硬質ポリ塩化ビニル管	一般配管	—— D-VA ——	排水・通気用鉛管	一般配管
—— HI ——	耐衝撃性塩化ビニル管	土中埋設	—— ————	排水用硬質塩化ビニルライニング鋼管 (内面)	一般配管
給 湯 管			—— ————	排水用鋳鉄管	一般配管
—— HTLP	水道用耐熱性塩化ビニルライニング鋼管	一般配管	—— ————	遠心力鉄筋コンクリート管	一般配管
—— HTLP	水道用耐熱性塩化ビニルライニング鋼管	一般配管	—— = TMP	耐火二層管	一般配管
—— SUS	ステンレス鋼鋼管	一般配管	—— REP-VU	再生硬質塩化ビニル管 (排水用リサイクル硬質塩化ビニル管)	土中埋設
—— SUS	ステンレス鋼鋼管	一般配管	—— RF-VP	再生硬質塩化ビニル管 (建物排水用リサイクル発泡三層硬質塩化ビニル管)	土中埋設
消 火 管			冷 水 管		
—— X ——	配管用炭素鋼鋼管	一般配管	—— C ——	配管用炭素鋼鋼管	
—— X ^V S(P S)	硬質塩化ビニル(ポリエチレン)外面被覆鋼管 (白管に被覆)	土中埋設	—— CR ——	配管用炭素鋼鋼管	
通 気 管			温 水 管		
----- VP -----	配管用炭素鋼鋼管		—— H ——	配管用炭素鋼鋼管	
	硬質ポリ塩化ビニル管		—— HR ——	配管用炭素鋼鋼管	
冷 却 水 管			冷 温 水 管		
—— CD ——	水道用塩化ビニルライニング鋼管		—— CH ——	配管用炭素鋼鋼管	
—— CDR ——	水道用塩化ビニルライニング鋼管		—— CHR ——	配管用炭素鋼鋼管	

機 械 設 備 図 示 記 号 一 覧 (2)

図 示 記 号	名 称	備 考	図 示 記 号	名 称	備 考
膨 張 管 —— E ——	配管用炭素鋼鋼管				
冷 媒 管 —— R —— —— RR —— —— R —— —— RR ——	銅管 銅管 銅管 (被覆) 銅管 (被覆)				
油 管 —— O —— —— OR ——	配管用炭素鋼鋼管 (黒管) 配管用炭素鋼鋼管 (黒管)				
油用通気管 —— OV ——	配管用炭素鋼鋼管				
低圧蒸気管 —— / —— ----- / -----	配管用炭素鋼鋼管 (黒管) 配管用炭素鋼鋼管 (黒管)				
ガ ス 管 —— P L P —— —— G ——	ポリエチレン被覆鋼管又は 塩化ビニル被覆鋼管				